

375.9
Sa14
資料室

編所輯編堂省三

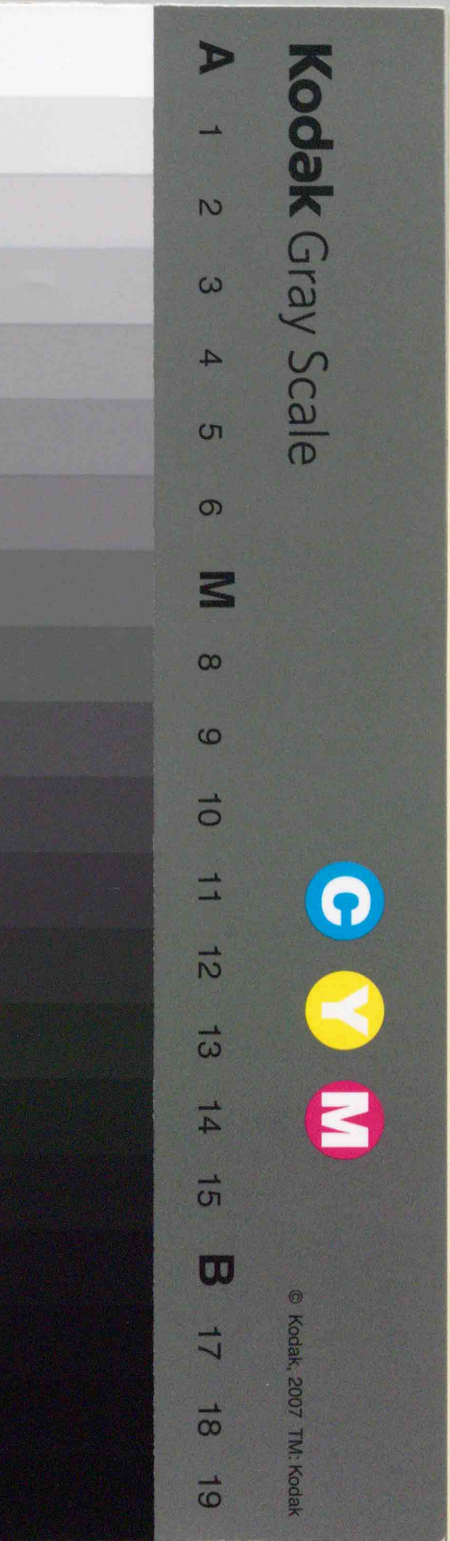
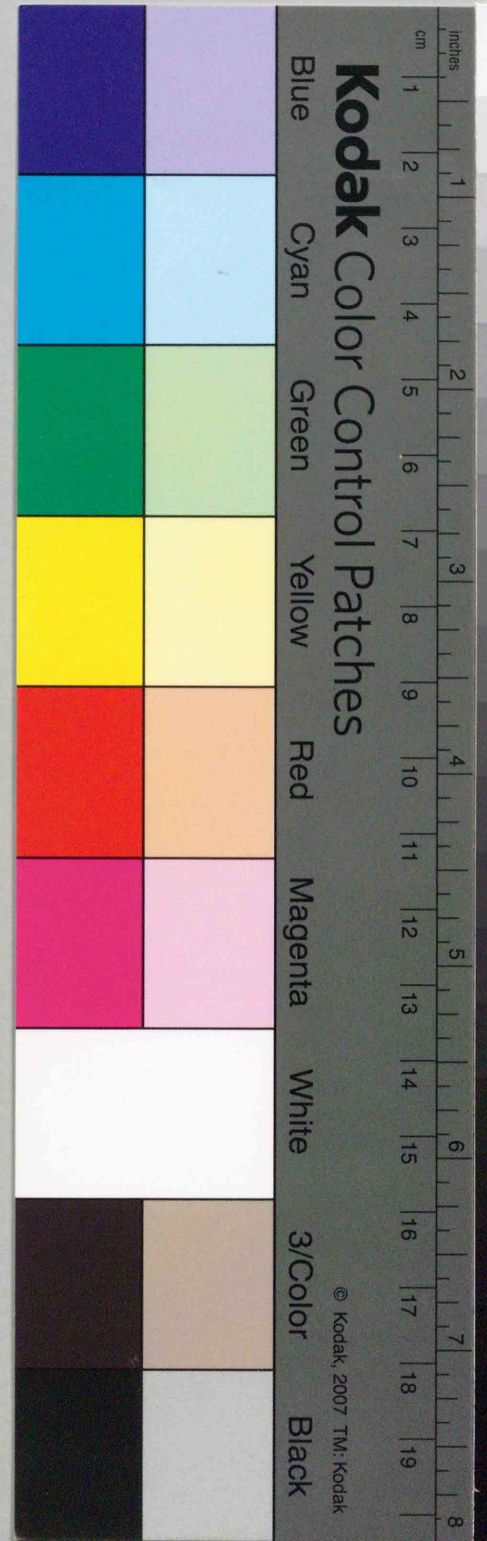
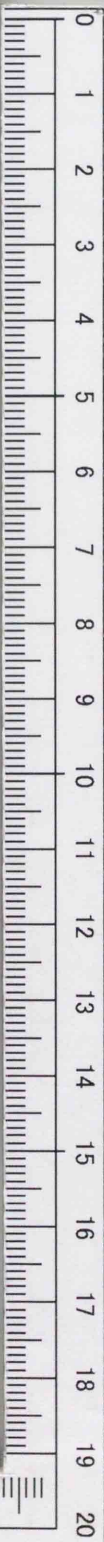
新制 最近日本地理

版訂增

據準表乙

阪大・堂省三・京東

教
4
20



42794

教科書文庫

4

290

41-1933

20000
53587



© Kodak, 2007 TM: Kodak

© Kodak, 2007 TM: Kodak

日一十月一年八和昭
濟定檢省部文
用科理地校學中

教科書文庫
4
290
41-1933
2000053587

資料室

375.9
Sa14

編所輯編堂省三

制新

最近日本地理

版訂增

據準表乙

阪大・堂省三・京東

広島大学図書
2000053587




日光東照宮の陽明門

日光廟の華麗は内外に知られてゐるが、寫眞はその最も壯麗な部分を示したものである。正面の石階上にあるのは世に日暮門と呼ばれる陽明門で、その左側にあるは鼓樓、前の小さは釣燈籠の覆屋、鼓樓の後に見えるは藥師堂である。又階下の鳥居の左に建つは輪藏、之と列ぶのは水盤舎、近く右方に一部を現はすは上神庫である。四邊を閉す老杉の深緑と燦爛たる丹碧との對照は、自然の妙と人工の美との調和の極致である。



日光東照宮の陽明門



大阪の治安川口



東京の一部

東京市の一部

政治的中心で又經濟的中心たる東京、その東京の中央を横ぎつて隅田川が流れてゐる。圖は兩國附近の中空から上流を見た光景で、右手に近く建築中の塔形の建物は、震災當時の悲惨を物語る被服廠跡の記念堂である。

大阪の安治川口

物資吞吐の大門戸である安治川口の光景を中空から眺めたもので、水面には大小の船舶が來往織る如く、無數の煙突から吐く煤煙は市街を模糊の裡に包み、如何にも商工都市の霸稱を辱かしめない感がある。

辯言

本書は中學校(表)及び師範學校の教科用書として編纂したもので、新制最近世界地理及び最近地理通論と連絡し、相待つて地理教授の本旨を達成することに努めた。

本書の編纂に當り意を用ひた要點は、大要左の通りである。

- 一、初等教育との連絡を考慮して内容の程度を高め、教材を有機的に統合し、總括的知識を得しめるやうに努めた。
- 一、教授の單元に十分の注意を加へ、通説の項では稍廣い範圍を採つたが、各種の統計が府縣別になつてゐる現在では、府縣をも全く無視し得ないので、處誌では之を活して、更に幾多の小單元に分けた。
- 一、人文上の知識、殊に産業は現在の地理學上最、必要であるに拘らず、産物は動もすれば品名の羅列に陥り易い傾があるから、深くこの點に注意し、一事一項必ずその知識を總括せしめるやうにした。故に必然の結果として、産業圖統計圖等を多く加へることになつた。

一、挿畫は嚴選の上一々略解を附し、且多數の別頁圖を挿入して、記事の理解と興味を喚起とを助けた。

一、人口は昭和五年國勢調査の結果によつたが、その後分合の行はれたものは之に訂正を加へ、人口二萬以上の都邑を各府縣の初頭欄外に列記して、概觀に便ならしめた。



一、市と朝鮮の府とは太字を用ひ、又地方廳所在地(□)、名勝舊蹟(○)、地方名(○)及び區域外の都邑(●)等には特殊の記號を附して、他の一般都邑(●)と區別した。

一、統計は成るべく最近の數を採り、尺度はメートル法を原則としたが、航路は一般の慣用により哩を用ひた。

本書は姉妹篇の世界地理新刊と共に、變動事項を修正して内容を一新した。是れ偏に教官各位が教授の實際上より寄せられた貴き注意の結果である。謹んで深甚の謝意を表する。

昭和七年八月

編者識

新制最近日本地理增訂版 目次

大日本帝國……………一

前篇 地方誌……………四

第一章 關東地方……………四

第二章 奥羽地方……………七

第三章 中部地方……………七

第四章 近畿地方……………七

第五章 中國地方……………七

第六章 四國地方……………一〇五

第七章 九州地方……………一〇五

第八章 北海道……………一三六

第九章 樺太(南部)附北樺太……………一五〇

第十章 臺灣……………一五七

第十一章 朝鮮……………一七

新制 最近日本地理 增訂版 目次終

後篇 總說	一八四
第一章 版圖	一八四
第二章 地勢	一八四
第三章 海洋	一八七
第四章 氣候生物	一九〇
第五章 住民	一九三
第六章 政治	一九四
第七章 産業	一九六
第八章 交通	二〇三
第九章 結論	二〇七

新制 最近日本地理 增訂版

大日本帝國

我が帝國は、アジヤ洲の東邊に沿ふ日本列島と、大陸から突出せる朝鮮半島から成り、その他支那の關東州を租借し、南洋諸島の統治を委任されてゐる。日本列島は、三の弓形をなして花綵狀に列び、その長さは約四千七百軒(約一千二百里)に及ぶ。

我が國は、古來島國であつたが、大陸との間は海も餘り廣くない上に、壹岐對馬等が飛石の如く點在し、大陸との交通を助けて、早くその文明を傳へると共に、又その大陸から離れてゐたことは、固有の文化を産み、卓越せる國民性を作り、世界無比の歴史を有する主な原因となつた。その後樺太を得、朝鮮を併

帝國の四極

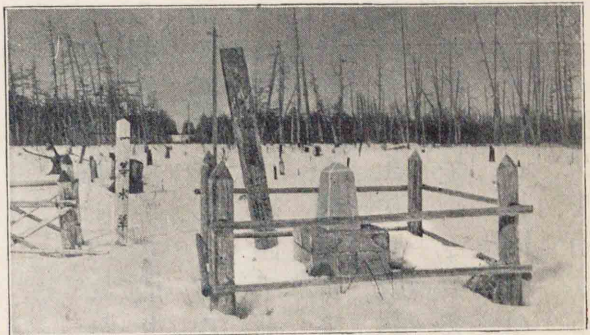
極北	千島の阿賴度島北端 <small>(北緯五〇度五五分)</small>
極南	臺灣の七星岩南端 <small>(北緯二度四五分)</small>
極東	千島の占守島東端 <small>(東經一五六度三分)</small>
極西	澎湖諸島の花嶼西端 <small>(東經一九度一八分)</small>

圖 樺太に於ける日露の境界標

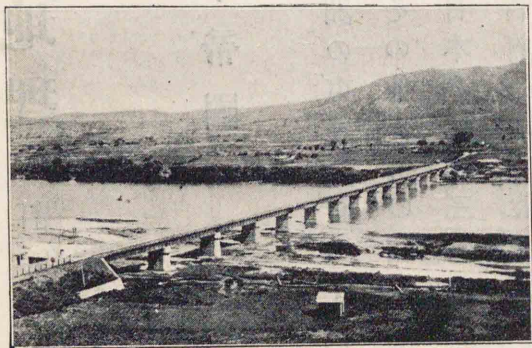
圖 朝鮮と滿洲國とを連ねる豆満江の鐵道橋

圖 臺灣南端の南岬(鶯鑾鼻)

面積の概數(方呎)
 本州島 三六、〇〇〇
 朝鮮半島 三一、〇〇〇
 北海道本島七、〇〇〇
 臺灣本島 六、〇〇〇
 九州島 六、〇〇〇
 樺太南部 六、〇〇〇



等しく重視してゐる處で、我が國は、近年南洋諸島の委任統治を行ふに至り、太平洋に



せ、關東州を租借して、他國と境を接するやうになり、各般の事情が大いに變つて來た。列島の東南は、廣い太平洋を隔てて、南北アメリカ及び大洋洲と對してゐる。太平洋は、將來に於ける世界最要の通商路として、列強の

四國島 一六、〇〇〇
 其他 一、〇〇〇
 合計 六四、〇〇〇
 人口の概數(萬人)
 本州 四六
 四國 三三
 九州 二六
 北海道 二六
 朝鮮 三六
 臺灣 三三
 樺太 三三
 大約合計 九四〇

對する關係が、著しく優秀となつた。我が國の面積は約六十七萬方呎(四萬四千里)あつて、本土即ち内地はその半以上を占め、イギリス・イタリア等の本國よりも遙に大であるが、植民地即ち

朝鮮	北海道	12	本州	33
	九州	5.5		
	其他	3		
	臺灣	5.5		
	樺太	5.5		

面積の比較 (比百分す對に面積全は字數)

朝鮮	内地
23%	72%
樺太	臺灣
5%	5%

人口の比較 (比百分す對に人口全は字數)

畿道		東海道		北陸道		山陽道		山陰道		南海道		西海道		北海道	
山城	伊賀	駿河	上總	近江	美濃	若狹	佐渡	播磨	丹波	石見	紀伊	筑前	日向	日向	日向
大和	河内	尾張	相模	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後
和泉	攝津	武藏	上野	陸奥	羽前	越後	越前	安藝	安芸	土佐	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
伊勢	伊豆	常陸	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
甲斐	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
下總	常陸	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
岩代	陸奥	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後
美濃	飛騨	信濃	陸奥	越前	能登	備前	備中	備後	出雲	肥前	肥後	肥前	肥後	肥前	肥後

外地の面積は、歐米の列強に遠く及ばない。人口は九千萬に餘り、その中内地は約六千四百萬を有し、列強に比して少しも遜色なく、密度は世界第四位である。本州・四國・九州は帝國の主要部で、最早く開け、北海道も明治維新前から既に我が版圖であつた。此等を内地と呼び、新しく領土となつた臺灣・樺太・朝鮮等を植民地又は外地といふ。内地は往時畿内・八道・八十五國に分れてゐたから、今でもその名稱を用ひることがある。

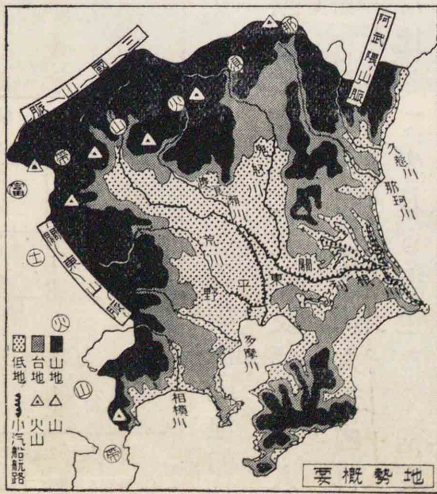
前篇 地方誌

本書は、自然の狀態と、行政上の區分とを參酌して、本州を關東・奧羽・中部・近畿・中國に分け、之に四國・九州・北海道と、新領土の樺太・臺灣・朝鮮とを加へて、全國を十一地方とした。

第一章 關東地方

通説

本州の東南部を占め、日本最大の平野を中心として、山と海とに囲まれた自然の一區域で、昔から關・八州の名がある。早く政治上の中心となつたが、江戸幕府の時から發達が殊に著しく、今は殆どあらゆる方面に於いて、全國の中樞となつてゐる。政治上は一府六縣に分ける。



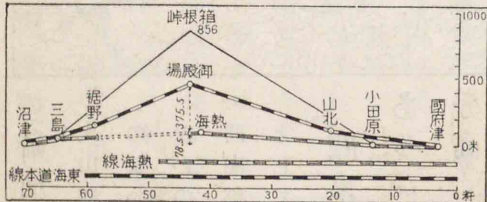
地形 大體に北部山地・西部山地・關東平野に分れ、南部

面積 約31000方軒
人口 約177萬

(府縣名)(廳所在地) (管轄國名)
東京府(東京市) 武蔵一部・伊豆七島・小笠原諸島
神奈川縣(横浜市) 武蔵一部・相模
埼玉縣(浦和町) 武蔵大部
群馬縣(前橋市) 上野
栃木縣(宇都宮市) 下野
茨城縣(水戸市) 下總一部・常陸
千葉縣(千葉市) 安房・上總・下總一部

山脈・火山帶
阿武隈山脈 米
筑波山 八
三國山脈
關東山脈
那須火山帶
男體山 一四六
那須山 一七
赤城山 一八
榛名山 一四
妙義山 一四
富士火山帶
箱根山 一四

奥州街道の通路のみは自然の低地である



には丘陵性の半島部がある。
(1) 北部山地の東部には、阿武隈山脈の餘勢が起伏して、その末端に筑波山が聳え、西部には三國山脈が連り、那須火山帶が之と並走して、男體・赤城・榛名・妙義等の火山を起してゐる。
(2) 西部山地は關東山脈に屬して、その中に秩父盆地を含み、西南部には富士火山帶に屬する箱根山がある。此等の山地は、殆ど一続きとなつて他地方とを境し、封建時代には、軍事上の要害となり、主要街道には、自然の險道や關所などがあつたが、今も處々に鐵道

圖解 相模灣岸の砂濱

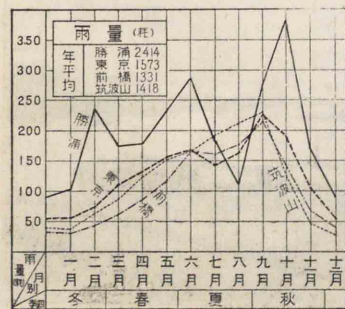
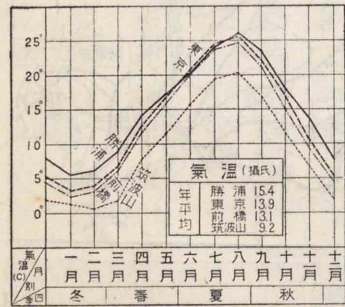


單調な砂濱が多く、良港灣はない。東京灣岸には、我が國の首都と、その門戸たる大貿易港が發達し、灣口の浦賀海峽は、帝都防備の第一線に當り、横須賀を軍港とし、對岸の館山灣には、海軍航空隊がある。

氣候 氣候は概して良好で、雨量も潤澤である。殊に相模灣及び房總半島の沿岸地方は、冬も暖で、夏は割合に涼しく、首都との交通も便利なので、避暑

避暑の好適地である。

相模灣の沿岸地方は湘南と呼ばれ、氣候がよいのみならず、史蹟が多く、風光が優れ、交通機關もよく整つて、京濱地方に對する第一の保養地帯となり、房總半島も環狀



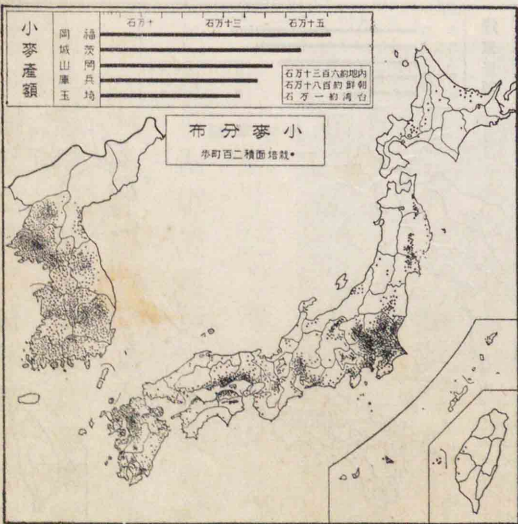
近海には日本海流(黒潮)が流れてゐるが暖流として氣温を高める働きは多くない

鐵道の開通によつて、第二の保養地となつた。此等の保養地帯には、蜜柑、枇杷等の果實を出し、又處々に野菜の促成栽培が行はれる。日光、箱根等の高地は、夏が涼しく、避暑地として知られてゐる。

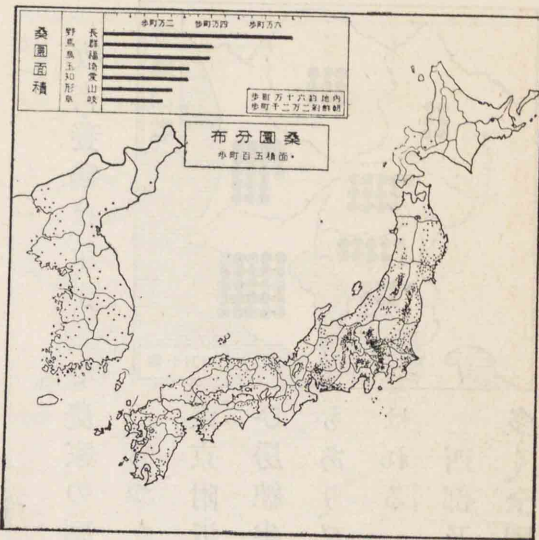
雨は夏に多く、殊に初夏の梅雨期、初秋の颱風期には、雨量が大であるが、冬は強勢な西北季節風の齎す水分も、山地の爲に奪はれて乾燥し、北陸の降雪地方と、著しい對照を示してゐる。

産業 平野が廣く氣候が溫暖

で、夏に雨の多いことは、最も農業に



繭製絲工場の選
繭場



發達し、小規模の家内工業によるものは、この地帯の到る處に行はれる。絹織も古い歴史を有し、桐生は既に足利時代の頃、京都の西陣と並稱された程である。綿織及び絹織は、埼玉、栃木等の諸縣から産し、此等は工場製作の外農家の副業(賃機)によるものも多い。

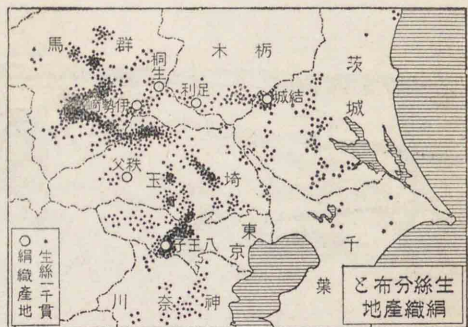
沿海地方は各種の魚族に富み、且大消費地



れにつれて發達した。前橋、富岡(以上群馬)、本庄、深谷、熊谷(以上埼玉)等は、製絲業の中心地で、桐生(群馬)、足利(栃木)、八王子(東京)は、關東の三大機業市である。

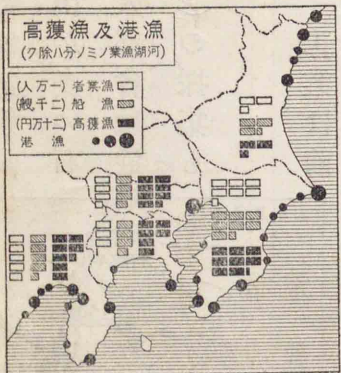
養蠶製絲は、古くからこの地方に行はれ、群馬縣は我が機械製絲の發祥地である。今は製絲の中心地が處々に

東京灣の海苔産額は全産の約九割弱を占める
圖解海苔の養殖



類(主に千)等の養殖が行はれる。

鑛産は足尾(栃)、日立(茨)の銅が最も主要なもので、日立は買鑛による金、銀の製鍊も盛に



も近いから、鰯、秋刀魚等の濱漁業及び鯖、鯉等の沖漁業が盛に行はれる。兩半島には、勝浦、館山、三崎等の漁港があり、利根川口の銚子は、港口の狭い缺點はあるが、東日本最大の漁港である。此等を根據地として、遙に南洋方面に遠洋漁業を行ふ者もある。東京灣には海苔(大森附近)貝

常磐炭は主として
両毛地方、長野方
面の製絲地へ送り
又京濱地方へも供
給する輸送に船便
のないが大缺點
である

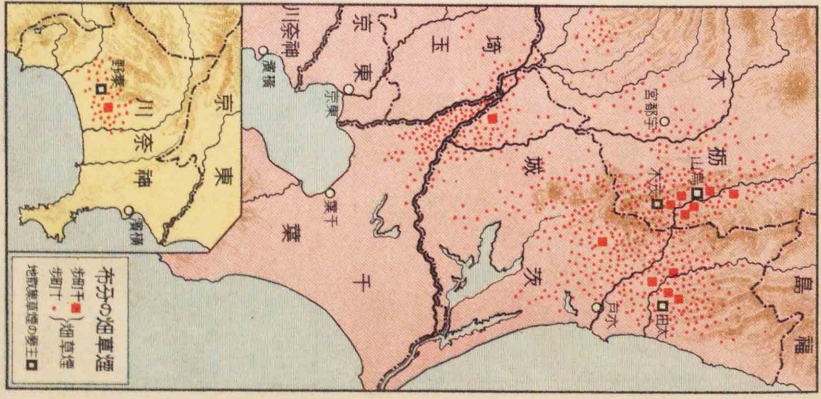
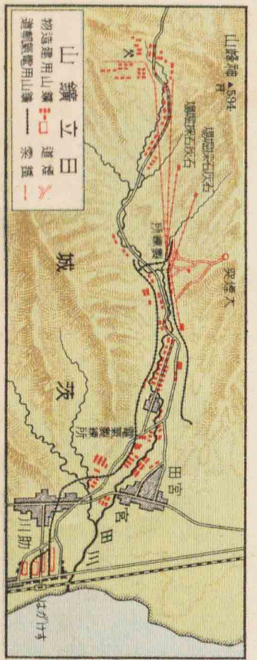
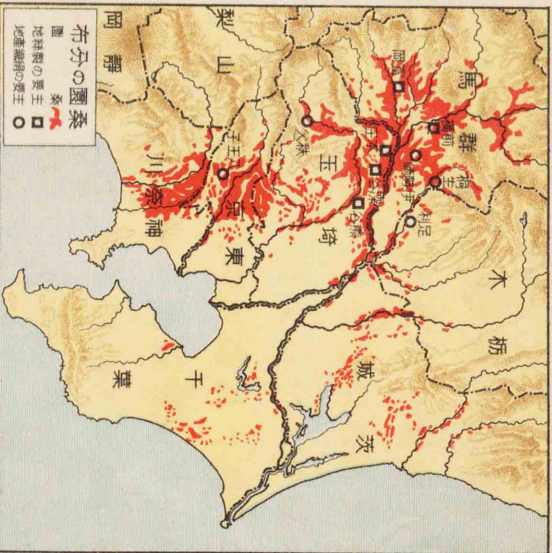
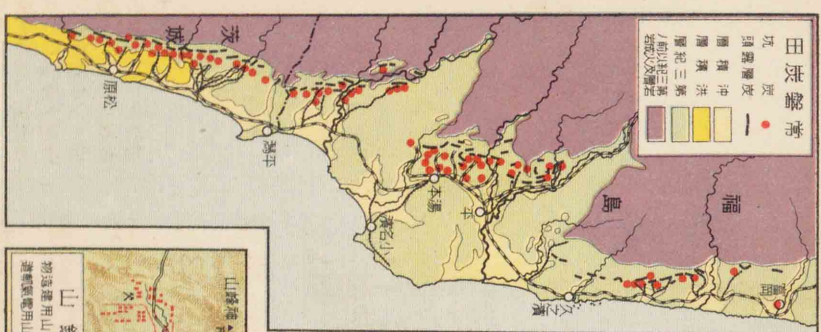
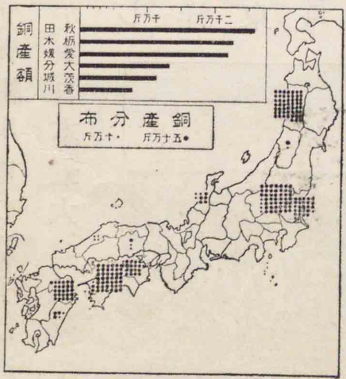
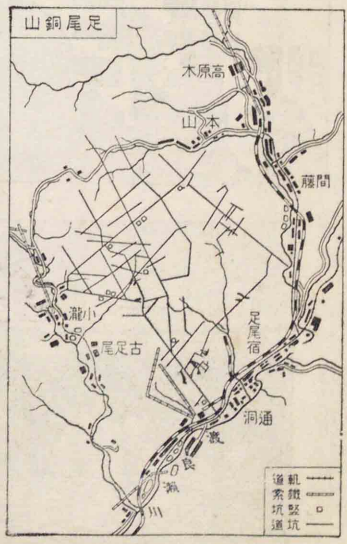
圖 多摩川の川砂
利採集



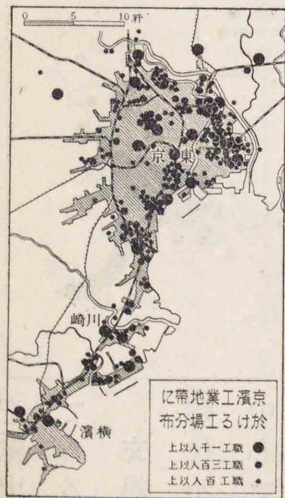
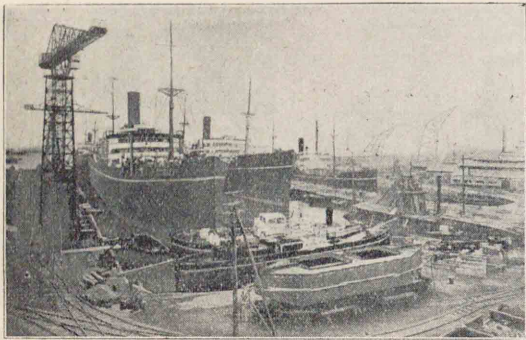
行はれる。茨城縣の北部は、常磐炭
田の一部で、石炭の産出が多い。石
材も處々より産し、又大都會に近
い關係上、川砂利(荒川・多)の採集も
輕視し難い。

工業は前

記の機業の外、東京灣
岸に京濱工業地帯が
ある。京濱地方は人口
が稠密で、勞力を得易
く、水力の供給も容易
で、原料及び製品の輸
送にも便利な爲、東京及びその四近から、川崎
を経て横濱に至る沿海一帯は、大小各種の工



圖解 横濱の造船場



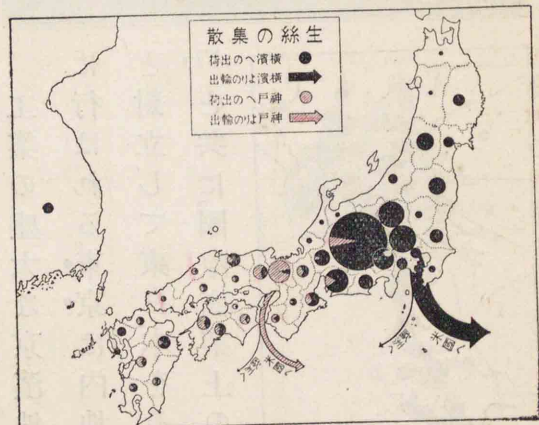
場が列び、相連つて一大市街たる觀を呈してゐる。工場は纖維工業
(紡績・綿織・メリヤス・毛織等)・化學工業(洋紙・砂糖・藥品・肥料・麥酒等)・機械製造等、殆ど各種のものを網羅し
てゐるが、東京市の内外に大小の印刷工場が多く、圖書出版の隆盛
なことは、特に他地方に卓越してゐる。されど京濱工業地帯は、對内
的の產物が主で、輸出向の生産品は割合に少い。

工業の盛大な京濱地方は、商取引も亦活潑
に行はれる。東京は内地商業の大中心で、大阪
と對立して東日本をその商圈とし、横濱は神
戸と共に、國際商業上の二大關門であるが、そ

の背後地は、京
濱地方よりも、
寧ろ奥地の製絲
地・機業地を主
とし、生絲・絹織

圖 輸出生絲の検査所

- 1 東京・神戸間
 - 2 東京・名古屋間
 - 3 大宮・高崎間
 - 4 高崎・宮内間
 - 5 高崎・新潟間
 - 6 東京・青森間
 - 7 東京・岩沼間
 - 8 東京・銚子間
- 東海道・東北常磐・高崎(信越線に続く)線には急行列車が運轉される

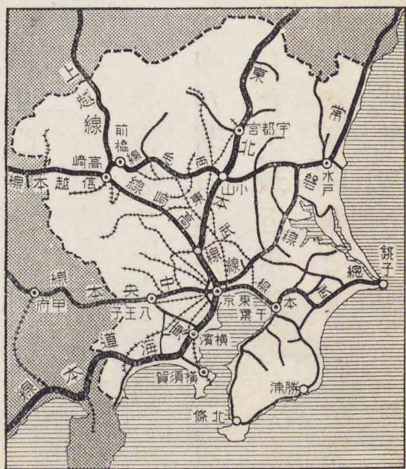


を輸出品の大宗としてゐる。

交通 東京は江戸時代から、全国交通の中心で、主要の街道は此處から諸方に通じ、近年自動車の普及と共に、その改修が著しく進んだ。鐵道網の密なことは全国第一で、東海道、中央、高崎、上越、信越、東北常磐、總武等の幹線は、多く東京を起點とする。東海道線は、設備も運轉回数も全国第一で、東北線、山陽線と連つて、表日本の大幹線をなす。この他、東京市の内外には、電車網が発達し、都市の膨脹が著しい。海上交通は、横濱を大中心として、内外の要港と航路を通じ、東京

圖 東京停車場

特殊の都市には大學都市(國立その他)・門前町(成田)等がある



も内地運輸の中心となつてゐる。定期航空路は、東京から大阪及びその以西と通じ、新潟その他

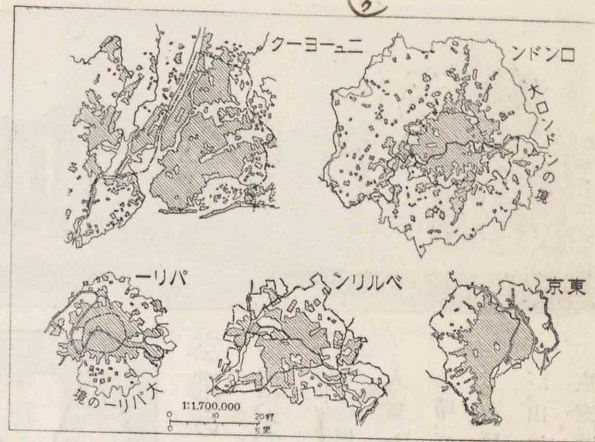
の近距離間にも開かれ、東京(羽田)には、航空の設備が整つてゐる。國際的通信に當るものに、太平洋横斷の海底電線と、東京無線電信局(送信所 廣島(福島) 富岡(南) 小山(栃木) 検見川(千葉) とがある。人口と都會 人口密度は我が國第一であるが、その分布は略、地形・産業等によつて決定される。京濱地方は最も稠密で、養蠶機業地帯が之に次ぎ、相應の人口を收容してゐるが、山地には著しく疎である。都會の分布も亦之と一致し、東京灣の西岸には大都市が並び、山麓地方にも有力な都



京東た見てしと心中を川田隅

く多が場工大はにと近附口河と流中のそ、し流貫を中市の京東は川田隅
連を之が橋長の多数、れらめ埋に家人は岸兩、で繁頻が復往の船てつ従
壯る斯てしに、忽又、く如の夢ものたつたと土焦が面一邊のこ。るゐてね
橋、で景光ため眺を流上らか流下は圖。るあでく如の夢ものたし活復を觀
に僅に上の翼、(づえ見)橋國兩・橋大新・橋洲清・橋代永、とるげ舉に次順を
るあで橋間言・橋鐵道鐵武東・橋妻吾・橋形駒・橋厩が次、橋前藏がるえ見

東京府 千人
東京市 四七
八王子市 五
東京市は三十五區に分れる



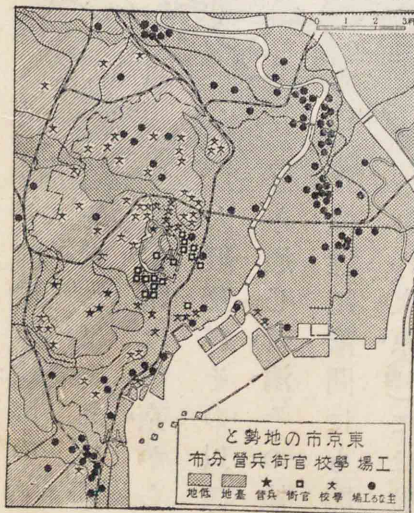
中心である。人口の集中が著しく、接
續町村の大膨脹を來したが、最近市
域を擴張して、世界屈指の大都會と
なつた。地形上臺地(山)と低地(町)とに

首府で政
治經濟學
術等の大

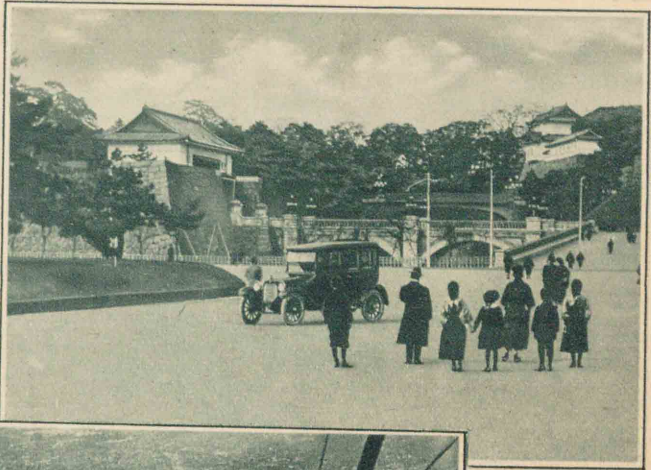
東京府は東京市とその近郊及び西
部山地の二區に分れ、別に離れて島嶼部
がある。東京市は隅田川に跨り、帝國の

處誌

會がある。平野の農業地方には、農産中心の小都
市が多く、保養地帯や遊覽地にも、小都會が發達
してゐる。



と勢地の市京東
布分管兵衛官校學場工
地區 地臺 管兵 衛官 校學 場L&S主

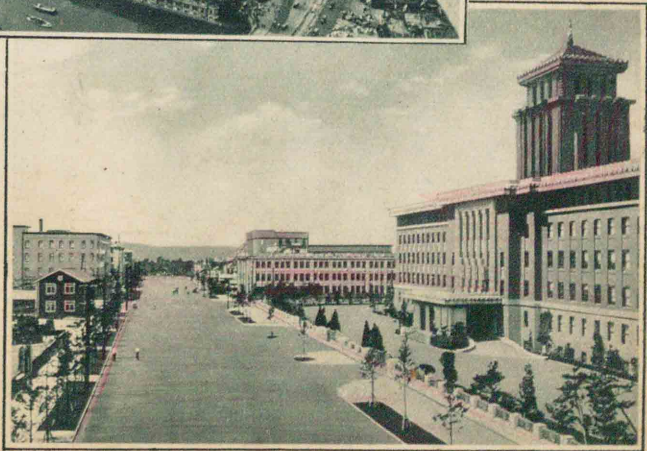


二重橋

遠景の鐵橋と近景の石橋とから成り御所は圖の右方に當つてゐる



日本橋邊の上空から見た東京
近く半分見えるは日本橋、大建物は三越呉服店・日本銀行等



横濱の市街

横濱公園から海岸通に至る日本大通で右側の大建物は神奈川縣廳

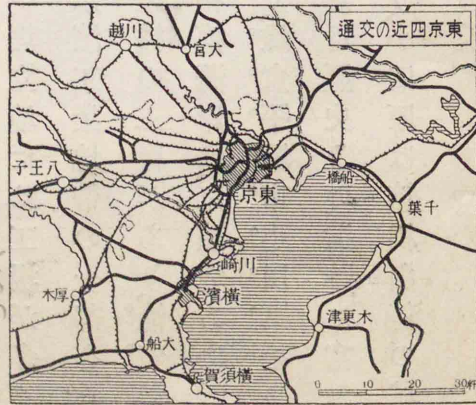
東京には大審院・控訴院・近衛及び第一師團司令部等がある又東京帝國大學・商科大學・工業大學・文理科大學等を始め各種の學校が多い

圖解 日比谷公園の上空から見た丸之内の光景

圖解 新開の住宅地 (田園調布の一部)



分れ、宮城は臺地の縁端にあつて、附近に官廳が多い。臺地は主に住宅地で、學校・兵營等も多く、低



地の沿海及び隅田川以東は工業地となり、其等の中間が主要の商業地域で、丸之内を中心とする附近には、高層建築が密集してゐる。市内には明治神宮を始

社寺には靖國神社
淺草寺・泉岳寺・増
上寺等がある

●神奈川縣 千人
横濱市 六〇〇
横須賀市 二〇〇
川崎市 一〇〇
平塚市 三〇
鎌倉市 三〇
藤澤市 三〇
小田原市 三〇
相模原市 三〇

横濱市は五區に分
れる
●横濱港(近景
は山下公園)
横須賀に第一海軍
區鎮守府がある
浦賀に近い久里濱
はペリーが上陸し
た地である
鎌倉には鶴ヶ岡八
幡宮・建長寺・圓
覺寺・大佛・鎌倉
宮(祭神護良親王)
等がある

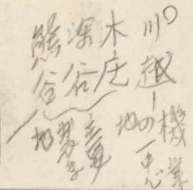


め、著名な社寺勝地⁽¹⁾が散在し、交通機關も整つて、
觀光の客が常に多い。山地に近い八王子市は、
機業の中心地で、附近に多摩御陵がある。

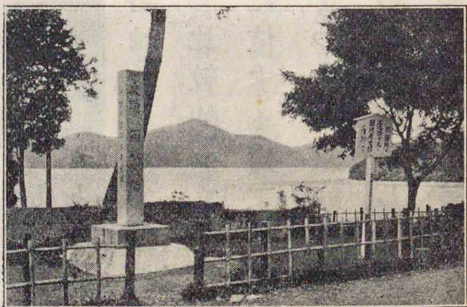
●神奈川縣は、東京灣岸相模灣岸及び背後の
丘陵・山地に分れる。東京灣岸の横濱市は、港灣
の施設がよく整ひ、内外汽船の出入が多く、海岸
には倉庫や船渠が並び、埋立地には工場が多く、
隣接の川崎市と共に、京濱工業地帯の一部をな
す。横須賀市には造船造機の工廠があり、浦賀で
も造船が行はれる。相模灣岸は、京濱地方に對
する第一の保養地帯で、鎌倉・平塚市・小田原その
他の小都會が多い。鎌倉は歴史上の遺跡に富み、
平塚は工業が盛となり、小田原は箱根山麓の城
下町で、東海道の重要な宿驛であつた。

●箱根山の一部
と蘆湖(上圖は箱
根關址)

●埼玉縣 千人
川越市 三〇
浦和市 三〇
熊谷市 三〇
大宮市 三〇



箱根山は二重式火山の代表的の
もので、大きな舊火口の中に、神山
駒岳・二子山等の火口丘を噴出し、
火口原には蘆湖を湛へ、それから
流出せる早川の溪谷には、處々に
温泉が湧き、勝景の地も多く、登山
電車も設けられ、遊覽・保養の客が
多い。蘆湖畔には昔の關所の址が
残つてゐる。



●埼玉縣の要部は、關東平
野の低地及び臺地で、西部山地には秩父盆地が
ある。⁽¹⁾低地にある浦和・大宮は、共に大都會に近
い爲、獨立性に乏しく、大宮には鐵道の工場があ
る。⁽²⁾臺地・盆地は養蠶機業地帯の一部を占め、そ
れに關する都會が多い。川越市は機業の一中心
で、所澤は我が航空術の發祥地である。熊谷は繭

熊谷の南方に當る吉見に百穴がある

圖 熊谷所澤の飛行場

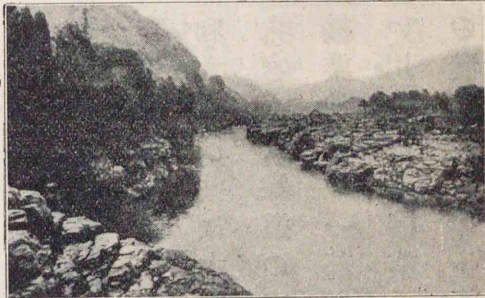
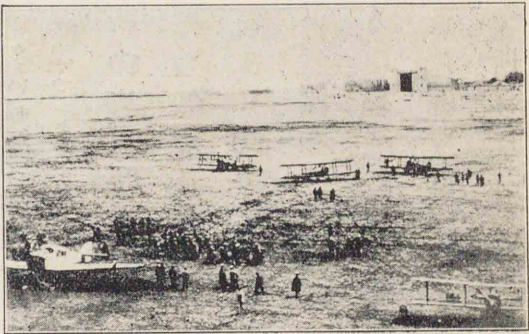
圖 秩父の長瀨

群馬縣 千人

前橋市 益
高崎市 益
桐生市 益

圖 碓氷峠のアプト式軌條

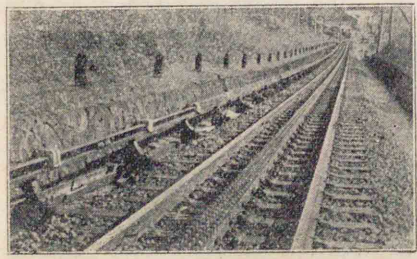
碓氷峠のアプト式軌條
ト式軌條



平野は狭いが、山麓地方

の取引及び製絲業が盛に行はれる。秩父盆地は機業が盛で、秩父はその中心である。この地方は、我が國地質學の搖籃と稱せられ、長瀨の勝地がある。

群馬縣は平野と山地とに分れる。



と共に、養蠶機業地帯の主力で、比較的大きな都會が多い。高崎市は鐵道の要地に位する商工業都市で、信越線はアプト式軌條によつて碓氷峠を越える。前橋市は繭の市場、製絲業の中心地として活況を呈し、桐生市は關東第一の機業市で、伊勢崎も銘

圖 桐生の織物工場

栃木縣 千人

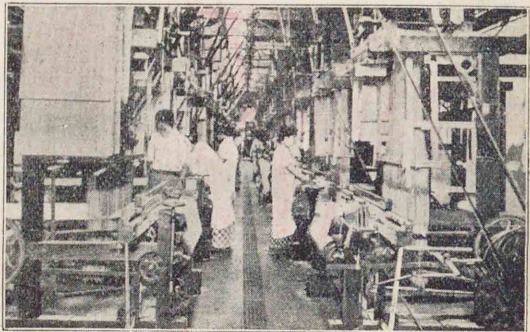
宇都宮市 益
足利市 益
栃木町 益
足尾町 益
日光町 益

圖 千瓢の製造

足利に足利學校の址がある

宇都宮に第十四師團司令部がある

圖 華嚴瀧(遠景は中禪寺湖)



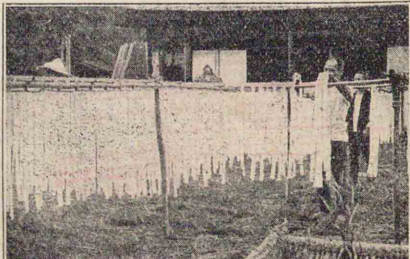
仙の産に名高い。山地には溫泉勝地があり、伊香保は殊に名高い。

栃木縣の地形は、群馬縣に似て更に臺地が廣い。

南部は養蠶機業地帯の續きで、足利市を始め、佐野、栃木等の機業地がある。

宇都宮市は奥州街道の要地に當る城下町で、附近に千瓢の特産がある。日光は壯麗な日光廟と、自然の風景とで、その名が世界に知られてゐる。

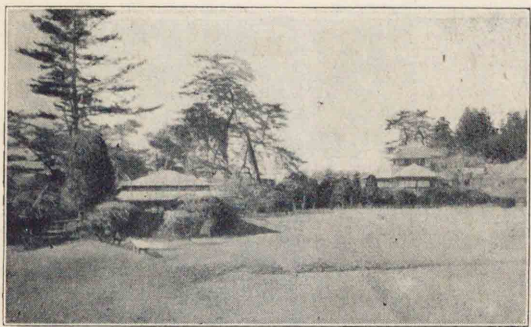
ある。宇都宮市は奥州街道の要地に當る城下町で、附近に千瓢の特産がある。日光は壯麗な日光廟と、自然の風景とで、その名が世界に知られてゐる。



⑥茨城縣 千人
水戸市 五
日立町 六

圖 常磐公園

結城・納織は家内工業を主とする



日光は人工美と山水美の集る處で、華麗を極める東照宮大猷廟等の社殿があり、男體山の麓には、清き中禪寺湖を湛へてゐる。この湖水は古く火山噴出物の爲に堰止められて出来たもので、その自然の堰堤を溢れる水は、落ちて華嚴瀧となり、流れて大谷川となつて峽谷美を刻み、その他、大小の瀑布が處々に懸つて風景を添へ、又温泉の湧く處もあり、殊に夏は涼しく、秋は紅葉が満山を彩り、遊覽の客が常に多く、殊に外人の觀光地として、第一指を屈せられる。

那珂川上流の那須野は、長く荒野となつてゐたが、灌漑水路の開鑿によつて、開墾も著しく進み、東部は茨城縣の一部と共に、名高い煙草地帯である。

⑦茨城縣は北部・中部・南部に分れる。北部は山丘が多く、銅石炭等の鑛産に富み、又煙草地帯の一部で、太田はその中心地である。中部には名高い筑波山が聳え、此處から續く山丘の爲に、東西の二部に分れる。東部の水戸市は、名高い城下町で、梅で知られた常磐公園があり、西部は養蠶機業地帯の延長で、結城はそ

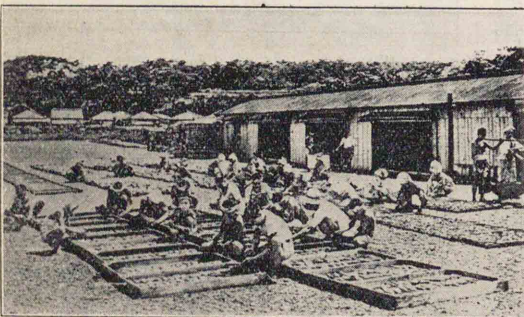
圖 解空中から見た土浦
土浦の附近に高層氣象臺がある

⑧千葉縣 千人
千葉市 三
船橋町 三
市川町 三
本銚子町 三

佐原は伊能忠敬の出身地である

圖 解空中から見た銚子町

圖 鯉節の製造



の中心である。南部は大小の湖群と、利根川の本支流とが複雑して、水運の便に富み、特殊の景觀を呈する。土浦は主要の湖港で、繭の集散が多く、附近に海軍航空隊がある。

⑨千葉縣の地形は、茨城縣と南北が反對にな

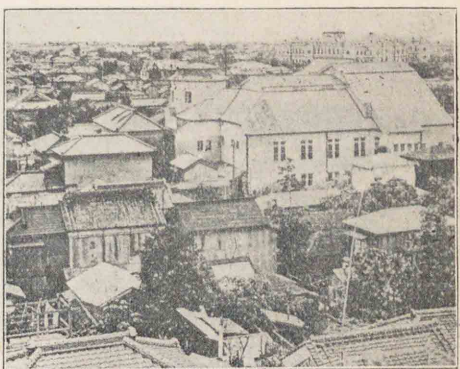
つてゐる。北部は水郷地方



の一部で、この方面には野田・油・流山・銚子・油・釀造地が多く、銚子は主要な漁港で、鯉節の製造が盛に行はれ、成田は名高い不動

千葉に醫科大學がある

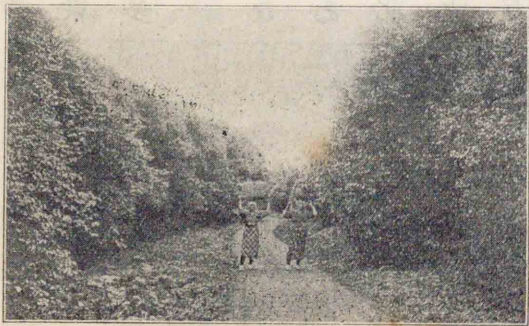
圖解千葉市の一部



尊(新勝寺)の門前町である。中部の臺地は練兵に利用され、陸軍の學校や兵營が多い。千葉市は古い城下町で、今は交通の要地である。房總半島は丘陵が多く、その沿岸は、良好の保養地帯で、又館山・勝浦等の漁港が多い。九十九里濱には、漁業による聚落が帶狀に發達してゐる。

圖解椿の並木

豆南諸島 豆南諸島は、伊豆七島と小笠原諸島とに分れ、硫黄諸島、南鳥島等と共に、東京府で管轄してゐる。多くは富士火山帯に屬する火山島で、大島の三原山は常に噴煙し、その裾野には牧牛が行はれる。一般に氣候が溫暖で、伊豆七島には椿の樹が多く、椿油はこの地

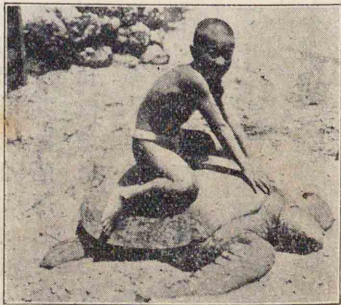


小笠原島には大蝙蝠・林投樹等が生育する

圖解海龜の養殖場

八丈島には軍用飛行場、父島には要塞がある

方の特産である。又近海には水産が多い。小笠原諸島では、甘蔗、野菜等を栽培し、又バナナ等が自生し、海には紅珊瑚、海龜を産するなど、自然の風光及び産業が、著しく趣を異にしてゐる。父島の二見は、この附近での良港で、日米兩國の海底電線は、この地で接續する。



面積 約七〇〇万平方
人口 約六五七萬

(府縣名)(廳所在地)(管轄國名)
福島縣(福島市) 岩代・磐城大部
宮城縣(仙台市) 磐城一部・陸前大部
岩手縣(盛岡市) 陸中大部・陸前一部
青森縣(青森市) 陸奥大部
秋田縣(秋田市) 羽後大部・陸中一部
山形縣(山形市) 羽前・羽後一部

第二章 奥羽地方

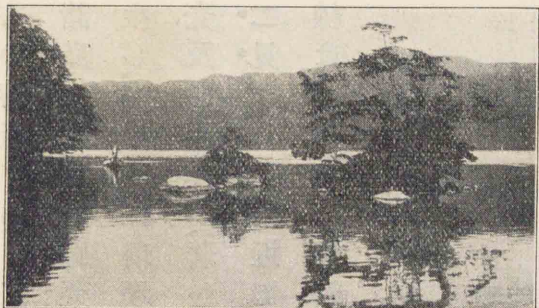
通説

昔陸奥ツクノミチと呼びられた地方で、本州の北端を占め、東北地方ともいふ。我が文化の中心から遠く、且氣候も良好でない爲、本州中では開化が最後、面積は關東地方の二倍に餘るが、人口はその半にも達しない。政治上六縣に分れる。

地形 三條の高地が連つて、二條の低地帯を挟み、地形上、中部・東部・西部に分れる。⁽¹⁾ 中部に連る奥羽山脈は、比較

山脈・火山帯	米
奥羽山脈	二〇四
阿武隈山脈	一八九
北上山脈	二〇四
越後山脈	二〇四
那須火山帯	二〇四
岩手山	二〇四
吾妻山	一八九
磐梯山	一八九
八甲田山	一八五
鳥海火山帯	二〇〇
月山	一六五
岩木山	一六五
寒風山	一五五

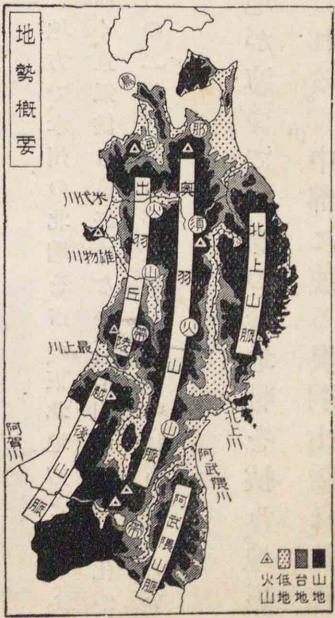
圖 十和田湖 (蓬萊島附近)



的低い山脈であるが、那須火山帯に屬する岩手山、磐梯山、吾妻山等が噴出して、大分水界をなし、北部は下北半島を経て、北海道の山地に連絡する。この山地には猪苗代、田澤、十和田等の火山と關係ある勝景の湖水が多く、温泉も處々に湧出する。

猪苗代湖は、斷層による盆地が、火山噴出物の爲に、堰止められて出來てゐるが、十和田湖、田澤湖は、共に陥落して出來たもので、湖底が深いので、名高く、十和田湖には鱒の養殖が行はれる。又火山地方には温泉が多く、中でも東山飯坂(以上)上山(山形)、浅蟲(青森)等は、その名を知られてゐる。

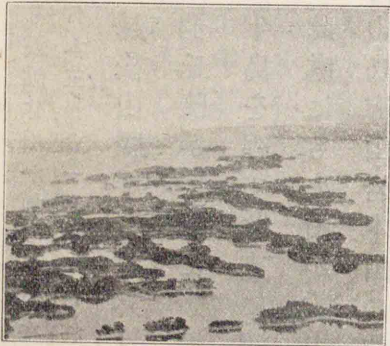
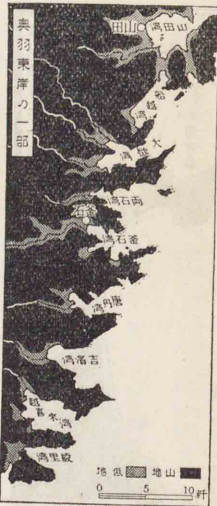
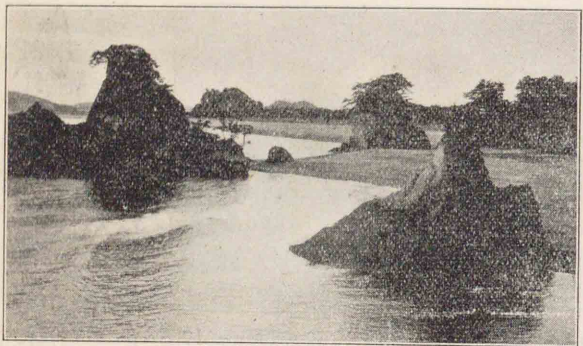
(2) 東部山地は、仙臺灣によつて北上、阿武隈の二山地に分れ、共に高臺性であるが、阿武隈山地は



方 地 羽 奥 28

河	流	長	里
最上川	三	六	〇
阿武隈川	三	二	〇
北上川	二	八	〇
阿賀川	二	〇	〇
雄物川	一	八	〇
米代川	一	七	〇
馬場川	一	六	〇
八木川	一	五	〇
猪苗代湖	一	〇	〇
十和田湖	一	〇	〇

圖 松島 (上圖は松島灣外にある不老山下圖は宮戸島の上空から見た景色)



浸蝕が殊に進み、谷も發達してゐるから、山中にも割合に聚落が多い。兩山地と中部山地との間は、稀に見る大縦谷をなし、北上、阿武隈の二川は、此處を流れて、下流に廣い仙臺平野を開き、馬淵川は北流して、その北方に臺地狀の平野がある。阿武隈山地の東側には、帶狀の海岸平野があるが、北上山地の海岸は、所謂リヤス式で、天然の良港が多く、南端は牡鹿半島となつて、仙臺灣を抱へ、尖端に金華山がある。

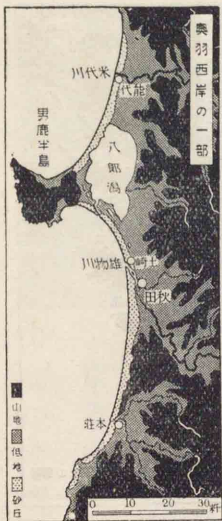
リヤス式海岸は、起伏の多

圖 最上川の下流

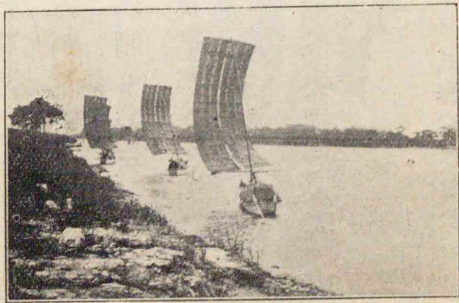
圖 男鹿半島の奇景

月山は羽黒山・湯殿山と共に出羽三山と呼ばれるが湯殿山は月山の一部で別箇の山ではない

い山地が、沈水して出来たものである。仙臺灣内の松島も、割目のある臺地が沈水し、浸蝕作用が加つて現在の勝地を作つたもので、古から日本三景の一に數へられてゐる。
(3) 西部山地は、南端に越後山脈が連る外は、低い



出羽丘陵が南北に斷續し、津輕半島を経て北方に連絡する。此處にも火山が噴出して、月山・烏海山・岩木山の如き名山がある。出羽丘陵と中部山地との間には、多くの盆地が連り、阿賀、最上、雄物、米代、岩木等の諸川が、その水を集めて丘陵を横ぎり、下流に庄内、秋田、津輕等の平野を開いてゐる。日本海岸は、一帯に平直で、處々に斷崖もあるが、砂丘の連る處が多く、男鹿半島が單



陸奥灣の大湊附近及び大間崎附近は要塞地帯である
圖 鐵道線路の防雪柵

三陸の海岸は時に夏季低溫となり凶作を見ることがある

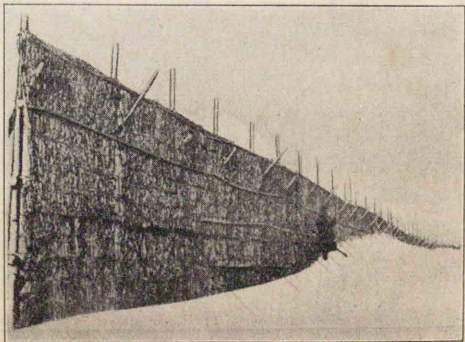
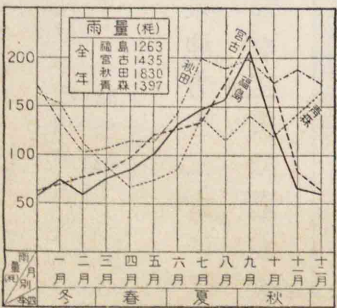
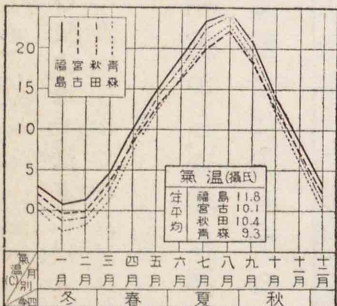
調を破つて突出し、八郎瀉を圍んでゐる。

男鹿半島は、もと島であつたが、二條の砂嘴が發達して陸續きとなつたもので、斯る地形を陸繋島と呼ばれる。關東地方の江島は、將に陸繋島にならうとしてゐる。

津輕海峽は國防上の要地に當り、陸奥灣は關東の東京灣に比すべきもので、大湊の海軍要港が此處にある。

氣候 氣溫は本州中で最も低く、海流の影響

で、西岸は東岸よりも幾分高い。北部の沿岸は、夏に濃霧があつて、農作を妨げることがある。雨量も中部山地を境として、配布が著しく異なり、東部は夏にのみ降雨が多く、西部は冬も雨雪が多いので、野外の労働は勿論、



日本海斜面の農家が冬季各種の室内作業を営むことや他の地方へ季節的出稼をするなどは氣候に基く結果である

交通を妨げられることが少くない。

山形縣の山麓盆地は、我が國有數の積雪地で、鐵道には雪除けの設備があり、その沿道には、防雪林や防雪柵も處々に設けられてゐるが、汽車の一時杜絶すること、殆ど毎年の例である

産業 風土や文化程度の相違から、産業は關東地方とは大いに異なり、林業・牧畜・鑛業等は、總て前者に優れてゐるが、工業は著しく

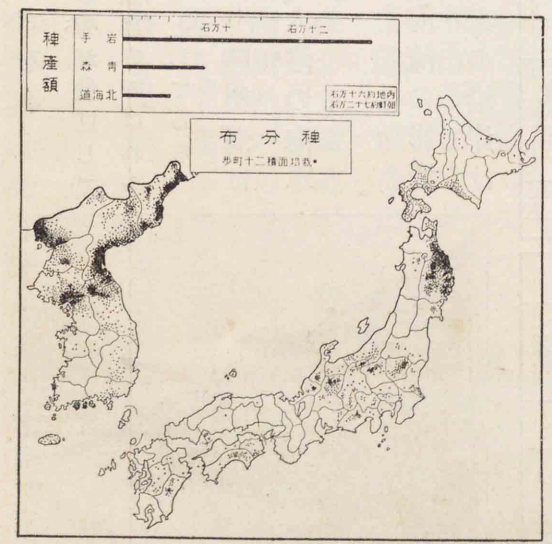
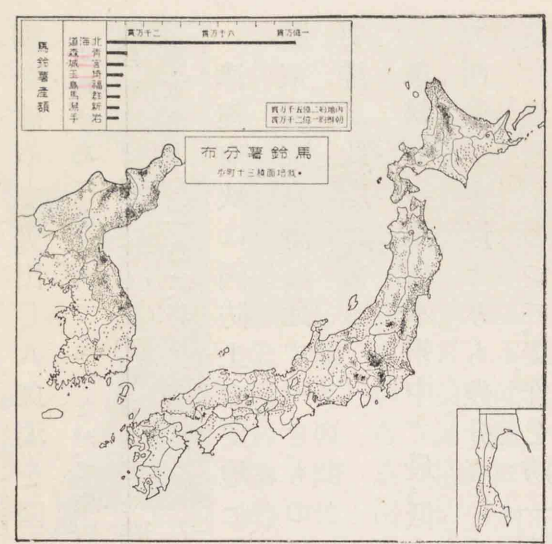
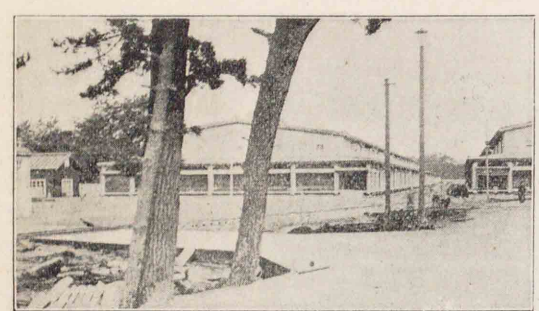
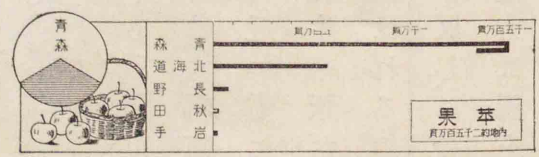
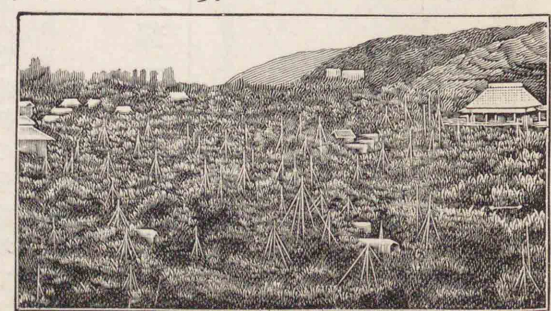
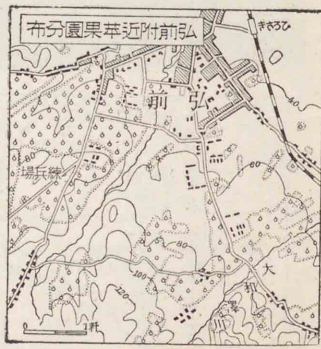


圖 岩木山麓の萃果園

圖 酒田町の國立倉庫



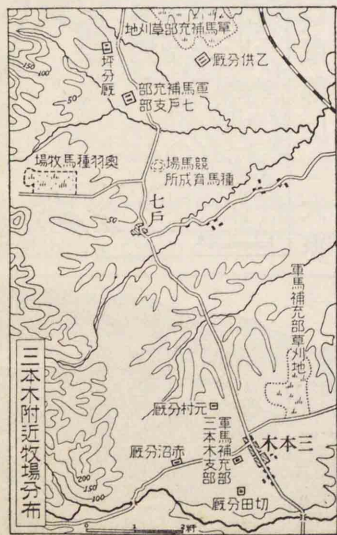
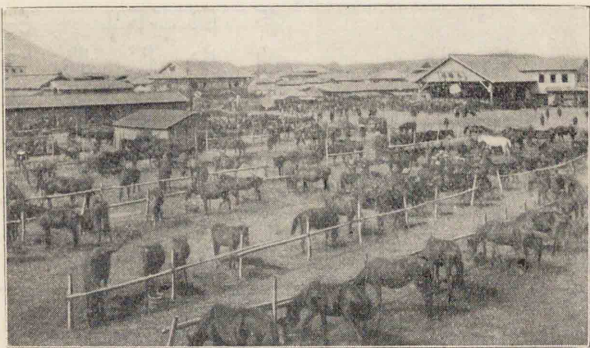
劣つてゐる。農業は概して不振で、未墾地が尙少くない。米は各地の平野から



産し、東部には大麥も産するが、西部は降雪の爲に栽培が出来ない。馬鈴薯・大豆は廣く耕作せられ、南部は關東煙草地帯の延長で、煙草を産する。その他苹果(森青)櫻桃(山形福島)等の果實を多く出し、遠く他地方へも送られる。

仙臺庄内・秋田等の諸平野は、米の主産地で、他地方へも移出し、酒田(山形)・右巻(宮城)は、米の二大積出港であつたが、今は大部が鐵道で輸送される。苹果・櫻桃を多く出すことは關東

盛岡の馬市



米澤は藩侯の奨励によつて、古くから絹織業が發達し、又我が國に於ける人造絹絲の發祥地である。米澤織は主として内地向であるが、川俣は鶴岡(山形)と共に、輸出向の羽二重を出す。

積雪の少い東部では、牧畜が盛である。關東では、大都市に近い處に乳牛や豚が飼はれるのに反し、この地方は馬を

と著しく異なる點で、青森の苹果、山形縣の櫻桃は、共に産額が全國第一である。

比較的溫暖な南部には、養蠶が行はれ、福島・山形の盆地がその主要地で、製絲機業も亦この地方に發達し、郡山・二本松(福島)・宮内(山形)等は製絲業の中心地で、川俣(福島)・米澤(山形)は絹織の産地である。

主として、我が國の主要な軍馬供給地となり、又盛岡(岩手)・白河(福島)等は、馬の市場として名高い。

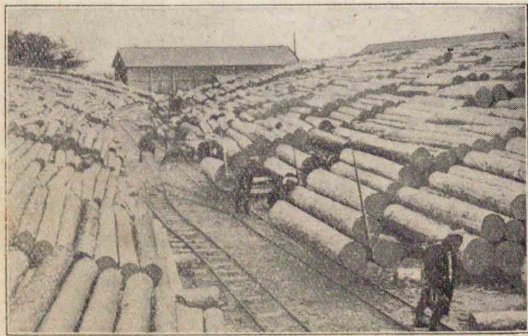
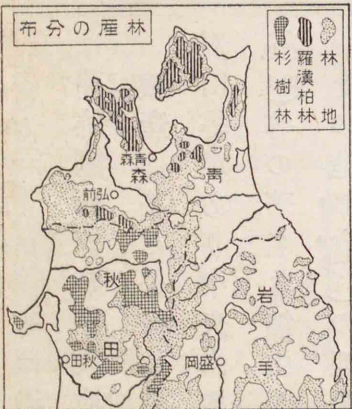
牧畜は地味風土の關係にもよるが、舊藩侯の奨励も原因して、南部馬・仙臺馬・三春馬等は古くから名高く、今も鍛冶屋・澤(宮城)・岩手山・鷲(岩手)・三本木・原(青森)等には、広い牧場がある。

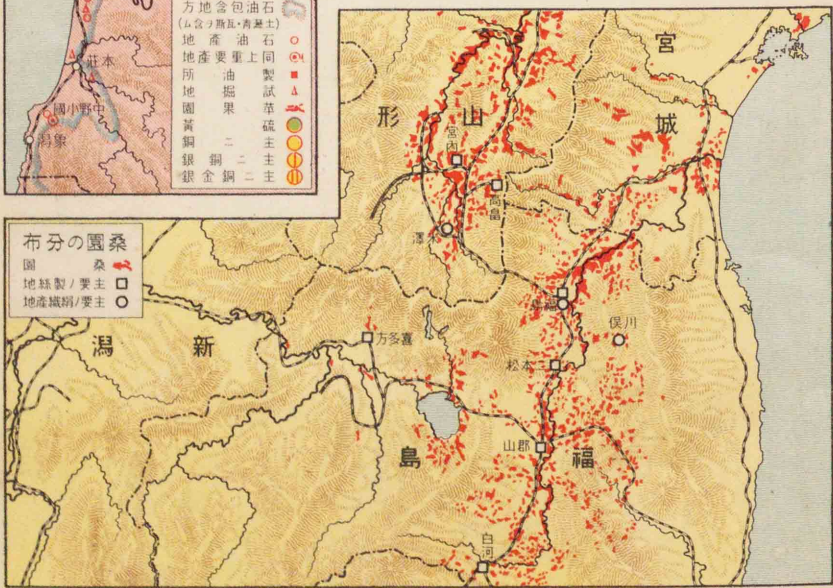
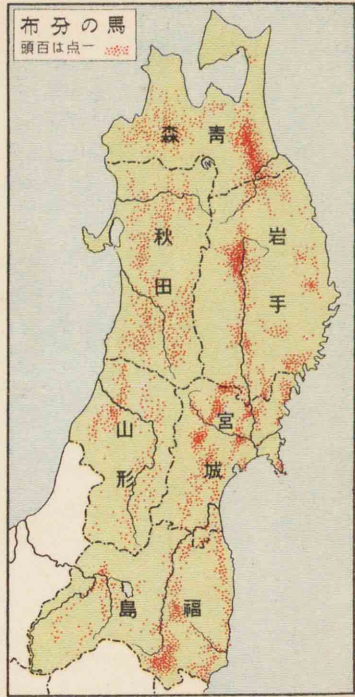
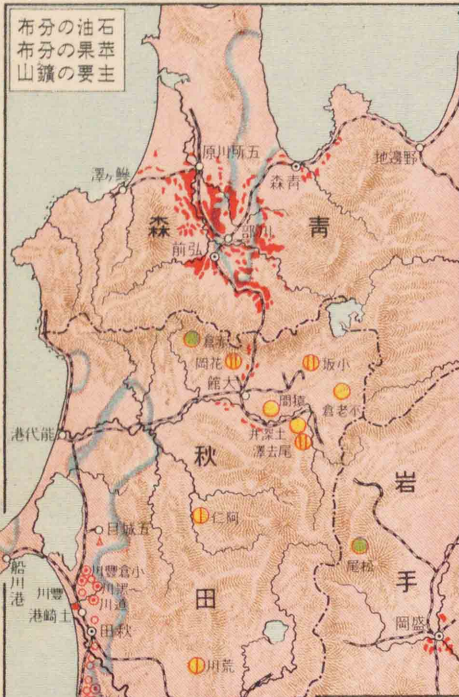
林地の広いことは内地第一で、秋田には杉、青森には羅漢柏の美林があり、能代・港・青森は製材の中心地である。

岩手縣は薪炭の産額が多く、木炭は東京地方へも送られる。

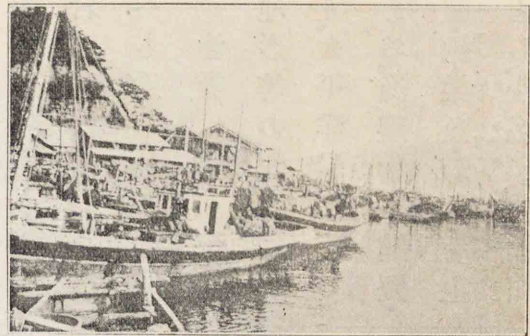
製材場構内の杉材の堆積

漁業は海流海岸地形等の關係により、太平洋岸に盛である。漁獲物は鮪・鯉・鰻・鮎・魚・鯨等を主とし、小名濱(福島)・鮎川(福島)・

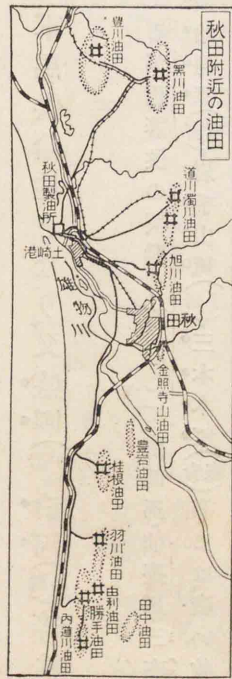




細倉は高田鐵山の
改稱
圖 宮古港の漁船



みで、製鍊所のない鑛山も多く、其等の鑛石は、多く日立鑛山に送られる。釜石は殆ど内地唯一の鐵鑛産地で、製鐵製鋼が行はれる。常磐炭田は内地産炭の約一割近くを出し(磐城炭田がその四分の三を占める)、秋田油田には豊川、道川、黒川、由利等の産油地が多く、原油を油送管で、土崎港の製油所に送る。



（宮古）（手岩）（八戸）（森）（紋）等は漁港として名高く、石巻は蒲鉾、鯉節等の集散地である。鑛産は甚だ豊富で、東部には釜石、鐵山、常磐炭田等があり、中央山地には、小坂、尾去澤、荒川（秋田）等の著名な鑛山が多く、銅、銀等の産に富む。その他、細倉（宮古）の亞鉛鑛、松尾（手岩）の硫黄も亦名高く、秋田縣は新潟縣と共に、我が國の二大産油地である。

小坂、尾去澤等には大製鍊所があるが、鑛石を産するの

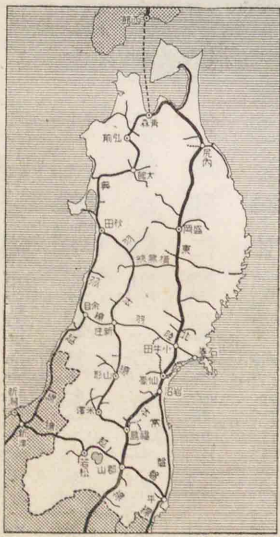
仙臺の商業範圍は
稍、廣いが取引の
盛なのは福島を生
絲・羽二重である

工業の特色は、在來の家内工業を主とすること、陶磁器(若松中村)・漆器(若松前)・金銀細工(秋田山形)・鐵器(盛岡山形)・木工品(仙臺その他)等が稍、著れてゐる。新式工業としては、前記の製絲機業の外には、郡山を中心として、紡績その他の工業が行はれるに過ぎない。

地方産業の中心には、夫々取引の市場があり、福島はその最も主要な處である。元來奥羽は、京濱の商圏内にあつたが、羽越線の全通により、次第に阪神の勢力を蒙るに至つた。青森・船川港は、共に開港場で、青森は北海道に對して重要な位置を占め、船川港も築港によつて、繁榮を加へんとしてゐる。

交通 昔の主要街道は、東岸(濱街)

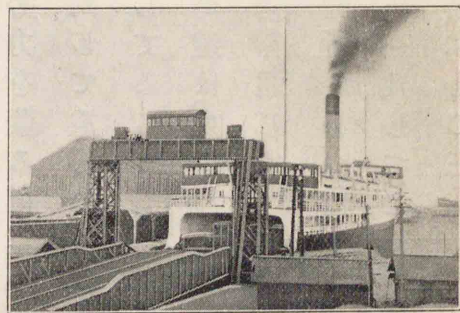
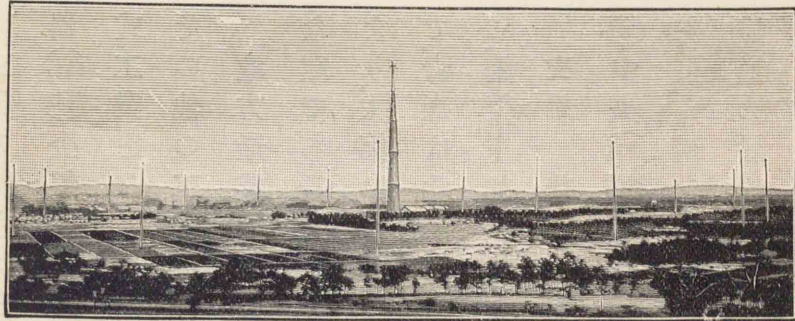
道・中央(奥州街)・西岸(北國街)を通じ、夫々勿來・白河・念珠等の關所があつた。鐵道の幹線は略、之に一致して、この地方と關東とを結ぶもの三線



- 1 福島・青森間
- 2 秋田・新津間
- 3 新津・平間
- 4 余目・小牛田間
- 5 横手・黒澤尻間

青函連絡船

東京無線電信局原町送信所



東北常磐、關西とを結ぶものが一線⁽²⁾ある。青森は此等幹線の終點に當り、北海道との間に鐵道連絡船^(青函連絡船)を通じて、物貨の出入が多い。此等の縦走線を東西に結ぶものに、磐越、陸羽、黒等の諸線がある。

海運は國際的に重要な航路はなく、近海往復の船が寄港するに過ぎない。原町送信所^(東京無線電信局)は、世界的大無線電信局の一で、米國・ハワイとの間に通信する。

人口と都會 人口の密度は本州中最、小であるが、平野や漁業中心地には稍、密集してゐる。都會の大きなものは、概昔の城下町又は船着場で、新進の都市としては、郡山の如

き工業地か、小坂、釜石の如き鑛山町である。

處誌

都會等と比べると、地層が異なるなど、注意して見ると、

福島縣 千人
郡市 五
市 三
町 三
若松市
平河町

福島の生絲荷造場



山いとが相競つてゐる。會津は一盆地をなし、奥羽の要害として重視せられた處である。その中心の若松市は、維新の古戰場として名高く、飯盛山にある白虎隊の墓は、當時の美談を遺してゐる。

磐梯山は明治二十一年に大爆發をなし、北部の山體を飛ばして、五百米の大絶壁を作り、又河水を堰止めて、楡原湖、秋本湖等の湖水を作つた。猪苗代湖も之と同じく、古く火山の噴出物で堰止められたもので、湖水の落差^(會津盆地と)が大であるから、それを利用して電氣を起し、西口の日橋川に於けるものは、遠く東京に送ら

圖 磐梯山と猪苗代湖

●宮城縣 千人
仙臺市 一〇
石卷町 三三
鹽釜町 三三
仙臺に東北帝國大學・第二師團司令部がある

圖 仙臺の市街 (芭蕉の辻の光景)

●岩手縣 千人
盛岡市 三三
釜石町 三三
平泉の附近に衣川柵・高館・平泉の館等の址がある

圖 中尊寺の金色堂

圖 釜石港 (遠景は製鍊所)

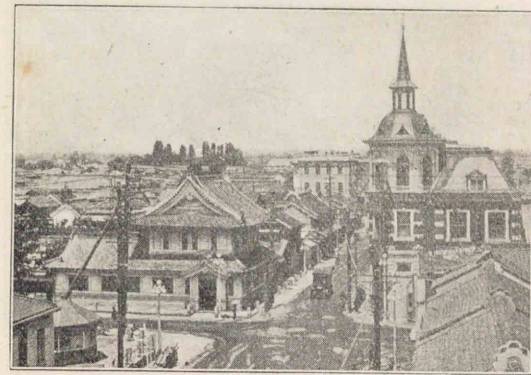
●青森縣 千人
青森市 八
八戸市 三
弘前市 三三

圖 空中から見た青森港

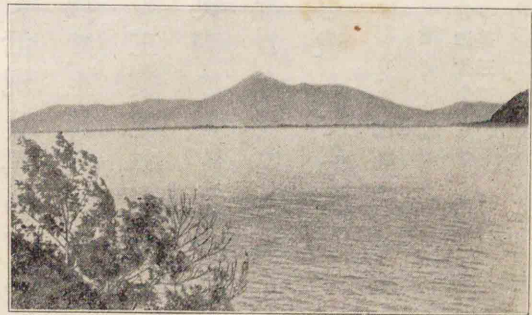
弘前に第八師團司令部がある

れ、東の安積疏水(灌漑用水)によるものは、多く附近で用ひられる。この地方に、東北第一の新しい工業地が勃興したのは、主としてこの豊富な動力に原因する。

宮城縣の要部は仙臺平野で、その中心に仙臺市がある。東北雄藩の城下町として發達した處で、廣瀬川が市中を流れる。今は學術文化の中心として、東北第一の都會である。鹽釜はその外港で米を積出し、又松島遊覽船の發着地である。石卷は北上川口の要地を占めるが、港が浅いので、大船は對岸の荻濱に寄泊する。



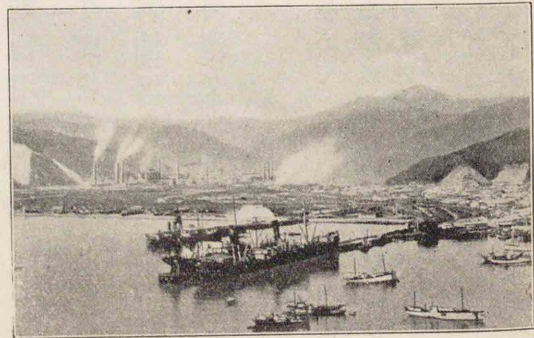
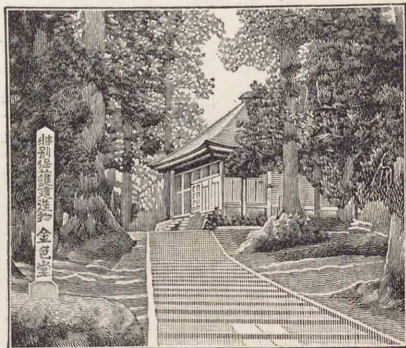
岩手縣の要部は、北上平野と東海岸とに分れる。(1)北上川の流域には、一關・平泉・水澤(測緯所)・盛岡市等がある。平泉の附近には



史蹟が多く、盛岡は名高い城下町で、附近に牧場が多い。(2)東海岸には鑛業地の釜石や、多くの漁港が連り、小汽船が絶え



往 ず 來してゐる。



四 青森縣は中央山地の爲に、東部(南部)と西部(津輕)とに分れる。東部には馬の牧場が多く、七戸・三本木はその中心である。八戸市は漁業の中心地で、商業が盛である。(2)青森市は水陸の交通上重要な地點に當り、製材が行はれる。弘前市は城下町で、津

弘前に津輕塗・木通細工の名産がある。

秋田縣 千人
秋田市 五
能代港町 三

能代港には能代塗の名産がある。

空中から見た土崎港



荒い時は、船を船川港に避難せしめる。

秋田山形の兩縣は、兩羽地方又は出羽と呼ばれ、地形が極めてよく似てゐる。即ち秋田縣に横手・大館等の盆地がある如く、山形縣には米澤・山形新庄等の盆地があり、秋田平野がある如く、庄内平野がある。然し産業上は、秋田縣の鑛業・林業が發達してゐるのと異なり、山形縣では養蠶・機業が發達してゐる。

山形縣は最上川の上中流に於ける盆地と、下流の平野とに分

山形縣 千人

山形市 空
米澤市 空
鶴岡市 三
酒田町 三
新庄町 三

山形市の中心部

れる。米澤⁽¹⁾・山形の兩盆地は、養蠶が盛に行はれ、その中心の米澤市は、名高い絹織産地で、又山形市の附近と共に、櫻桃の産がある。新庄盆地は冬季積雪の多い處で、その中心に新庄がある。庄内平野は米の産に富み、酒田は米の集散が多く、鶴岡市は羽二重の産地として名高い。



第三章 中部地方

通説

本州の中部に位し、幅の最も広い部分を占める。昔の東海・東山兩道の一部と、北陸道とに當り、江戸と上方との中間に位した爲、重要な地方であつたが、今は京濱・阪神兩文化の接觸地帯であり、又この地方の特色も加つて、著しい發達を示してゐる。政治上九縣に分ける。

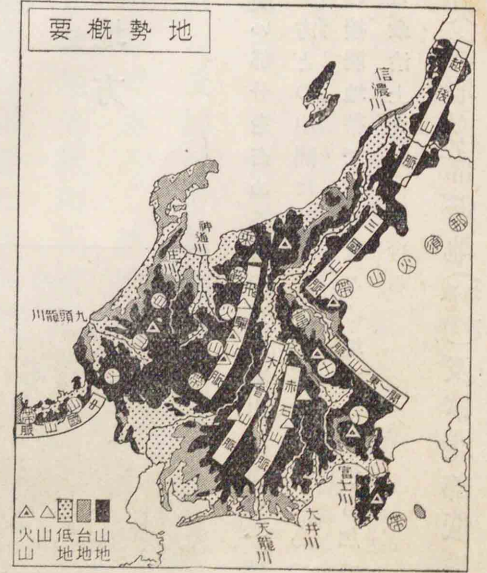
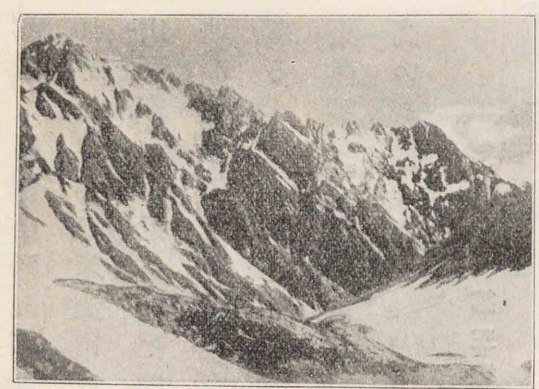
地形 地形上から、中央高地・南部低地^(東海地方)及び北部低地

(府縣名)(廳所在地)(管轄國名)
靜岡縣(靜岡市) 伊豆・大部・駿河
愛知縣(名古屋) 尾張・三河
岐阜縣(岐阜市) 美濃・飛騨
山梨縣(甲府市) 甲斐
長野縣(長野市) 信濃
新潟縣(新潟市) 越後・佐渡
富山縣(富山市) 越中
石川縣(金澤市) 加賀・能登
福井縣(福井市) 越前・若狹

面積 約六〇〇万平方
人口 約二六萬

- 山脈・火山帯
- 關東山脈 三三〇
 - 三國山脈 三三〇
 - 越後山脈 三三〇
 - 赤石山脈 三三〇
 - 白馬山脈 三三〇
 - 木曾山脈 三三〇
 - 飛驒山脈 三三〇
 - 惠那山脈 三三〇
 - 駒山脈 三三〇
 - 白馬山脈 三三〇
 - 御岳山脈 三三〇
 - 乘鞍山脈 三三〇
 - 立山山脈 三三〇
 - 白山山脈 三三〇
 - 富士山脈 三三〇
 - 八ヶ岳山脈 三三〇
 - 妙高山脈 三三〇
 - 天城山脈 三三〇
 - 那須山脈 三三〇
 - 浅間山脈 三三〇
- 圖解 日本アルプスの一部

(北方陸)の三部に分ける。中央高地は、構造上から北彎山系と南彎山系とに分れ、その間に富士火山帯が通じてゐる。北彎山系に屬する山地は、既習の兩地方を境する越後三國關東等の山脈で、浅間山(那須火)が東境に噴煙してゐる。南彎山系には、赤石・木曾・飛驒の三山脈が殆ど南北に雁行してゐる。この三山脈は、何れも地貌が雄大で、高峯が並び連日日本アルプスと呼ばれる。殊に飛驒山脈には、白馬岳・鎗岳等の外、乘鞍火山帯に屬する乘



白馬岳・鎗岳等の外、乘鞍火山帯に屬する乘

赤石山脈は水成岩から成る褶曲山脈で木曾・飛驒の兩山脈は主として花崗岩から成る斷層山脈である

圖解 立山連峯(北陸方面から見た光景)

鞍岳御岳燒岳(活火)立山等の火山が噴起して、高山が多い。飛驒山脈の西側は、緩斜して飛驒高原となり、その北部には、白山火山帯に屬する白山が聳えてゐる。

赤石山脈は、渥美半島を経て紀伊半島に連絡を保ち、その西側の天龍川は、木曾山脈との間に伊那谷を開く。木曾・飛驒の兩山脈間には、木曾川が狭い木曾谷を開き、飛驒山脈の北部は、黒部川の峡谷によつて二分される。此等の山間には多くの盆地があつて、高地に於ける主要の生産地となり、中には諏訪湖の如き湖沼を湛へてゐるものもある。飛驒高原を流れる宮川の流域には、高山盆地がある。近年高峯に登攀することが盛となり、日本アルプスはその中心で、山麓の大町・島島などは、登山口として夏季に賑ふ處である。

富士火山帯は、富士山を中心として妙高山八ヶ岳・天城山等を起し、その餘勢は、遠く南方の海中に延びてゐる。その地方には温泉が多く、半島部には冬向、高地には夏向の保養地がある。殊に伊豆半島は京濱地方に近いので、熱海



富士山(近景は富士川)

富士見十三州の名があるが實際は遙に廣く見える

河(流長) 濃川

信濃川 天龍川 阿賀川 富田川 庄内川 神宮川 常陸川 安曇川 諏訪川 湖



修善寺等の著名な處が多い。

富士山は、山容の秀麗なので世界に名高い。新しい火山で、未だ著しい浸蝕を受けてゐないから殆ど完全な圓錐形をなし、唯山腹に出来た寶永噴火口が、單調を破つてゐる。寄生火山は約七十に達するが、何れも小さいので人目を惹かない。北麓にある所謂富士五湖(山中河口西精進本栖)は、噴出物の爲に出来た堰止湖で、風景がよい。山頂の眺望は甚だ廣く、視界の半徑は約二百五十軒に達するといはれ、夏季には登山者が多く、大宮御殿場須走(以上)吉田(山)等は、その登山口に當つてゐる。

(2) 東海地方は、殆ど一續きの平野及び臺地が、

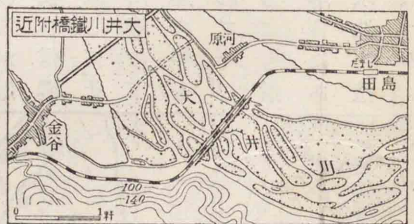
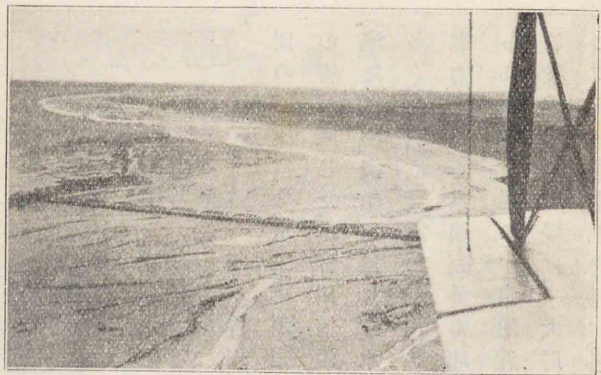
山丘の爲に、僅に處々で切斷されてゐる。中央高地から發する富士安倍大井天龍木曾等の諸川が、殆ど平行してこの平野を貫流し、木曾川の下流に發達せる濃尾平野は、殊に廣く且豊沃である。海岸は東部に底深い駿河灣が彎入し、西部には割合に浅い伊勢海と渥美灣とがあり、中部は遠州灘で、その沿岸は平直

大井川は昔時運漕渡があつたので著名である

渥美灣附近には蒲郡・佐久島等の保養地がある

飛行機上から見た大井川

木曾川の下流



な砂濱である。北陸地方にも亦一連の平野があつて、山脈の餘勢により、越後富山加賀福井等の諸平野に分たれる。越後平野は我が國有數の廣い低地で、信濃川阿賀川が此處を流れ、その他、富山平野の黒部川神通川庄川の福井平野の九頭龍川等も北陸の主要な大河である。海岸は中部に能登半島が富山灣を抱き、西南にリヤス式の敦賀灣が彎入する外は、概ね單調で砂丘が發達し、瀉を抱いてゐるが、そ

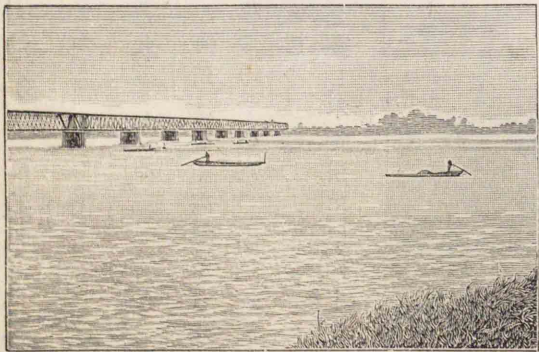


圖 親不知の海岸

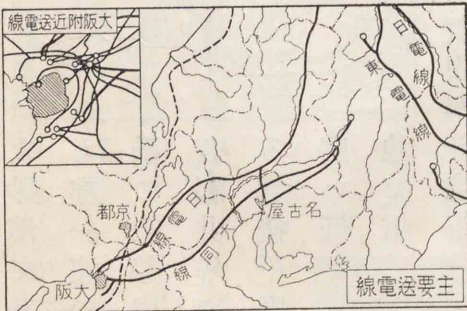


の間には、山地が海に迫って、峻しい海崖をなす處もあり、親不知は殊に著名である。

中部地方の河川は、多く高地から急に低地に移るので、豪雨の際には氾濫して屢、水害を及ぼしたから、古來治水に力を盡し、木曾川には輪中と

圖 木曾川の發電所(岐阜縣惠那郡 蛭川村)

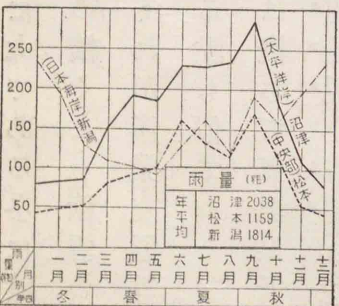
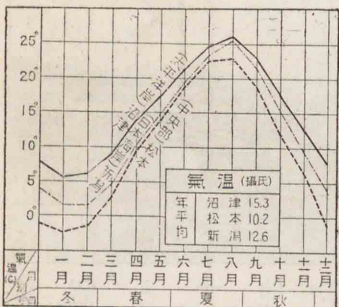
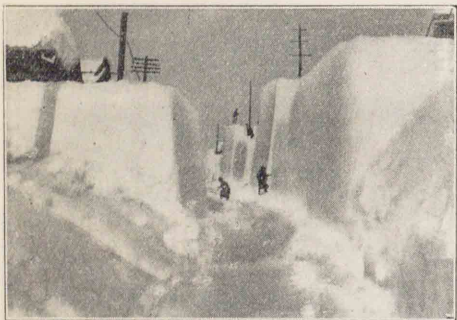
呼ぶ水難防止の制も残つてゐるが、近年木曾川及び信濃川の下流は、分水工事が完成して、その害が減じた。木曾川・信濃川等の下流には、小汽船を通じて水運の便も多く、上流は發電に利用されて、その電力は遠く京濱・阪神の地方にも送られる。木曾川の中津(附近(落合)にある發電用の堰堤は、一大貯水池を造つて、夏は遊覽船を浮べ、冬はスケー



長野・岐阜・山梨・新潟・富山の諸縣は著名な水電地である

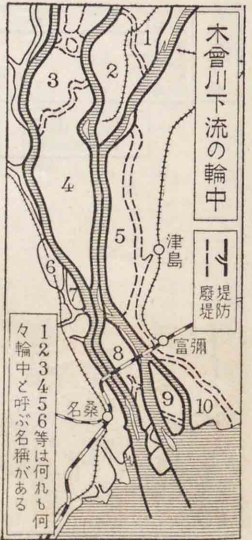
圖 北陸地方の積雪(長岡)

内部の盆地は夏が割合に暑く、甲府盆地の如きは有名な高温地である



羽地方のそれに似て、気温が稍高く、雨量は

トの滑場となり、庄川支流の堰堤も、亦之に劣らない。川の上流・中流には、峡谷の美や、急流の壯で知られた處が多く、黒部・峽川・天龍・天龍(天龍)・寝覚・床・惠那・那・峽・日本ライン(會川)等はその名高い處である。



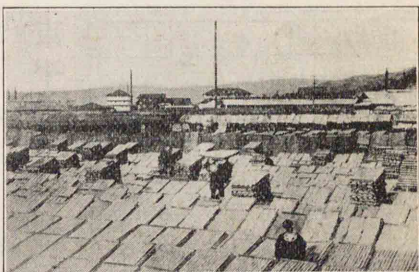
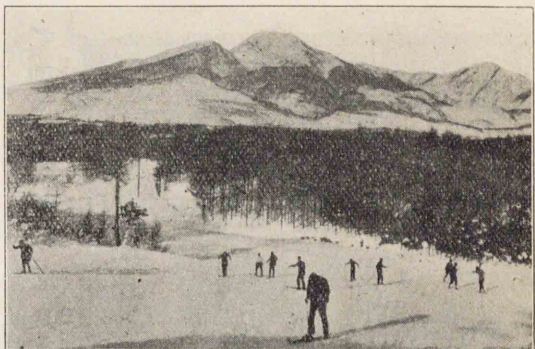
氣候

氣候も三區に分れる。(1) 太平洋岸は關東の海岸地方に似て、稍、高温多雨である。冬向の保養地のあること、野菜の促成栽培が行はれること等も似てゐるが、濃尾平野は關東平野の内部に類してゐる。(2) 日本海岸は奥

北陸地方から冬季に太平洋方面へ出稼する人の多いのは一っはこの氣候の爲である

圖解 妙高山麓のスキー場

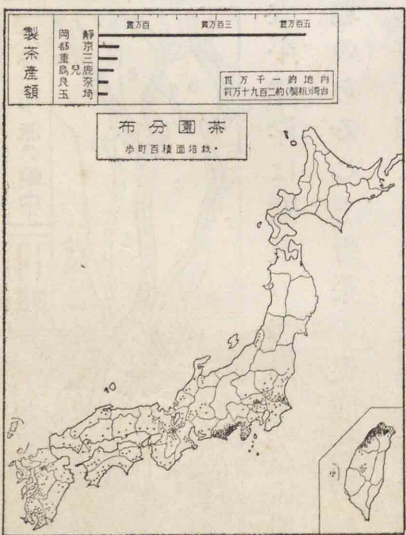
圖解 寒天工場



量に富むも、盆地内には

本州中の最寡雨地もある。

諏訪盆地の諏訪湖は、冬季厚く凍り、スケート場として賑ひ、日本海斜面の積雪地には、スキー場が處々にある。諏訪盆地から寒天を産するものも、天然氷を出すものも、嚴寒の賜である。



遙に大である。冬に陰鬱な天氣の續くこと、積雪の多いこと、それが産業・交通等に影響する點も似てゐる。中央高地は概して氣温が低く、輕井澤・富士見上高地(長野)の如き避暑地がある。山岳地方は雨

茶は多く米國へ行く

圖解 伏木港に於ける米の積出



はその集散地で、清水港から盛に海外へ輸出する。駿河灣の附近では、蜜柑・梨・桃等の果樹栽培が盛である。北陸地方は米を主産物として、他地方へも移送し、越後平野には梨



産業 南北の兩海岸地方は、主要の農業地である。東海地方殊に濃尾平野は、米・麥の産に富み、静岡縣は山腹丘陵を利用して茶園が多く、茶の産額は全國第一である。大井・安倍兩川の流域を主産地とし、静岡



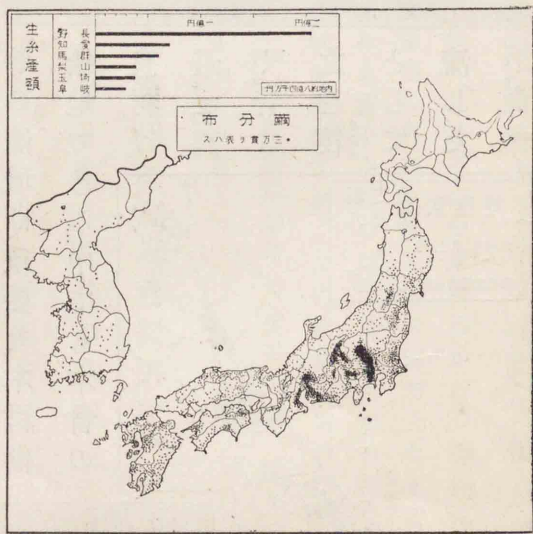
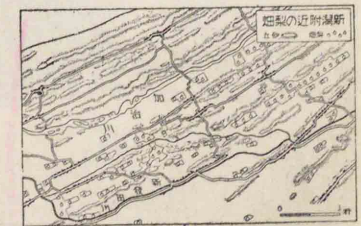
圖解野菜市場(名古屋)
古屋市外の枇杷島



岡崎には養鶏試験場があり名古屋市中心でも養鶏の中心である

濃尾平野の野菜は、種々に加工されて遠く京濱阪神の地方に送られ、三河の平野は農業組織がよく整つて、日本のデンマークとも呼ばれる。各種の果實を出し、その三河西瓜は、北陸の富山西瓜と對するものである。養鶏も近年著しく盛となり、三河卵の名が廣く知られるに至つた。

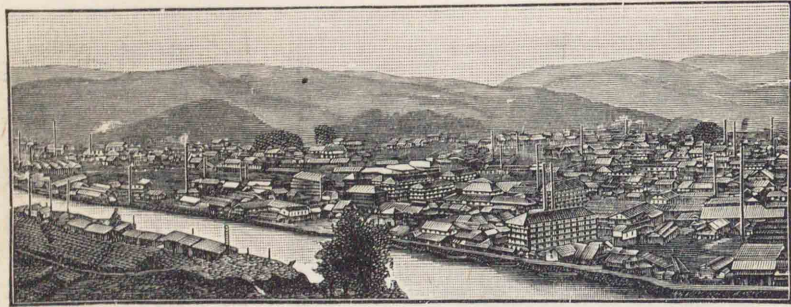
養蠶は中央高地の諸盆地を中心として、その附近の地方に行はれ、長野・愛知・岐阜・山梨の諸縣には、繭の産額が甚だ多い。製絲業も之



につれて盛に行はれ、岡谷・丸子・須坂(以上長野)・豊橋(愛知)・甲府(山梨)等はその中心で、殊に岡谷を中心とする諏訪湖畔の一帯は、我が國第一の

圖解岡谷の製絲場

海氣織は山梨縣から全國の八割餘を出す

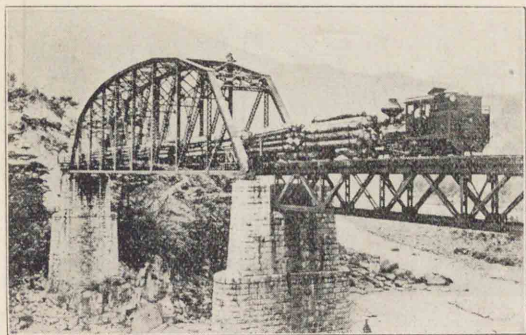


製絲地である。

絹織は養蠶地方よりも産し、山梨縣の郡内地方(海氣織)・岐阜市の如きは有名であるが、福井・石川兩縣の羽二重は、産額が最も多く、新潟縣の山麓一帯にも、處々に絹織の産地がある。

木曾川村は名古屋、天龍川村は天龍川驛、大井川村は島田に集るものが多い

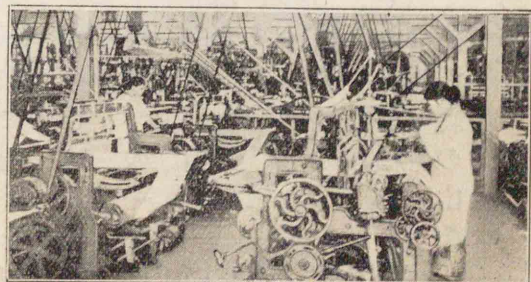
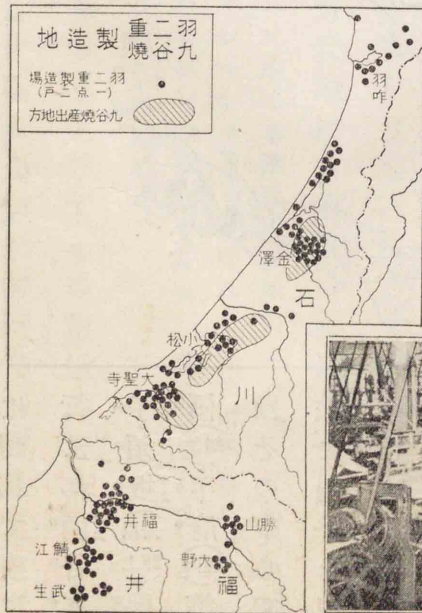
【圖】木曾川村輸送（河は木曾川）



が、森林として流した之を筏として流した

羽二重産地は福井縣の福井・大野から、石川縣の大聖・寺小松・金澤に互る一帯で、輸向製品を主とし、工場組織で営まれる。その原料は大部を他より移入するので、福井は生絲の集散が盛である。新潟縣では手工による内地向の絹織が多く、五泉・小千谷・十日町等はその中心である。

森林は中央高地に多く、木曾川・天龍川・大井川等の流域は、重要な木材供給地である。中でも木曾の良材は最も高く、昔は之を筏として流した



鐵道の發達、堰堤の建設等により、今は陸路の輸送が盛になつた。

木材の需要を増すにつれて、北海道樺太米國等からの輸移入も多く、名古屋・清水はその關門で、此等は建築用の外製紙製函等の原料となる。富士山麓の大宮その他には、洋紙の大工場がある。富士山麓の地方は、古くから楮・三椏等を植ゑて、駿河半紙を造つたが、今も和紙の産額は少くない。岐阜・福井の兩縣も和紙の産が多く、前者は板取川(牧)、武儀川(武藝)の沿岸がその中心で、後者では武生(鳥の子紙、奉書紙)が著れてゐる。

太平洋面は鱈・鰹等の漁利に富み、静岡縣では遠洋漁業に従事する者も多く、鰹節の産額が全國第一に位し、焼津はその中心である。日本海面には柔魚・鰯等の漁獲が多い。養殖物では愛知縣の鰻、新潟縣の鮭(三面)、長野縣の鯉等が知られてゐる。

鑛産の最も重要なのは石油である。新潟縣は秋田縣と共に石油の大産地で、その油田は新



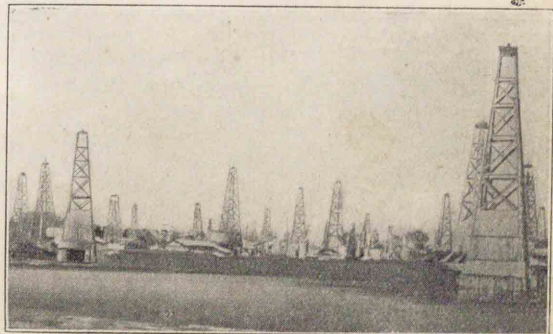
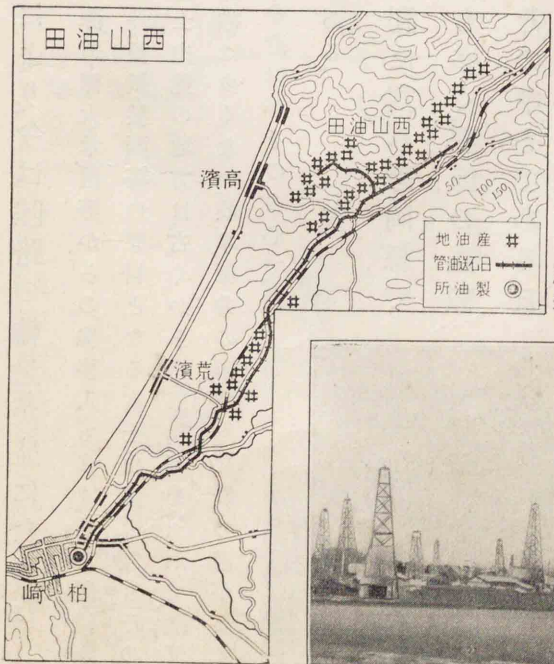
【圖】焼津海岸に陸揚された鰹

圖新津油田の一
部

津・東・山・西・山・荒・濱等に互り、柏崎と新潟とに大
製油所がある。

小鑛山は各地にあるが、産額の稍多いのは神岡(岐)の
亞鉛、鉛、久根(岡)の銅、土肥(靜)及び佐渡の金等である。石
材は赤坂(岐)の大理石が最も重要で、金峯山(梨山)の水晶も
特産であるが、産額が著しく減じたので、甲府では原料
を外國に仰いで水晶細工を行
つてゐる。

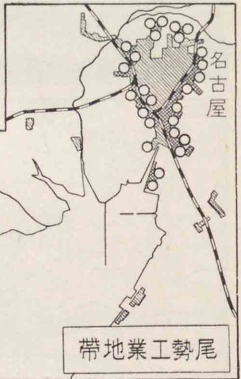
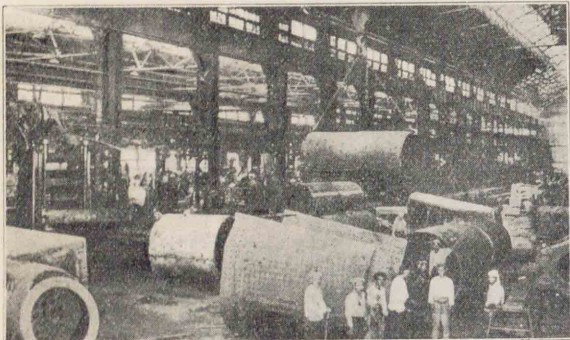
工業は地方によつて特
色がある。北陸地方では絹
織、中央盆地では製絲の盛
なことを既に述べたが、東
海方面では、綿毛工業が盛
である。名古屋を中心とし
て、岐阜縣の南部に互る地



圖車輛會社の汽
車工場

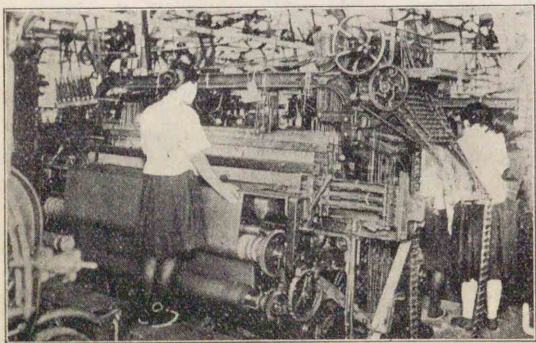
圖毛織物工場の
内部

方は、我が四大
工業地帯の一
で、各種の工場
が多く、その延



が、伊勢海沿岸と共に綿
工業が最も盛である。一宮
から岐阜・大垣方面には
毛織物の産が多く、大工
場もあるが、家内工業に
よる生産が寧ろこの地方

長は更に伊勢海沿岸と濱松
方面とに及び、濱松は名古屋
に次いで工業が盛である。名
古屋には毛織・車輛・陶器等の
大工場があり、又時計・七寶燒
の
樂器等
の特産
もある



三河はもと綿の産地として知られたが今は原料を外國に仰ぐ

圖 知多半島に於ける晒木綿の乾場

瀬戸の日用陶器、名古屋の輸出陶器、常滑の土管類、高濱の瓦類、多治見の日用陶器は何れも有名である

圖 瀬戸の日用陶器

の特色である。

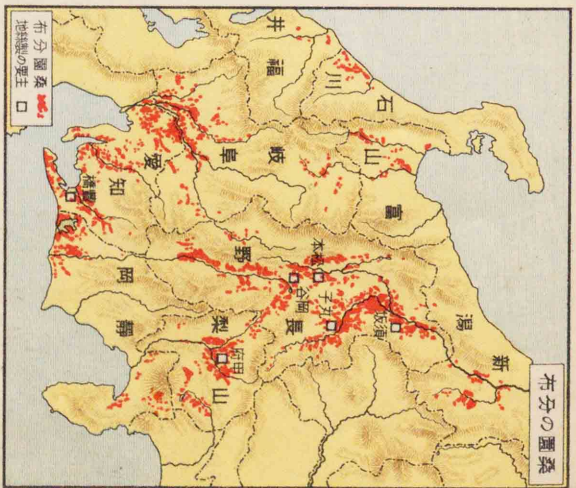
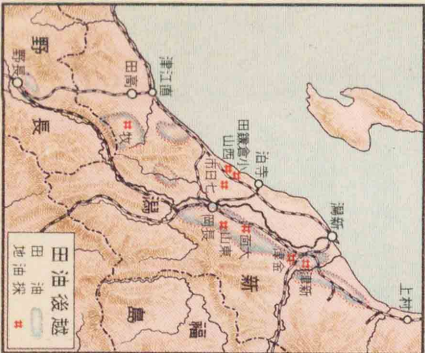
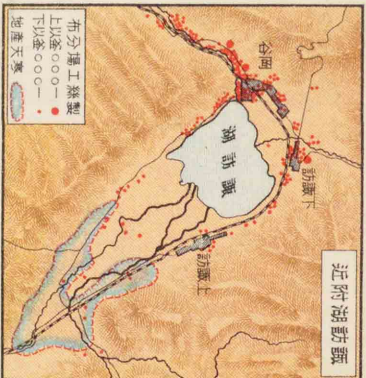
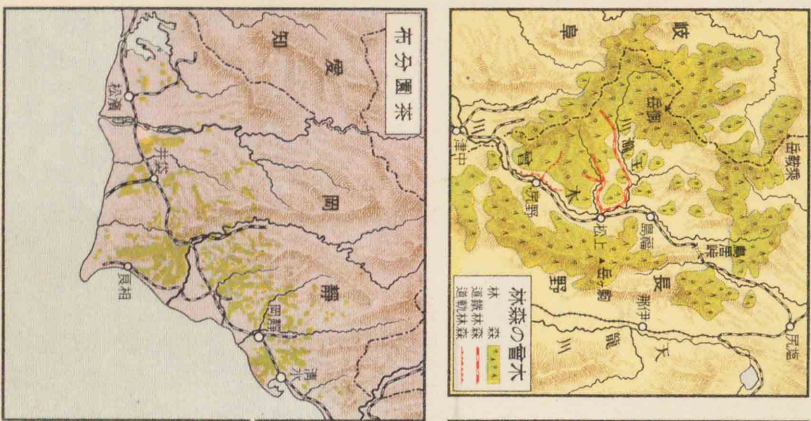
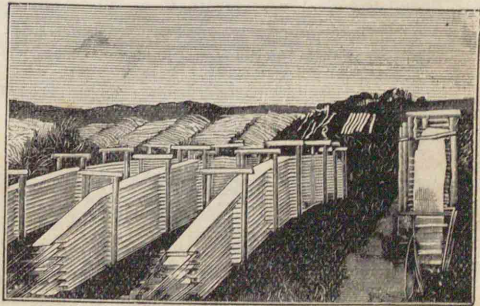
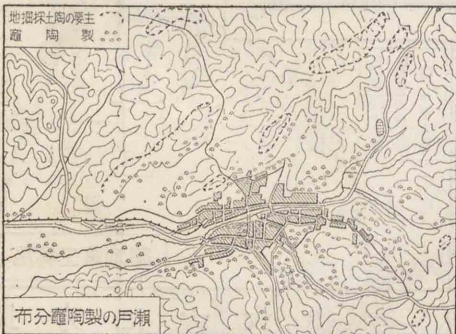
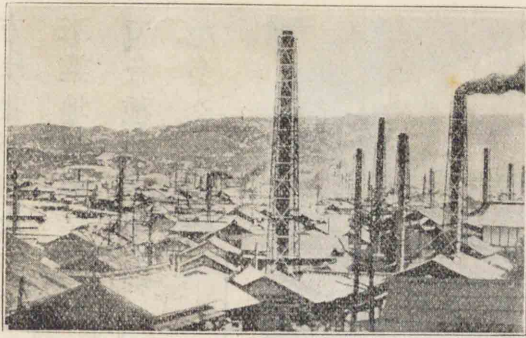
綿織は藩侯の保護奨励により、昔から發達してゐたが、それが近代組織に進んだので、有松鳴海の絞木綿、知多半島の晒木綿等が著れてゐる。伊勢海沿岸には紡績の大工場が多く、四日市名古屋港はその原料輸入の關門である。

尾東丘陵の瀬戸から、多治見(岐阜)地方へかけて

は、良質の陶土に富み、我が

國第一の製陶

地帯であり、三河平野から知多半島へかけては、土器(瓦・煉瓦等)の製造が盛で、高濱常滑がその中心である。九谷(石川)に起つた九谷焼は、現在大聖寺小松金澤等



製陶は概して小規模であるが名古屋・金澤には大工場がある

名古屋古屋港



から産し、金澤では輸出向の硬質陶器も製造される。その他、工藝品として著名なものには、漆器(石川縣の輪、銅器(富山縣の高岡)等がある。

産業の發達に伴ひ、商業も亦甚だ盛である。名古屋は東京・大阪の中間に位して、逐年勢力圏を擴げてゐる。その他、松本(薩)、福井(羽)、新潟(米)、静岡(茶)等は、地方的商業の中心である。外國貿易には清水、武豊(愛)、名古屋、敦賀(福)、七尾(石)、伏木(富)、新潟、夷(以上)等の開港場がある。名古屋は背後に盛大な産業地帯を控へ、港の設備も次第に整つて、我が國屈指の貿易港であるが、その他の諸港は商況が盛でない。

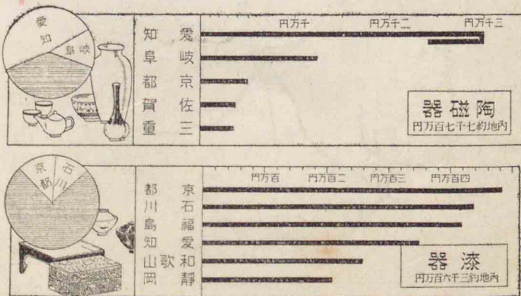


圖 昔の大井川の繪畫

1 米原・直江津間

中央線は甲信地方を東京及び名古屋と連ね、羽越・北陸・信越の諸線は奥羽・北海道方面と阪神地方とを連ねてゐる



つて裏日本の幹線となり、信越線は、又本州横断線の一部ともなつてゐる。濃尾平野には、電車の發達も著しい。海運の大中心は未だないが、名古屋・清水には外國航路の商

交通 昔からの街道には、東海道・中仙道・甲州街道・北國街道等がある。此等が山脈を横ぎり、川を過ぎ、海を渡る處には、自然の難所や關所等があつて、旅人の苦痛・不便は少くなかつた。今は鐵道の敷設が普く、東海道線は三大工業地を連ねて、設備が最も整ひ、中央線は中央高地を東京及び名古屋と連ね、北陸線・信越線・羽越線は、相連

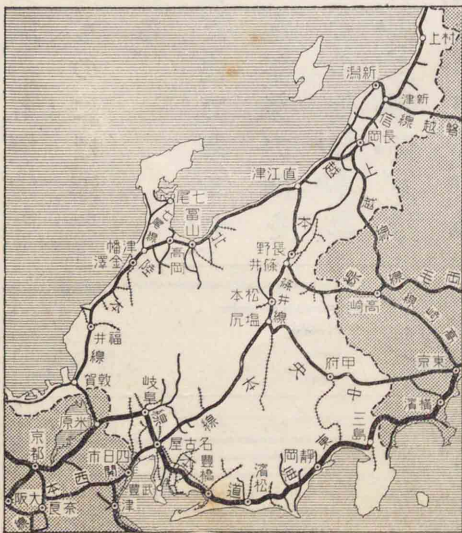


圖 依佐美送信所

● 静岡縣 千人

静岡市 松山市 清水市 沼津市 大田町 三島市 三ヶ浦町

船が寄港する。日本海面は、冬季に風浪の荒い憾はあるが、敦賀は大陸に對する主要な連絡地である。通信は名古屋無線電信局(送信||依佐美(愛知)受信||四日市(三重))があつて、歐洲と通信する。

人口と都會 南部殊に名古屋を中心とする工業地帯には、人口が密集し、内地の平均密度よりも遙に大であるが、北部は略平均に近く、中央部は概して疎である。大都會の多くは、城下町から發達してゐることは、他の地方と變りはないが、街道に沿ふ昔の宿驛には、交通革命により著しく盛衰を來したのもあり、又市街繁華の中心が、移動したのもある。

處誌

● 静岡縣は伊豆半島海岸地方及び北部山地の三區となる。伊豆半島には著名な温泉地が多く、南端の下田は、我が開國の歴史と關係の深い港である。海岸地方は東海道の通路に當り、古くから

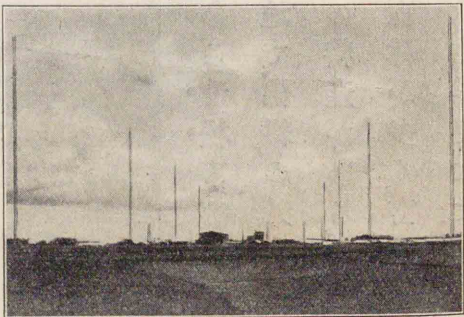
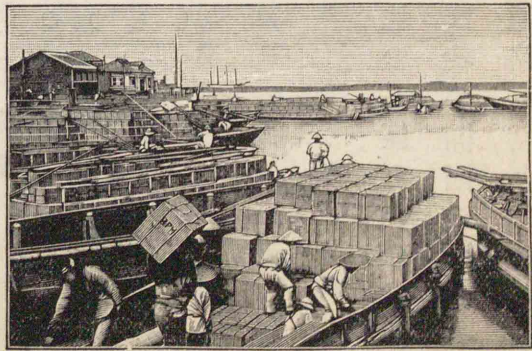
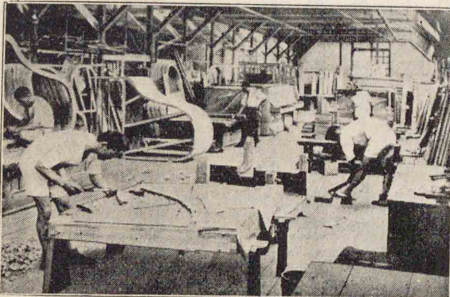


圖 清水港に於ける茶の積出

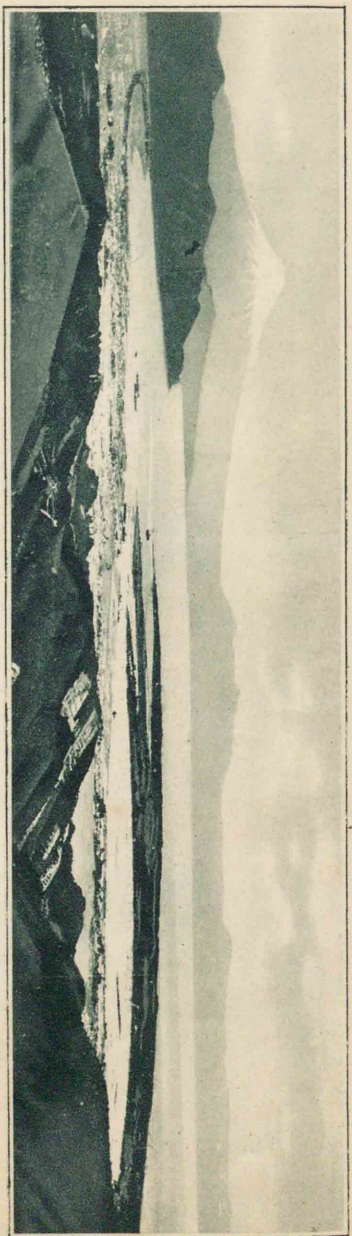
圖 大宮附近の製紙會社

圖 濱松樂器會社のピアノ工場

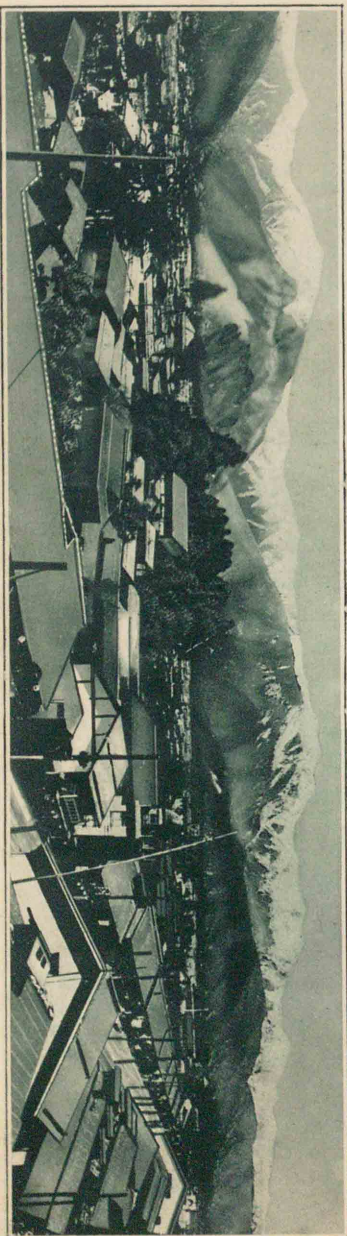
重要な城下町や宿場が多く、又氣候がよい爲に、沼津市興津等は保養地として知られてゐる。静岡市は昔の駿府で、附近に名高い久能山がある。茶の取引が盛に行はれ、又漆器竹細工等の工藝品を出す。清水市は近く三保、松原を控へて、遙に富士山と對



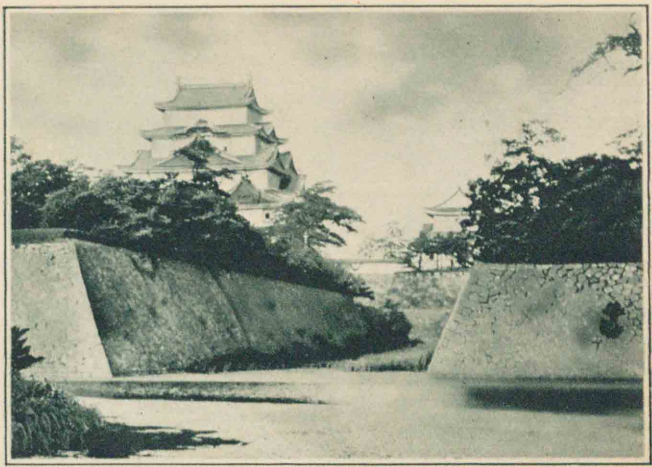
し、風景絶佳の商港である。濱松市は新進の工業地で、綿織の外、樂器帽⁽³⁾子等の特産がある。山地には森林が多く、富士山麓には、水力利用による工



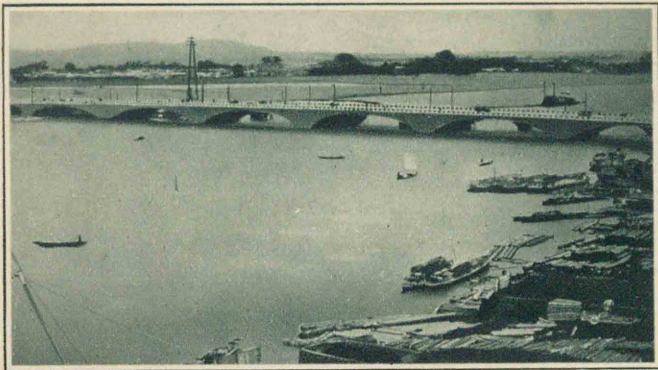
原 松 保 三 と 山 士 富
るみてえ嶽に坐蒼は峯秀の土富え見に微てれか抱にれそが港水清れ分は派三が先の原松保三



スアルア北本日た見らか面東
るあで嶺連の等馬白・龍五・嶺島鹿・澤鳴・華蓮らか左は後背、町大は街市の景近



名古屋城
天守閣の高さは三十七米、名物の金鯱は高さ二米八



新潟の萬代橋
信濃川の河口に跨る長さ八百七十三米の近代式美橋



金澤の中心部

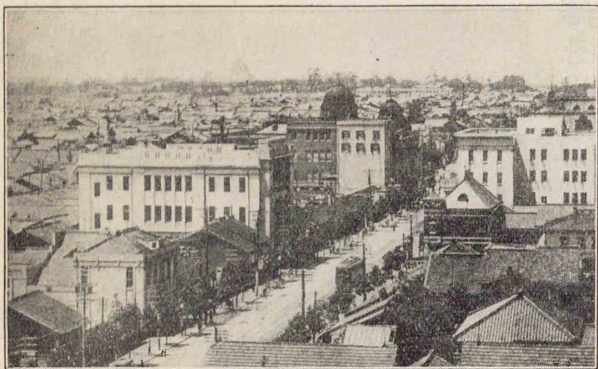
高小森は舊城址、その背後は立木六園、城址右に尾山神社が在る

愛知縣 千人
名古屋市 九七
豊橋市 九七
岡崎市 九七
一宮市 九七
瀬戸市 九七
安城市 九七

豊川の上流に鳳來寺の名地がある

名古屋の市街(松坂屋の屋上から北方を眺めた光景)

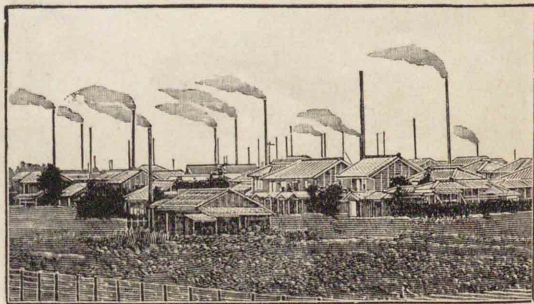
名古屋は四區に分れ第三師團司令部・醫科大學がある
熱田神宮は草薙劔を祀る



業も行はれ、小山(織)大宮(紙)等が知られてゐる。

愛知縣の主要部は、沿海の低地及び丘陵で、之を東部・中部・西部に分ける。東部の豊橋市は、製絲の小工場が多く、附近に稻荷で名高い豊川

がある。中部の岡崎市は、徳川氏創業の地で、此處にも製絲の工場がある。西部は濃尾平野の一部で、低地が廣く、その



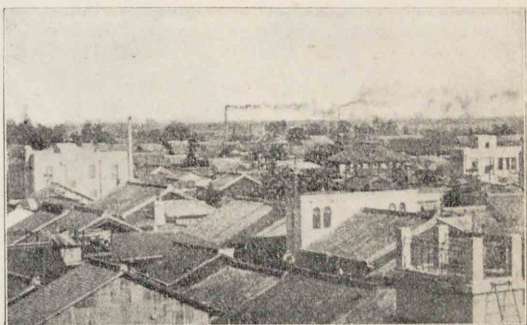
東境をなす知多半島は、丘陵性で龜崎・半田等の醸造地(酒・酢・醬)がある。名古屋市は、徳川氏親藩の城下として發達した處で、名古屋城・熱田神宮等がある。産業・交通・學術等の大中心で、大小各種の工場が多く、中京の稱が

一宮市(左方の森は一宮たる眞清田神社)

岐阜縣 岐阜市 千人
大垣市 二〇〇〇人

岐阜と隣接せる加納は盛に傘を産し市東の各務原には陸軍飛行場がある

岐阜市と長良川(左方の丘陵は金華山)



等を出し、又提灯團扇等の名産がある。鶴飼に名高い長良川が市北を流れ、その上流地方では、和紙の抄出が盛である。大垣には毛織の工場があり、西境に名高い養老瀧及び關原の史蹟がある。東部(東濃)の



ある。一宮市は機業の一中心で、瀬戸市は陶磁器の大産地である。この地方には桶狭間・長久手等、戦國時代の戦蹟が多い。
岐阜縣は濃尾平野を要部とし、東部北部にも山間の平地がある。平野は地理上、愛知縣に續く大工業地の一部で、岐阜・大垣の兩市が此處にある。岐阜は絹織毛織

高山に近い位山は古來一位木の産地として名高い

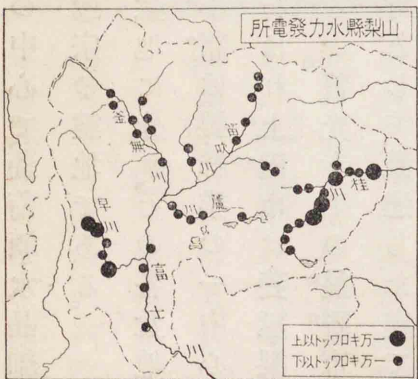
長良川の鶴飼(右方の山は金華山)

山梨縣 千人
甲府市 七

桂川に架けた猿橋は古來奇構で名高くその西北に天目山がある。
甲府市(中央の石垣は城址)



だ多い。郡内地方は海氣織を産し、谷村はその市場である。甲府盆地には桑畑葡萄



多治見は、製陶業の一中心で、中津には製絲が行はれる。北部の山地は、高山盆地を抱き、その中心の高山には、春慶塗一位細工の特産がある。
山梨縣は一縣殆ど一盆地であるが、東部の郡内地方が、別に狭い谷を開いてゐる。河流は何れも急で、發電所が甚

甲府の附近に酒折宮(祭神日本武尊)がある。御嶽は勝地として名高い。

⑤ 長野縣 千人

長野市 三
松本市 三
上田市 三
上諏訪町 三
下諏訪町 三

善光寺(上圖)は本堂の正面、下圖は仁王門附近を空中から見た光景で相似形の建物は僧坊。



園が多く、甲府市はその中心で、葡萄酒、水晶細工等の特産がある。富士川右岸の身延は、日蓮宗の靈地である。

⑤ 長野縣は數箇の盆地に分れ、その各盆地は、概ね栽桑養蠶が盛である。千曲川流域の小諸は、製絲業の一中心で、附近に鯉の養殖が行はれ、上田市は養蠶製絲の重要な中心である。善光寺平の長野市は、名刹善光寺の門前町として發達した處で、佛都の稱がある。古戰場として名高い川中島、傳説と眺望とで知られる姥捨山がこの近くにある。松本平の大中心で、この邊から飛驒山脈の眺望は、實

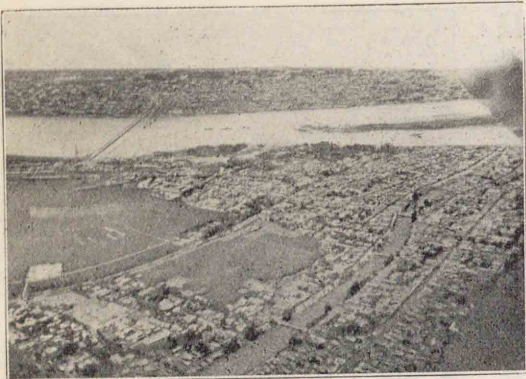
諏訪湖畔には處々に温泉が湧出する。

④ 運搬された籠(岡谷)

⑥ 新潟縣 千人

新潟市 二五
長岡市 三
高田市 三
三條町 三
新發田町 三
加茂町 三

④ 沼垂方面の空中から見た新潟港。新潟に醫科大學がある。



に雄大である。諏訪盆地には、諏訪湖を湛へ、湖畔に上諏訪、下諏訪、岡谷等があり、製絲業の大中心となつてゐる。伊那谷も亦養蠶が盛で、飯田はその中心である。木曾谷は檜の良材を出すので昔から名高い。

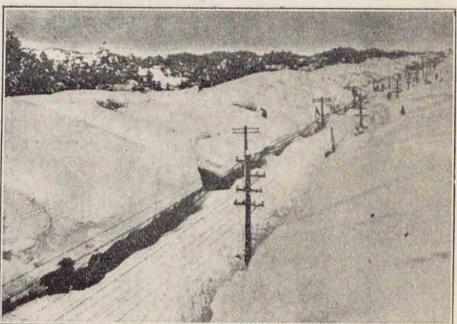
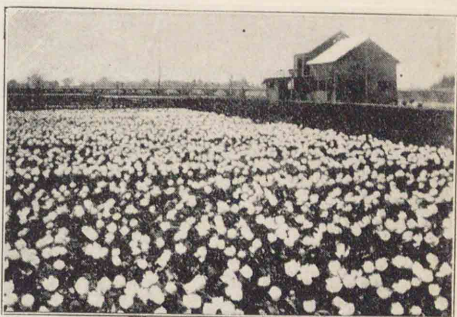
⑥ 新潟縣の要部は越後平野で、下越(信濃河川の下流)、中越(信濃川の中流)、上越(荒川流域)に分れ、海上に佐渡島がある。



新潟市は信濃川の川口に位し、古い開港場であるが、天然の障害が多く、貿易は振はない。近年築港が完成し、將來を望まれてゐる。この南方の河岸には、近年花卉の栽植が盛になつた。長岡市は中越の中心都會

圖解新潟附近の花
卉園

圖解雪の高田市



で、米石油の取引が盛である。上越の**高田市**は、積雪の深いので名高く、この附近は我が國スキ一の發祥地である。**直江津**は交通の要地であるが、

良港ではない。⁽⁴⁾佐渡には昔から名高い金山があり、東部の夷は、舟泊の要地である。

七 富山縣は平野と山地とに分れ、山麓には扇状の斜面が發達し、川は數派に分れて流れる。⁽¹⁾**富山市**は賣藥の特産で名高く、廣く内外にその行商人を出す。**高岡市**は漆器・銅器等を



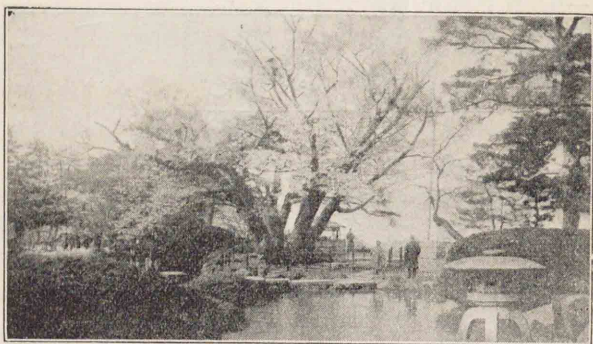
富山縣 千人
富山市 五
高岡市 三
新湊町 三
圖解富山廣貫堂の
賣藥製造工場

氷見に縫針の名産
がある

八 石川縣 千人
金澤市 一巷

圖解兼六園の一部
(池は霞ヶ池、池畔
の大木は旭櫻と呼
ばれる名樹)

金澤に第九師團司
令部・醫科大學が
ある



出し、又米の取引が盛で、伏木はその外港である。海岸には氷見その他の漁港があり、内部の城端は、羽二重産地の一中心である。⁽²⁾東境に近い立山は、登山者が多い。

八 石川縣の要部は、加賀平野であるが、能登半島にも聚落が少くない。⁽¹⁾北岸の輪島は、良質の漆器を出し、半島の頸部には、商港の七尾や、温泉場の和倉がある。⁽²⁾平野の中心にある**金澤市**は、雄藩の城下町で、名高い兼六園がある。今も北陸第一の都會で、羽二重・富士絹・九谷焼・漆器等の工業が行はれ、**金石**は市の外港である。羽二重・富士絹・九谷焼の産地は、西南一帯に延び、**小松**・**大聖寺**等は、何れもその一中心である。西南の山麓には**山代**・**山中**・**粟津**等の温泉地がある。

九 福井縣は福井平野を要部とし、西部は別區をなしてゐる。⁽¹⁾福

●福井縣 千人
福井市 畜
敦賀町 三

木芽峠を界として
嶺南・嶺北といふ
三國の附近に東尋
坊の勝地がある
敦賀の東部に氣比
神宮(祭神仲哀天
皇)がある
●敦賀港(對岸
は立石岬)

(府縣名)(廳所在地) (管轄國名)
滋賀縣(大津市) 近江
京都府(京都市) 山城・丹後
奈良縣(奈良市) 大和
三重縣(津市) 伊賀・伊勢志摩・紀伊一部
和歌山縣(和歌山市) 紀伊大部
大阪府(大阪市) 河内・和泉
攝津東半部
攝津西半部
播磨・但馬
丹波・淡路
兵庫縣(神戸市) 一部

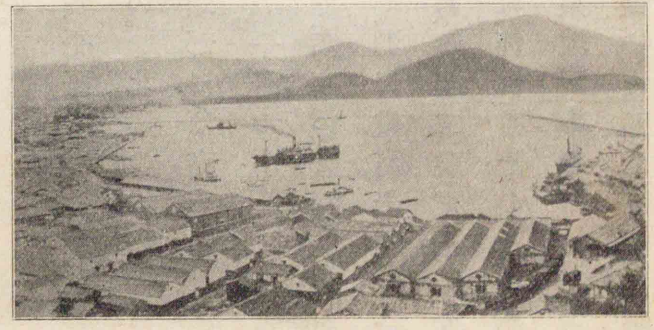
井平野は、我が輸出羽二重の主産地で、福井市は勝山・大野等と共に、その中心である。三國は福井の外港で、武生は和紙・蚊帳等の特産を出す。若狭灣岸には、敦賀・小濱等の良港がある。小濱は漆器を産し、近海に水産が多い。

第四章 近畿地方

通説

昔の畿内と、その附近の地を占め、我が建國以來、二千五百有餘年の間、帝都のあつた地方で、史蹟名所が甚だ多い。早く開けた上に、近代文化の大中心も發達し、阪神地方は、總ての點が京濱地方と對立してゐる。政治上二府五縣に分ける。

地形 南部山地(紀伊半島)中央盆地(瀬戸内陥没)及び西北部山地の三區に分ける。(1)南部山地は、紀伊山脈の連る處で、赤石



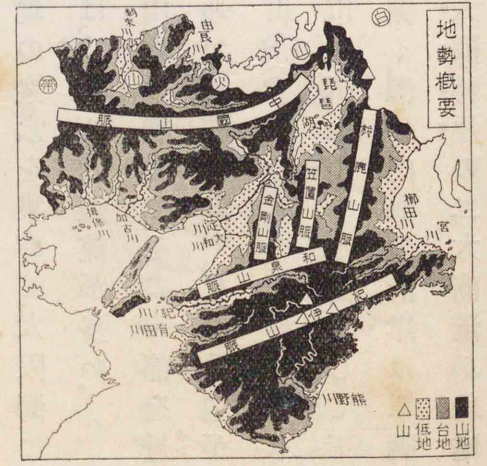
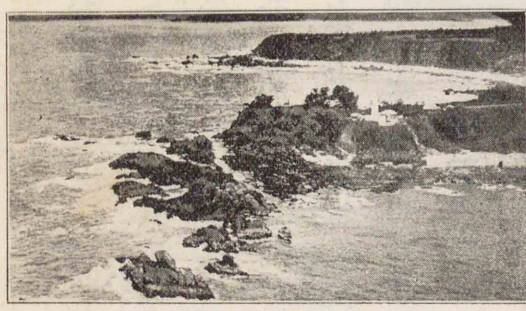
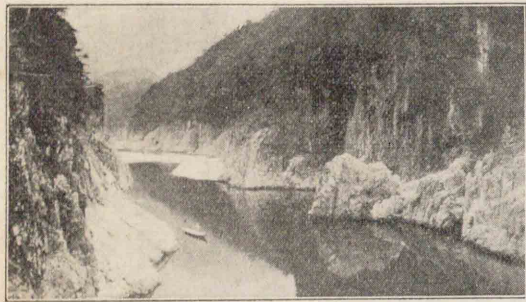
面積 約三〇〇〇方軒
人口 約一〇一萬

熊野川は十津川・北山川の合流である

四國の兩山脈と連絡がある。楠田川・紀川が略その北境を流れ、この河谷は、古來重要な交通路であつた。南側の河は、山脈を横ぎり、峡谷を作つて流れる。熊野川上流の瀨八丁は、風景がよいので

圖 瀨八丁の峡谷

圖 空中から眺めた湖岬



名高い。海岸は一體に小屈曲が多く、志摩半島はリヤス式海岸の代表とされる。湖岬は



シホノミサキ

宇治の茶園
（白く見えるは玉露を造る爲の日覆）



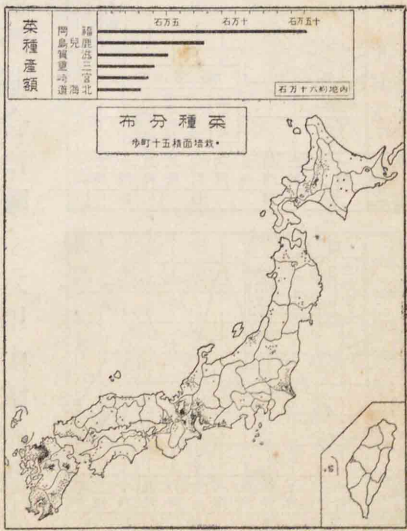
部は冬季陰鬱な天氣は續くが、北陸地方に比べると、氣温が^{低い}高く、降雪は少い。降雲多し、産業 早く開けた爲に、耕地がよく整ひ、殊に播磨平野と、中部の諸低地とは、主要な農産

諸低地とは、主要な農産

地區である。米は兵庫縣を第一とし、滋賀・三重の諸縣には米の外、菜種を産し、兵庫縣には、麥類（裸麥）の産出も少くない。

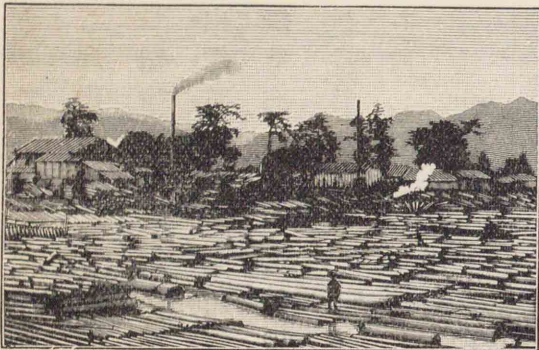
人口が稠密な爲に、米の消費が多く、内地米の外、朝鮮米・外米等の移輸入も少くない。大阪は徳川時代から、米の大集散地で、桑・名・四・日・市（以上三重）・姫路（兵庫）等も、亦その取引が多い。

京都から奈良・三重の丘陵地にかけては、茶

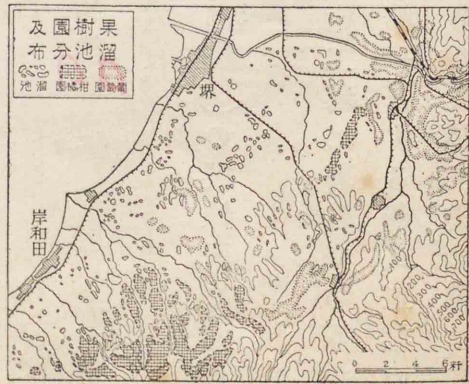
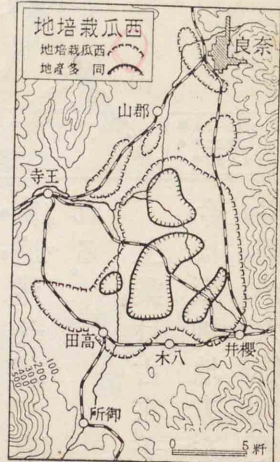


新宮の貯木場

京都盆地を繞る臺地には竹林が多く、その竹材及び筍は附近山中の松茸と共に一産物である。



園が多く、宇治は良茶の産地として名高い。有田川（和歌山）の流域は、氣候地



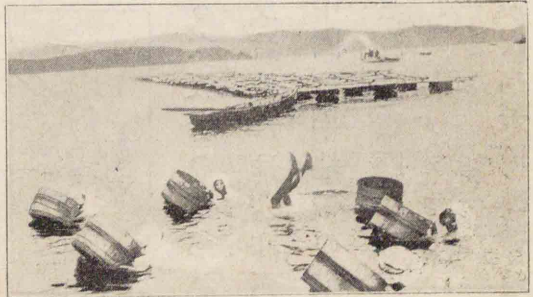
味等の關係で、蜜柑の大産地となり、箕島湯は、その積出港であったが、今は多く鐵道で送る。大阪府の南部から、蜜柑・葡萄等を出し、奈良盆地には大和西瓜の特産がある。兵庫縣は中國牧牛地帯の東端に當つて、神戸牛の名が著れ、滋賀縣にも肉牛の肥育が行はれる。紀伊半島は、廣く森林に被はれ、木材の産地

圖解眞珠貝の養殖
(棚の如く見える
は養殖貝を入れた
籠を下げるタンボ)

として名高く、紀川熊野川はその輸送に利用せられ、川口に和歌山新宮等の材木町がある。紀伊半島附近には、鱧、鰯、鯨等の漁利が多く、申本勝浦(以上利尾鷲波切(以上重)等の漁港がある。伊勢海には蝦、蛤等の特産があり、紀伊半島では眞珠貝の養殖が盛で、その眞珠は世界的に名聲を博してゐる。

鑛山は少く、生野の金銀銅と、明延の錫とが稍、名高く、生野の鑛石は、飾磨港を経て直島(香川)の製錬所に送られる。

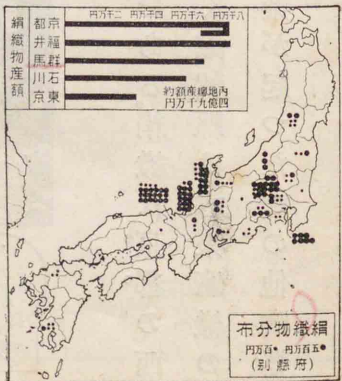
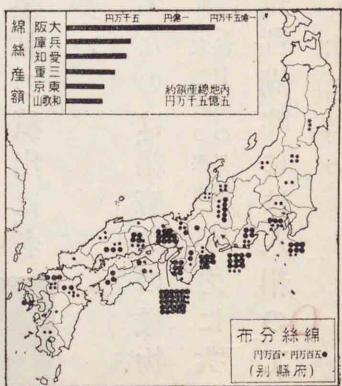
工業は古來、美術工藝に著名であるが、今は阪神地方を第一とする新式工業の勃興が大特色である。阪神工業地帯は、大



圖解 紀川の木綿晒場



阪神の二市を中心として、西宮、尼崎、岸和田の諸市を含み、更に西は明石、姫路の二市、南は和



歌山市までも、その延長と見らるべき大工業地帯で、工場が甚だ多く、盛況は京濱地方を凌いでゐる。工産物の首位を占めるのは綿製品で、紡績織物等の大工場(大阪、岸和田、尼崎、西宮、和歌山)が多く、和歌山は殊に綿ネルの産で名高い。毛織物(阪大)も相當に産するが、輸出額は多くない。

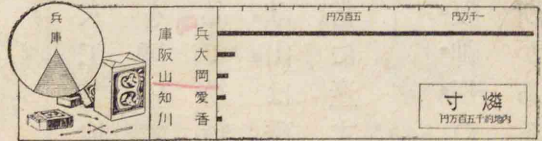
機械工業、金属工業等は、主として大阪、神戸の沿海地方に行はれ、神戸には二大造船所がある。

内部
圖解 マッチ工場の

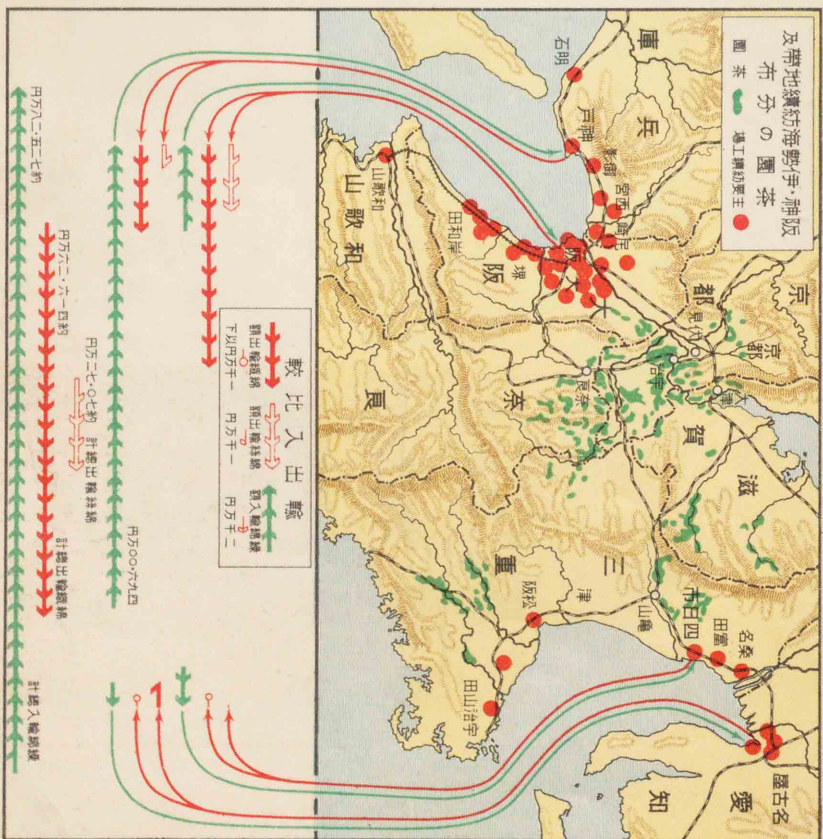
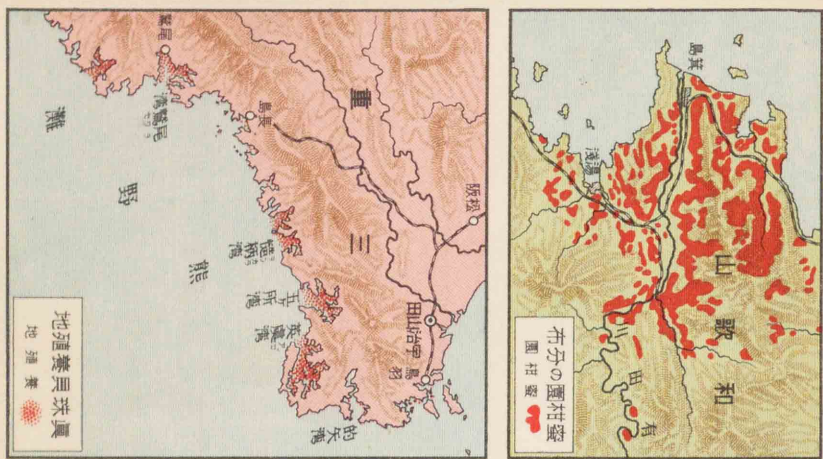
比較

化學工業では、藥品(大)セルロイド(堺)石鹼(大)硝子(大)マッチ(神)樟腦精製(神)等が盛である。神戸・大阪の二港は、この地方の關門で、前者は原料の輸入が盛で、後者は製品の輸出が多い。

伊勢海沿岸の桑名・富田・四日市・津・松阪等に互る一帯にも、紡績の大工場が多く、又綿織を出す。その原料は、四日市から輸入し、製品の積出は、名古屋を経るものが多い。



在來の工業で著名なのは、絹・麻等の織物である。絹織は京都の西陣織を第一とし、縮緬(京都府の峯山)が之に次ぐ。滋賀縣は古來麻織の特産地であつたが、琵琶湖畔には、人絹の工業が起つた。この他陶器(京都市)・漆器(京都)等も亦名高い。



造酒用の水は六甲山の花崗岩下から湧くもので西宮では宮水といふ

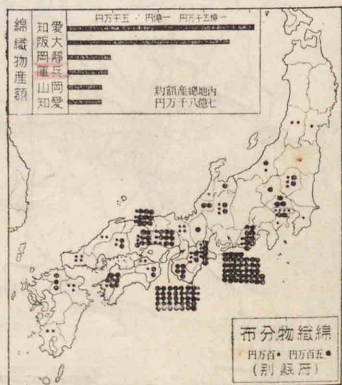
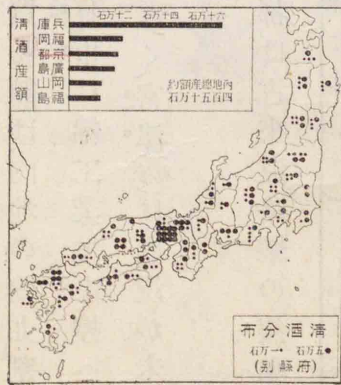
圖解 酒樽の包装



醸造も甚だ盛で、西宮・御影を中心とする所謂灘地方の清酒は、質も量も共に天下に冠絶し、尙伊丹(兵庫)・京都等の酒造地があつて、近畿地方は、内地清酒の約三分の一を出し、龍野の醤油も亦名高い。

灘酒の芳醇なのは、古い歴史がその技術に長ぜしめたのによるが、氣候と水質が醸酒に適し、良質な播州米を原料とし、樽材として吉野杉を用ひることなども、原因になつてゐるといはれる。

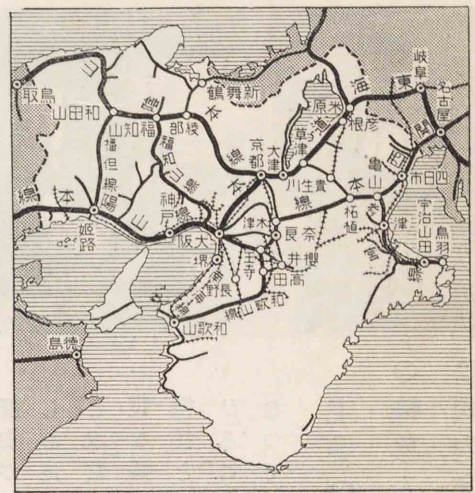
工業の發達は、原料の輸移入、製品の輸移出を活潑ならしめ、大阪は國內商業の大中心で、その商圏は東京のそ





- 1 神戸・下關間
- 2 京都・須佐間
- 3 大阪・名古屋間
- 4 綾部・中舞鶴間
- 5 神崎・福知山間
- 6 姫路・和田山間

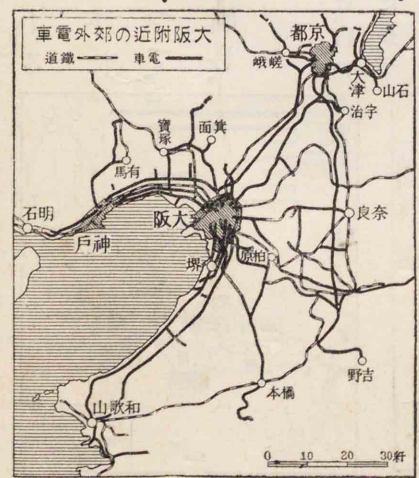
上ク
ア
ソ
ン
公



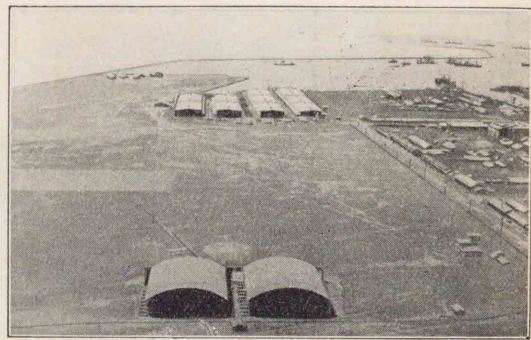
中仙北陸・中國・山陰等の主要街道が此處に集つてゐる。鐵道は東海道・山陽の兩線が、表日本の幹線で、北陸線と山陰線とは、京阪神地方と裏日本とを連ね、關西・舞鶴・福知山・播但等の諸線は、此等の幹線を連絡する。長距離電車は、他に

れよりも廣い。神戸は横濱と共に、我が二大貿易港で、大阪が之に次ぎ、三港を合せた貿易額は、内地の約九割を占める。四日市は綿工業地を控へて、輸入が稍多く、宮津(京都)は商況が未だ振はない。

交通 京都は古來道路網の焦點で、東海



圖解大阪の空港



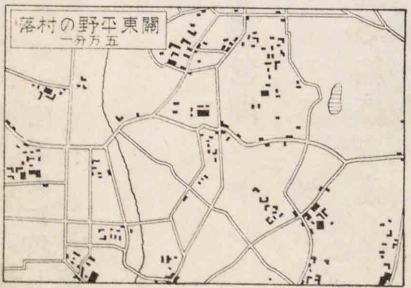
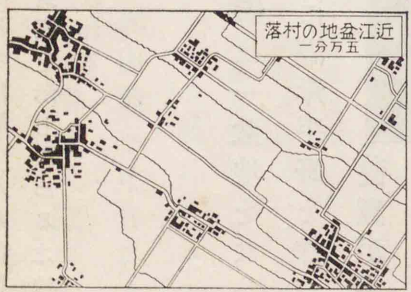
關には、四日市受信所(名古屋無線電信局)大阪無線電信局等がある。

人口と都會 歴史的關係から、盆地平野の人口は、關東平野よりも稠密である。都會は昔の城下町・港町の外に、遊覽地や又新しく勃興した盛大

比類なく發達して、住宅地・遊覽地と大都會とを連ねてゐる。紀伊半島は地形の關係上、鐵道の敷設が後れ、沿岸航路がその缺點を補つてゐることは、岩手縣のそれに似てゐる。

海運は神戸・大阪を中心とする。神戸は商港・旅客港として横濱と對立し、大阪は近海通船の出入が多い。近年大阪を中心として、航空輸

送も開け、又通信機



處誌

な工業町が多い。奈良盆地、近江盆地などの村落は、人家が密集して條理正しく、關東平野の散在してゐるのと著しい對照を示してゐる。之は往時、大陸制度に模して計畫された村の名残であるといはれる。

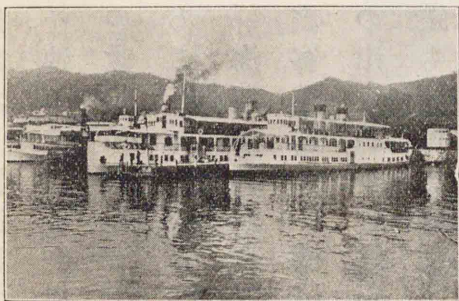
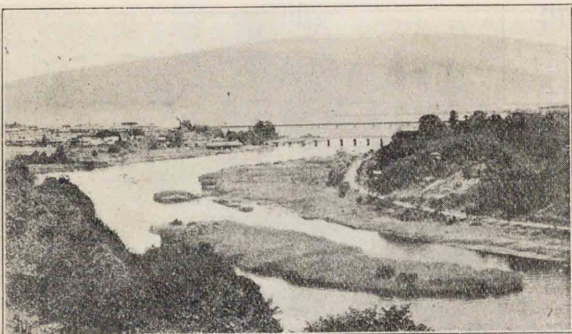
滋賀縣 千人

大津市 三三
彦根町 三三

八日市に陸軍飛行場がある

琵琶湖と瀬田川(近きは瀬田橋遠きは鐵道橋)

大津港(船は湖上の遊覽船)



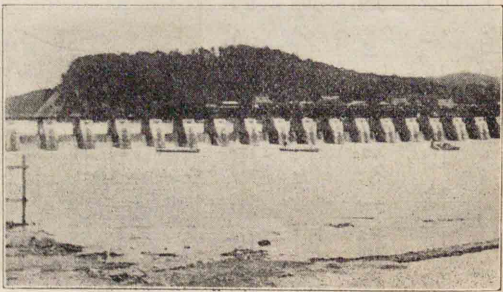
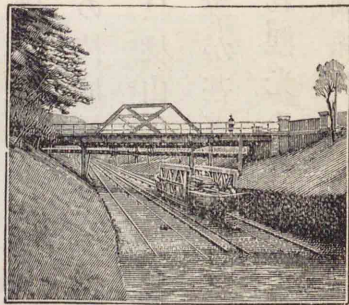
滋賀縣は一盆地をなし、琵琶湖を中心として、周圍に湖岸平野を作つてゐる。湖東は養蠶が盛で縮緬を産し、その中心の長濱には、麻織工場もあり、米原は交通の要地に當る。彦根は名高い城下町で、今も榮え、八幡は蚊帳の産地として知られ、日野は所謂近江商人の多く出た處である。湖南の大

琵琶湖のインクライン

琵琶湖南郷の洗堰

津市は、湖上交通の要地で、市の内外には、人絹麻等の大工場が多く、所謂近江八景は、多くこの附近にある。

琵琶湖は我が國第一の大湖で、湖中及び湖畔には、勝景の地が處々にある。湖上には汽船の往來が行はれるが、今は遊覽用が主である。この湖から流出する宇治川には、湖水を調節する爲に洗堰を設け、それ以下は急流で、舟運に適しないが、京都へ通ずる疏水には、インクラインの装置があつて、小舟を通ずる。宇治川及び疏水は、何れも發電に利用されて、京阪神地方に電力を供給する。湖中の水産も、湖畔住民の生業として重要であるが、この清冽で豊富な水量は、湖南地方をして、我が人絹工業の大中心たらしめた。



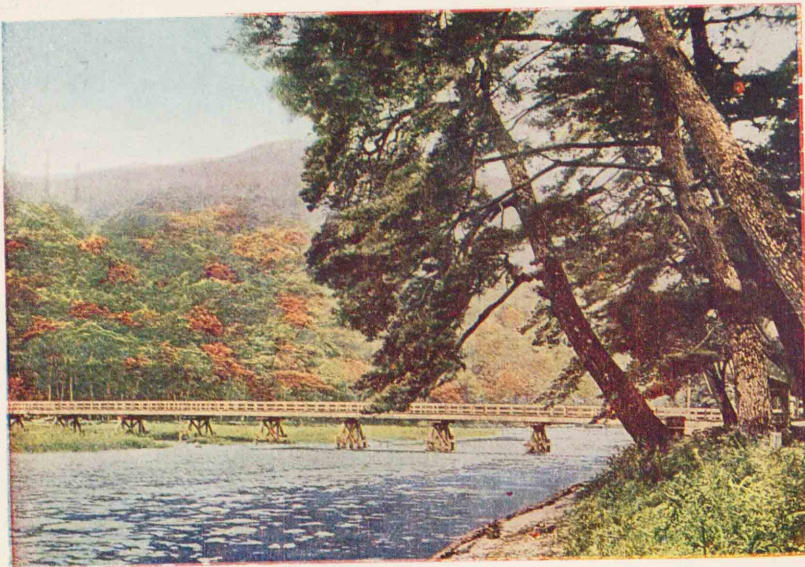
京都府 千人
京都市 三三
福知山町 三三

京都府は、山城盆地と西北部山地とに分れる。山城盆地は三方に山丘を繞らし、一方は山崎の隘路で大阪平野と通じてゐる。京都市は永く帝都となつてゐたので、古都の情趣が多く、今も學術軍



春日神社

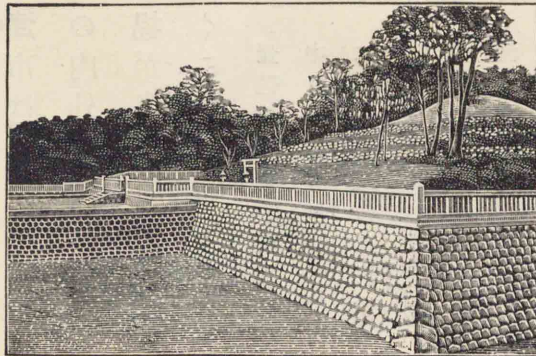
緑の森に青丹の宇廟、千年前の華榮の夢を實現に見るやうだ



嵐山

春の櫻の秋の紅葉、麗しい山容を保つ清流に映してゐる

圖解 桃山御陵



町村を合せて市域を擴げ、賀茂川・桂川等が市内を貫流してゐる。工業は概ね小規模であるが、染織・刺繡等の技に長じ、美術的の逸品を出す。市の内外には桃山御陵を始め、著名な神社佛閣、名所史蹟等が甚だ多く、遊覽地として第一指を屈せられ、觀光の客が常に多い。比叡山は市の歴史と關係が深く、今はその遊覽地である。宇

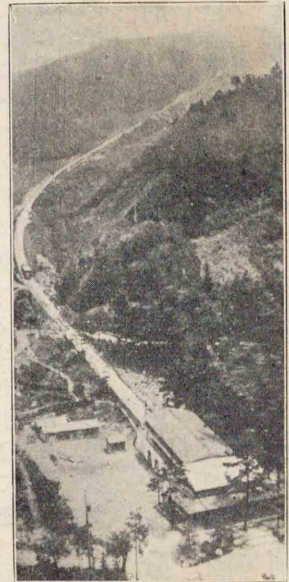
京都は全市を七區に分ち第十六師團司令部・京都帝國大學・府立醫科大學等がある

圖解 京都の市街

(下)

圖解 比叡山のケール(上)

事・商工業の中心である。近時伏見を始め、數多の



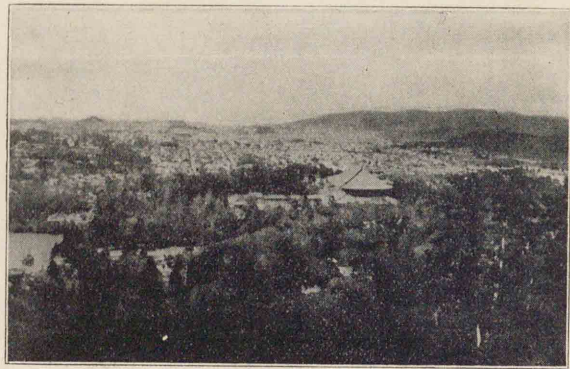
平等院には名高い
鳳凰堂がある

●奈良市の展望
(森の中の大建物は大佛殿)

●奈良縣 千人
奈良市 五

●法隆寺(塔と並ぶのが名高い金堂)

●奈良に勅封の寶藏正倉院がある



治は京都の關門に當つた處で、平等院の古刹があり、南境の笠置山は、史上の名地である。(2) 西北部の山地には、小盆地が多く、福知山はその中の一中心である。舞鶴は軍事上の要地を占める。

●奈良縣は奈良盆地と南部山地とに分れる。(1) 奈良盆地には史上の遺跡が甚だ多く、畝傍山、法隆寺等は

殊に名高い。盆地の中心たる奈良市は、古の平城京の東部に當り、近く三笠山を負うて、春日神社、東大寺、興福寺等の名高い社寺が多く残り、京都と並ぶ靜寂な遊覽都市である。郡山は



吉野に名高い如意輪寺がある

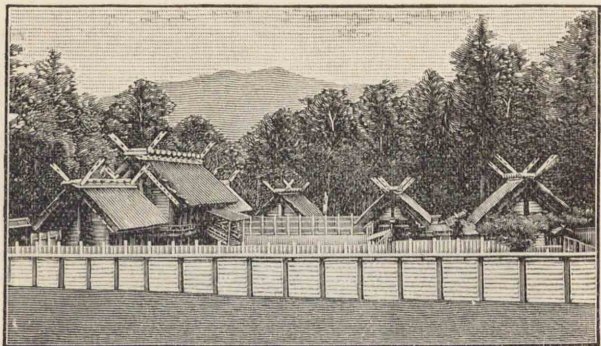
圖 吉野山の櫻花

三重縣 千人
津市 市
四日市 市
宇治山田 市
松阪 市
桑名 町
名 町
三 町

圖 伊勢の内勢
(正殿を側面から
拜した光景)

松阪は本居宣長の
出生地である

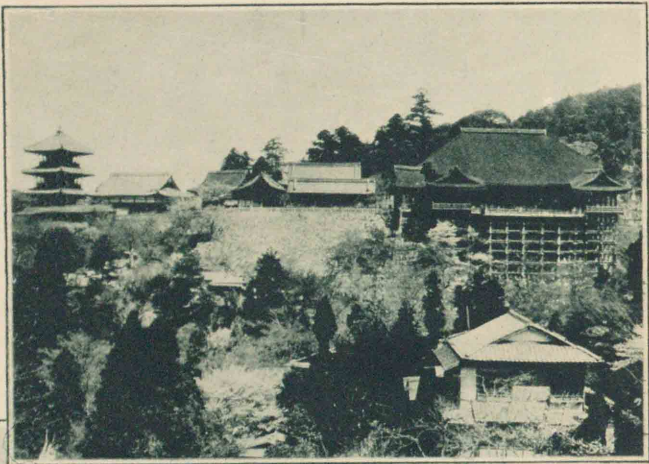
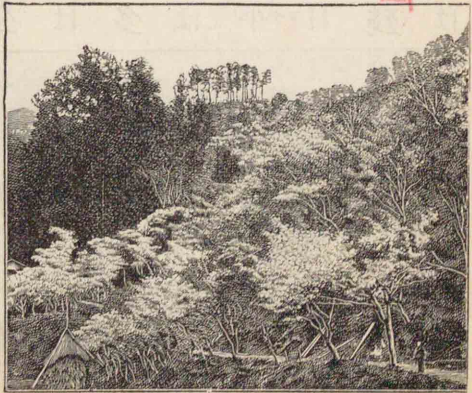
伊勢神宮の中内宮
は天照大神、外宮
は豊受大神を祀る



名邑で、附近に金魚の養殖が行はれる。吉野山は南部山地の入口にある要地で、吉野朝の史蹟と、櫻花との爲に名高い。

四 三重縣は伊賀盆地、伊勢平野及び南部

海岸地方の三區に分れる。伊賀盆地には上野の名邑があり、傘、陶器を出す。伊勢海に臨む桑名、四日市、津市等は、古く港として榮えたが、今は南方の松阪と共に、何れも綿工業が發達して、近代的工業地となつた。宇治山田市は伊勢神宮鎮座の靈地で、參拜者の爲に賑ひ、附近に二見浦の勝地がある。志摩半島の鳥羽は、熊野灘の避難港で、又漁業の一中心



京都の清水寺
堂宇は山崖に營造せられ、廣く市街を一
眸に集めて風景がよい



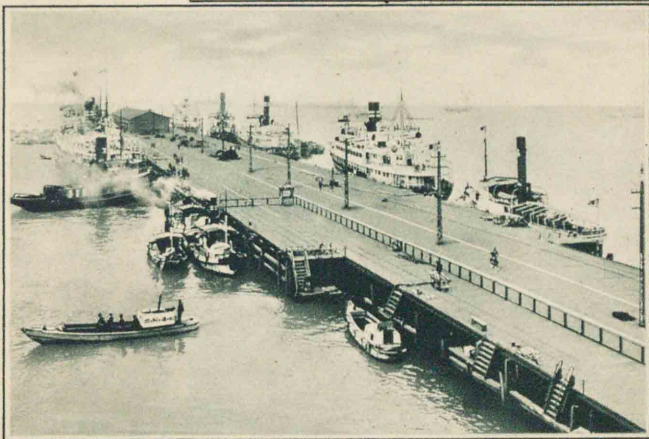
奈良の嫩草山
若草に被はれた優雅な斜面に
三々五々鹿が遊んでゐる



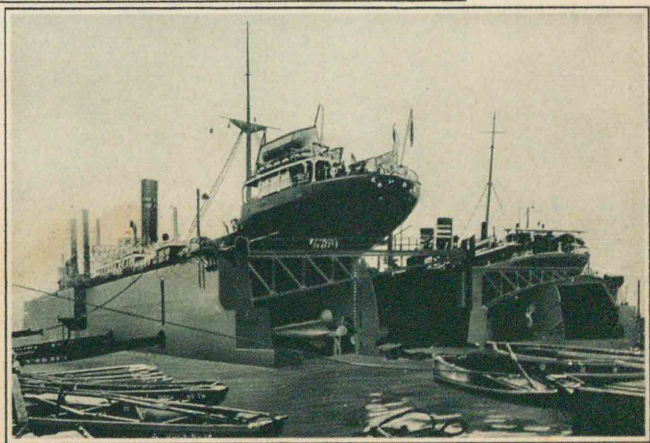
和歌山市の一部
城址から見た東北の一部で、煙突の立
つ邊から右へ工業地帯が續く



大阪城
豊太閤偉業の佛を石垣や外壕に残してゐたが最近舊形を模して天主閣を造つた



大阪港の棧橋
長さ四五五米・幅二七米に餘り兩岸には多くの商船を繫留してゐる



神戸の浮船渠
三菱造船所は神戸港内に三隻の浮船渠を有するが圖はその中の二隻を示したもの

和歌山縣 千人
和歌山市 一七
新宮町 三三
田邊町 三三

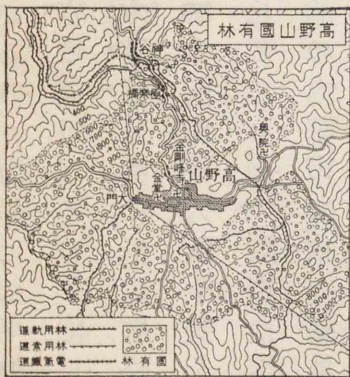
新和歌浦の光景

高野山の金剛峯寺

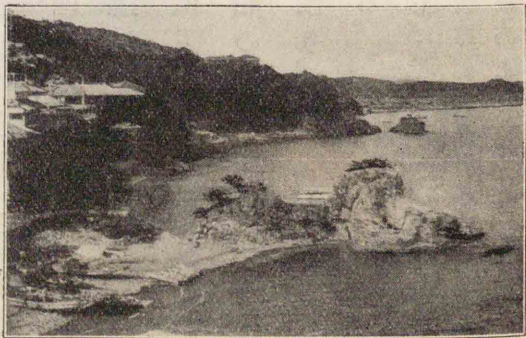
である。

和歌山縣は紀川流域、内部山地及び海岸地方に分れる。⁽¹⁾ 紀川の谷は、奈良盆地に入る一通路をなし、川口の和歌山市は、徳川氏親藩の居城地であつたが、今は重要な商工都市で、

附近に和歌浦の勝地がある。⁽²⁾ 内部山地は、國名(木國)の起因となつた木



材の産地である。その中の高野山は、交通不便な靈域であつたが、今は登山電車の開通等で、遊覽地化せんと

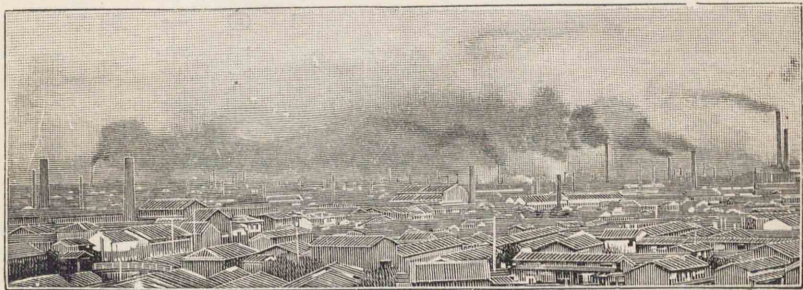


新宮に製紙工場もある

大阪府 千人
大阪府 市 西 二 五
岸和田市 三 五

大阪府の工場地方

大阪は全市を十五區に分ち第四師團司令部・大阪帝國大學及び工業大學・商科大學がある



してゐる。海岸には平地は少いが、漁港が多い。新宮は熊野川の口に位し、附近に那智瀧がある。串本・勝浦は、共に沿岸航路の要地である。
大阪府は大阪平野を要部とし、その周圍に山丘がある。大阪市は淀川の口に發達した世界的の大都市で、狭い臺地と、それを圍む低地とより成る。臺地には大阪城・四天王寺・高津宮等があり、低地は淀川の分流や、運河が四通して、水の都の實を示し、工業區・商業區となつてゐる。最近築港や棧橋も完成して、大船の繫泊に便利となり、木津川尻には航空港も備り、あらゆる點に於いて、西日本の大中心である。

大阪は仁徳帝の畿都により、史上に著名であるが、豊臣氏が此處に築城してから、著しく發達した。徳川時代には、多く諸藩の御藏屋敷が置かれて、經濟上の中心となり、江戸

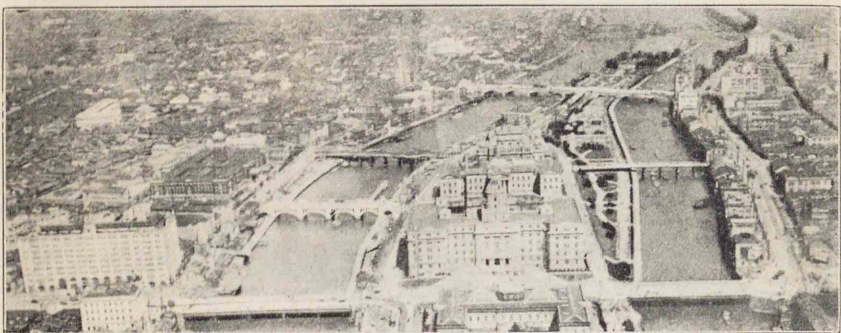
東北の吹田にビールの工場がある

堺の東部に大仙陵(仁徳帝御陵)がある

大阪市の中心部(中之島附近)

堺港

生駒山・信貴山に於ける寺院のある處は奈良縣に屬する



が藩邸を集めて、政治上の中心であつたのに對立した。明治以來、各種の大工業が勃興し、今は煙突が林立して、煙の都と化し、又商業上の大中心となつた。市は臺地が狭いので、住宅地を遠く海岸や山麓に求める傾向となり、之が郊外電車の發達を促す一因となつた。郊外の濱寺・箕面・寶塚等は、何れも市民の遊樂地である。
堺市は古い港であるが、今は岸和田市と共に綿工業が發達し、又セルロイド・刃物・足袋等の特産がある。東境の山地・山麓には、孔舎衛坂・四條畷・金剛山等の古戦場があり、生駒山・信貴山等には名刹があつて、登山者が少くない。



⑦兵庫縣 千人
 神戶市 七六八
 市 市 市 市 市
 路 崎 宮 石 明 洲
 市 市 市 市 市

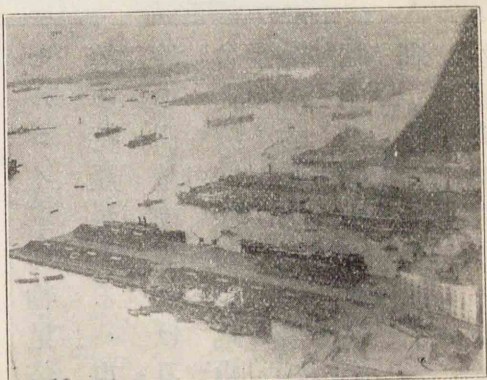
圖 市後の方諏訪
 山から望んだ神戸
 港

圖 神戸の埠頭

神戸に商業大學が
 ある

神戸港は主に外國
 航路、兵庫港は内
 國航路の港である

790601 419
 791544 419



尼崎・市灘の中心たる西宮・市御影・日本の大商港
 で又工業地たる神戸市等がある。神戸は綿鐵等
 の輸入が殊に多く、大工業地の門戸たる實を示
 してゐる。港は舊湊川の三角洲によつて、神戸・兵
 庫の二港に分れ、市内に湊川神社がある。

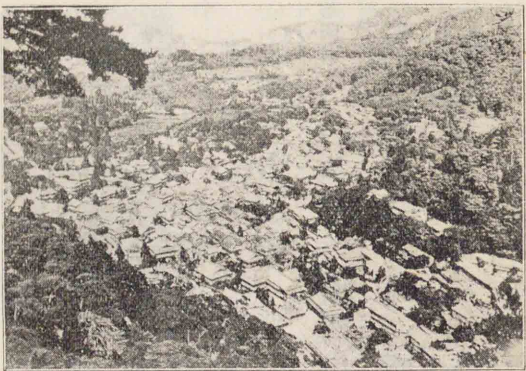
神戸市は平地が狭い爲住宅地は山腹にも擴がり、六甲山

⑧兵庫縣は西攝平野
 播磨平野及び北部山地
 に分れ、淡路島が海上に
 離れてゐる。西攝平野
 は、地理上大阪平野に屬
 し、阪神工業地帯の一部
 をなすもので、その沿岸
 には、小大阪といはれる

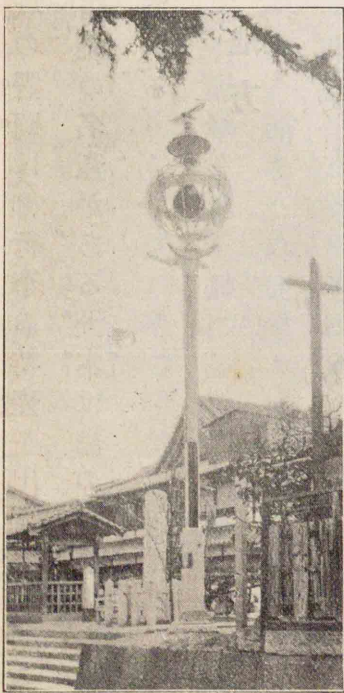
圖 有馬温泉

姫路に第十師團司
 令部がある

圖 中央標準時子
 午線通過地識標
 (明石市)



えた松の名所が多い。姫
 路市は略平野の中央に
 ある城下町で、米の集散
 が多く、又革細工の特産
 がある。北部山地には



麓の一帶は、氣候も風景も共によい住宅地區で、その
 背後に有馬・寶塚等の遊樂地がある。白砂青松の景に
 聞えた須磨や、源平の戦史に名高い一谷は、市の一部
 であり、舞子は明石海峡を隔てて、近く淡路島と相對
 し、眺望が眞に繪のやうである。

播磨平野は中國の山陽的氣分に充ちて
 あるが、その入口にある明石市は、神戸の郊
 外都市とも見られ、我が中央標準時の子午
 線は、此處を通過する。海岸には、古くから聞

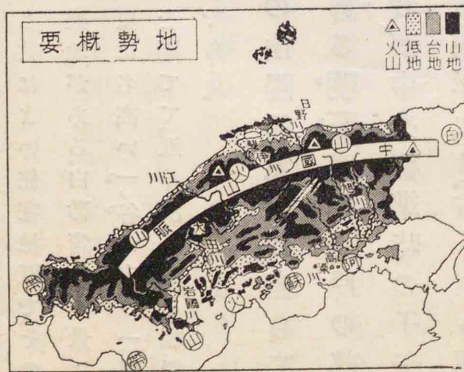
小盆地が多く、朝來川流域の豊岡は、柳行李の特産を出す。淡路島は耕地がよく開け、又淡路焼の名産がある。洲本は島の首邑、由良、福良は、共に軍事上の要地である。

第五章 中國地方

通説

古の山陽・山陰兩道の大部を占める。この兩道は、位置が全く相背し、自然の關係が著しく異なるので、人文上にも相違が多い。我が古代文化は、山陰の一部に起つたが、今は山陽方面が発達してゐる。政治上五縣に分れる。

地形 中國山地が略、東西に走つて、山陰・山陽の兩斜面に分ける。中國山地は、浸蝕された古い土地が、隆起して出來た高原で、盆地が多く、谷



面積 約三〇〇万平方
人口 約三〇萬

(府縣名)廳所在地(管轄國名)
岡山縣(岡山市) 備前備中兼作
廣島縣(廣島市) 備後・安藝
山口縣(山口市) 周防・長門
島根縣(松江市) 出雲・石見・隱岐
鳥取縣(鳥取市) 因幡・伯耆

山脈・火山帶
中國山脈
白山火山帶
大山 三瓶山 等が、この北邊に聳え、溫泉も處々にあつて、地方的の保養地となつてゐる。山陰斜面の江川は、山地を横斷して流れ、中國第一の大河であるが、之に伴ふ沿岸平野は殆どない。斐伊川・日野川等の下流は、宍道湖・中海の沿岸と共に、一帶の平野を開き、古代文化の中心となつた處で、主要な生産地である。海岸は島根半島と隱岐島との外には、著しい肢節がなく、日本海式に砂丘と斷崖とが續いてゐる。山陽斜面は幅が稍、廣く、吉井川・旭川・高梁川等は東部を流れて、下流に岡山平野を開き、この他處々に小平野がある。海岸は日本海岸と趣を異にし、岬角・島嶼が多く、良港灣に富み、吳の軍港がその中部にある。



瀬戸内海 本州・四國・九州の間にある内海で、紀淡・鳴門・下關・豊豫の四海峽によつて、外洋と通ずる。海峽は潮汐の干満毎に、激しい潮流を生ずるが、何れも軍事上、交通上の要

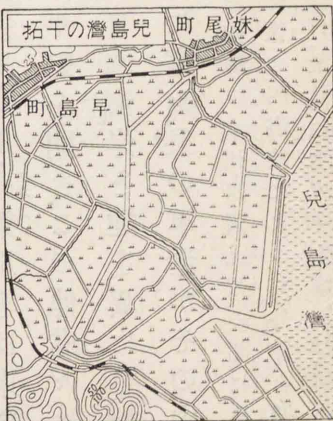
圖 中海と大山
(一) 艘の船はソリ
コトとこの邊の
特有のもの)

下關海峽・廣島灣
等の附近は要塞地
帯である

瀨戸内海の風景
(兒島半島の近海
で町は下津井)

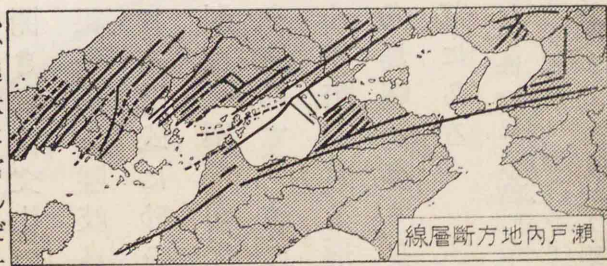


地で、廣島灣と共に要塞地帯となつてゐる。内海の沿岸には、兒島・讃岐・高繩等の半島が突出し、海上には大小の島嶼が散在して、その間に幾多の瀨戸(海峽)を作り、又此等の排列によつて、



海面を播磨灘・水島灘・備後灘・安藝灘・廣島灣・周防灘・伊豫灘等に分ける。その海上は、古來船舶の往來が繁く、又漁利に富み、海岸には鹽田が多く、十州鹽田の名が著れてゐる。

この内海は、斷層と陥没とにより、小起伏に富んだ土地が沈水して出來たもので、島の排列が、多く東北—西南、又は之と直角の方向をとるのは、斷層線に支配されるからである。沈水當時は、島の數は更に多かつたが、川の堆積物により、本陸に連ねられた小島が少くない。現に平野と海岸との間にある丘陵は、斯く



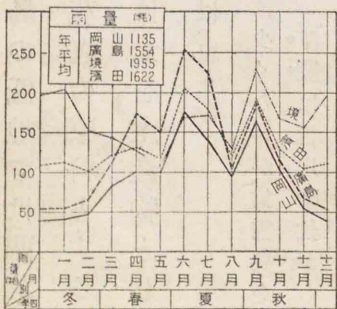
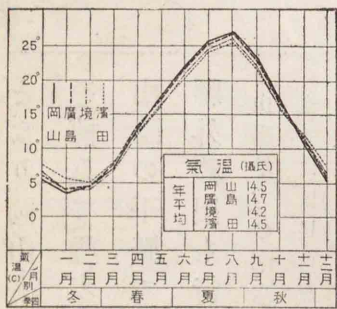
線層斷方地内戸瀨

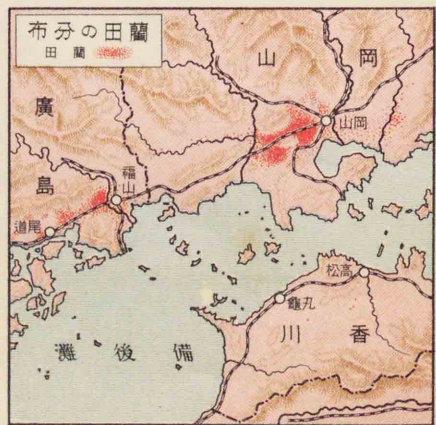
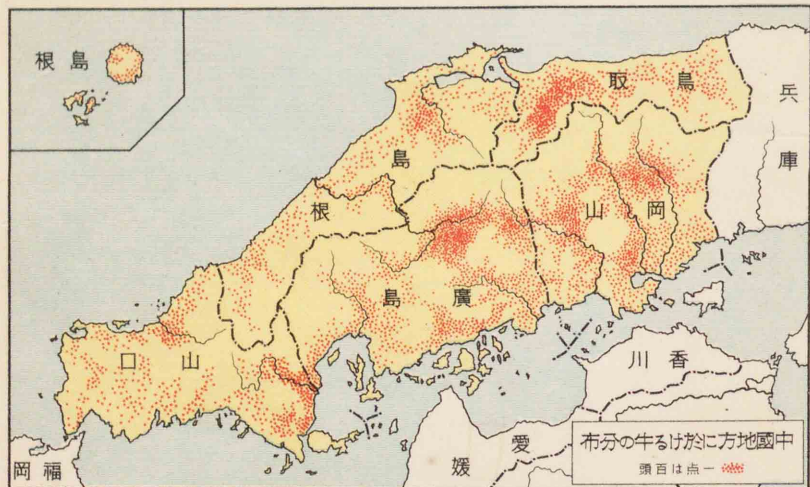
瀨戸内海の氣候は太平洋岸に比べると寒暑の差が烈しい

して出來たものである。人工的の埋立(干拓)も各地に行はれ、その最、大規模なのは兒島灣である。風景は各地各様の趣はあるが、要するに花崗岩から成る無數の島、その分解して出來た白砂、此處に茂る青松、波靜なる海面等が、相待つて明媚の風光を現出し、海上の公園と謳はれてゐる。

氣候 山陰地方は、山陽に比して氣溫が低く、且冬は西北季節風の影響を受け、天候が陰鬱で雨雪が多く、所謂日本海式氣候であるが、島根半島以西は、冬も氣溫が稍、高く、雨雪も割合に少い。内海方面は、向背共に山脈が連つて、濕風を遮るから、年内を通じて割合に晴天が多く、所謂瀨戸内式氣候で、空氣が乾燥する爲、灌漑の困難はあるが、海岸地方が製鹽に適するものも之が爲である。

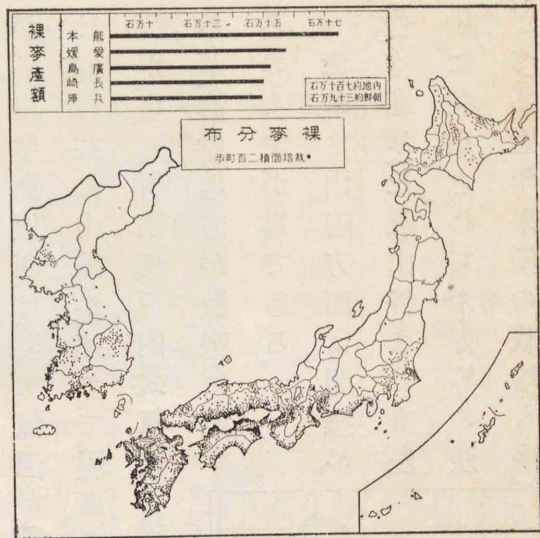
産業 山陽方面は開墾が普く進み、丘陵・山谷までも農耕に利用されて、米麥等の産が多く、近年果樹の栽培も盛





圖解夏蜜柑の採集

花筵は岡山縣が本邦第一の産地である



(廣)夏蜜柑(山)等が殊に多い。

中國山地殊に三次盆地津山盆地大山山麓等には、牛の放牧が行はれて、我が國第一の牧牛地帯をなし、廣島には肉罐詰の製造が盛である。

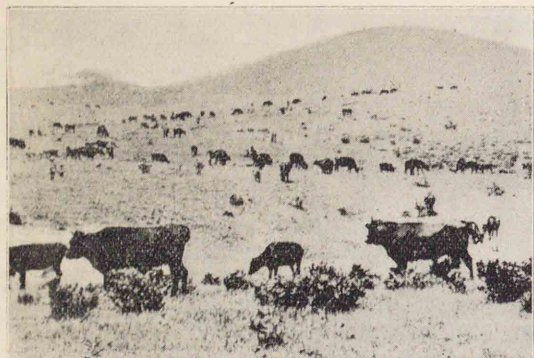
となり、岡山廣島の低地では、藺草を植ゑて、疊表花筵の原料とする。山陰の平野では、米を主産物とし、縣外移出も行はれる。山陽地方の米産は少くないが、尙需要を充すには足りない。下關は徳川時代から米の大集散地として知られてゐるが、今は對岸の門司が盛になつた。果物は桃・梨・葡萄(山)・ネーブル



廣島縣の罐詰は牛
以上が牛肉で肉類
罐詰の産額は全國
第一である

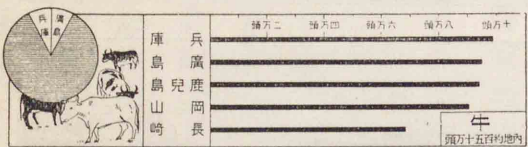
圖解 蘭田の光景

圖解 牧場(油木高
原)



牛は多く農家の副業として飼はれ、農耕に使はれるが、
農閑時には犢と共に牧場に肥育されて、各地に送られ
る。廣島の罐詰は、最初この地方の牧牛によつたが、今は
遠く朝鮮支那等から原料を買ひ、尙季節により、野菜や
水産物などの罐詰も造る。

瀬戸内海には鯛・鱒等が回游し、廣島灣には、



牡蠣の養殖が行はれる。日本海岸の漁獲高は、
内海方面に及ばないが、柔
魚の漁獲が多く、鰯の製造
が盛である。

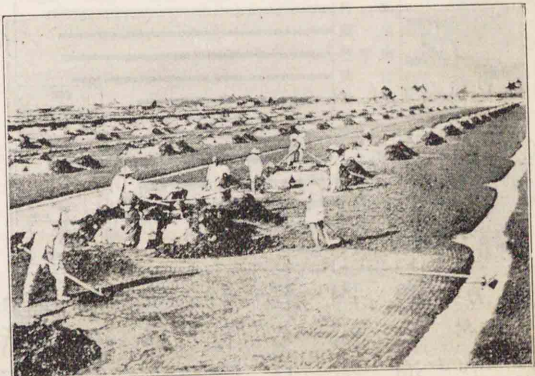
山口縣は優秀な位置を利用し、



圖 解下關に集つて
ある多数のトロー
ル漁船



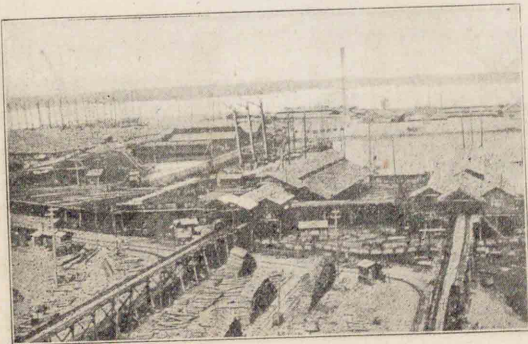
圖 解防府の鹽田



遠く黄海東支那海等へ
出漁する爲に、内地有数の
漁獲高がある。下關は
此等漁業の大中心で、漁
船が多く集り、漁獲物陸
揚高の多いことは、世界
にも稀である。

圖 解宇部炭坑（船
は石炭積込船）

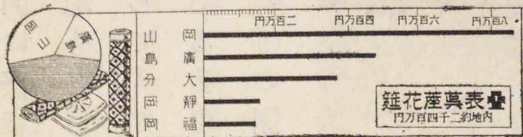
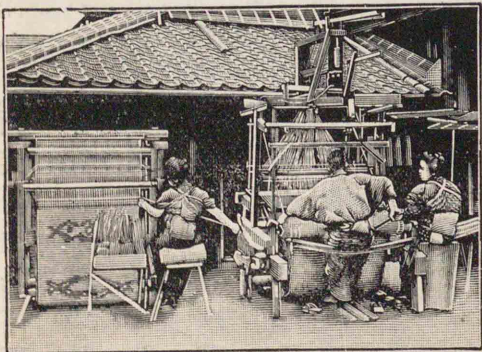
製鹽業は内海の一特色であつて、十州鹽田
の名は昔から知られ、内地製鹽の約九割は此
處から産する。中國で特に鹽田の多いのは、防
府（山）松（水）味（野）等（山）の附近である。
鑛産の第一位を占めるのは石炭で、大嶺と



北部からは砂鐵が
出る

圖 解花筵の製織

宇部とがその主産地である。大嶺炭は炭質が良好で、徳山にある海
軍燃料廠の原料となる。岡山縣には吉岡（銅）柵原（鐵）等の鑛山があ
り、山口縣（吉）の大理石や、瀬戸内海諸島の花崗岩等も亦名高い。
大工業地帯は未だ現出しないが、内海岸の東部一帯、即ち岡山・倉敷・
玉島・笠岡（以上）福山（以上）等には紡績の工場があり、又綿織を産する。疊
表花筵等も、古くから農家の副業として、この地方から産
し、岡山・福山・尾道（以上）等は、その集散地
である。製帽眞田（經）高梁・笠岡（以上）
を集散地として、その附近から出
る。西部では、處々に織物を産する外、
新式工業として、吳の造兵工業が最
著れ、その他徳山（料）宇部（紡）小野
田（ト）等の工業地があり、廣島も
望を將來に囑されてゐる。



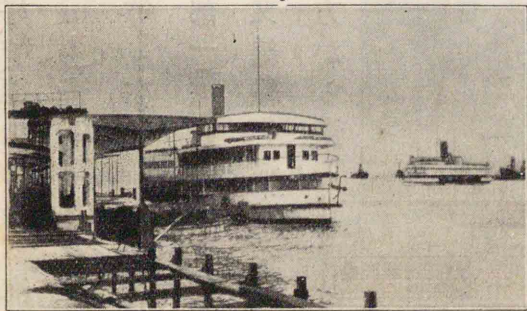


産業交通等の關係から、商業も山陽方面に盛であるが、未だ大中心はない。下關は形勝の地を占め、米及び水産物の集散が多く、又貿易港としても知られてゐるが、背後地の狭いのが缺點である。その他宇野・尾道・絲崎・徳山・萩・濱田・境等の開港は、商況が未だ振はない。

交通 主要の道路は南北の海岸を通じ、又處々に河谷を利用した横斷路がある。鐵道は山陽・山陰の兩幹線があり、山口・伯備・因美の諸線が之を連ねてゐる。

西端の下關は、門司及び釜山へ鐵道連絡船を通じて世界の交通幹線上に立ち、宇野は四國に鐵道連絡船を通ずる。

人口と都會 中國山地にも聚落は少くないが、人口は内



- 1 小郡 石見盆田間
- 2 倉敷 伯耆大山間
- 3 鳥取 津山間

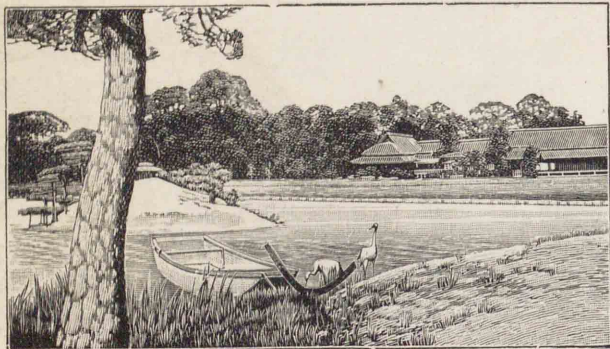
圖 關門の連絡船

- 岡山縣 千人
- 岡山市 一〇
- 津山市 一〇
- 倉敷市 三〇
- 玉島町 三

岡山に醫科大學がある

圖 後樂園の一部 (建物は延養亭)

圖 宇野港



處誌

海方面に著しく稠密である。山口・廣島・岡山の三縣が、全國有數の出移民地であるのは、一に之が爲にも因る。大都市は概ね城下町であるが、内海沿岸には港町の多いことが一特色であり、新興都市は全體に少い。

岡山縣は岡山平野と北部山地とに分れる。

(1) 岡山市は著名の城下町であつたが、今は工業及び交通市として榮え、風致に名高い後樂園がある。海岸地方には倉敷市・玉島・笠岡等の工業地が發達し、兒島半島の宇野は、四國へ渡る要津である。(2) 北部には小盆

●廣島縣 千人
 廣島市 二〇〇
 吳市 一〇〇
 福山市 一〇〇
 尾道市 元

●圖 廣島縣 (前面の島は仙醉島)

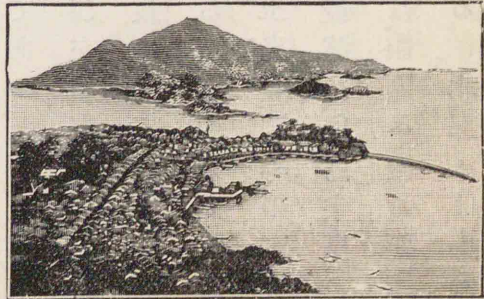
●圖 嚴島神社

●圖 宇品港の光景

廣島に第五師團司令部・文理科大學がある



道・山・尾・福



兩市はその中心である。高、新市は綿織産地の一中心である。(2) 大田川の三角洲に跨る廣島市は、雄藩の城下町で、その

地が多く、その一中心たる津山市は、板紙や綿織を出し、院庄の舊蹟がある。

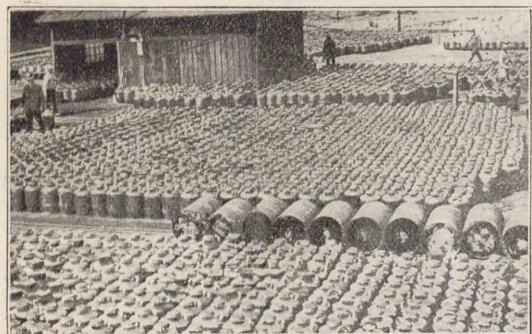
■廣島縣は自然の關係が岡山縣に似てゐるが、平野は大體東西の二に分れる。(1) 東部は岡山平野と共に壘表の主産地

●圖 山口縣 千人
 下關市 三〇〇
 萩市 三〇〇
 山口市 三〇〇
 防府市 三〇〇
 徳島市 三〇〇
 彦島町 三〇〇

●圖 小野田の人造肥料工場に並べられた多數の硫酸瓶

山口市は維新の前期毛利氏の舊城地でこの藩から維新の功臣が多く出た

港の宇品が、軍隊の輸送地となつてから大いに發展し、今は中國第一の大都會で、軍事學術の中心地である。海上にある嚴島には、嚴島神社があり、天然の風致と、社殿の美觀とによつて著名である。吳市は軍港町として榮え、又萬年筆の特産があり、西條は清酒を出す。(3) 北部山地の三次は、盆地の中心地で、麻の集散が行はれる。



●山口縣は本州の西端に當り、海岸の平野と内部の山地とに分れる。(1) 内海方面には徳山、宇部、小野田等の工業地も勃興したが、日本海岸には、夏蜜柑の産に名高い萩市の外には、著しい都會がない。南北兩海岸の結合點に當る下關市は、彦島及び九州と相對して、瀬戸内海の口を扼し、交通の要地で、附近に壇浦の史蹟がある。(2) 山地には多くの小盆地がある。山口盆地の山口市は、戰國時代に繁華を極め

と内部の山地とに分れる。(1) 内海方面には徳山、宇部、小野田等の工業地も勃興したが、日本海岸には、夏蜜柑の産に名高い萩市の外には、著しい都會がない。南北兩海岸の結合點に當る下關市は、彦島及び九州と相對して、瀬戸内海の口を扼し、交通の要地で、附近に壇浦の史蹟がある。(2) 山地には多くの小盆地がある。山口盆地の山口市は、戰國時代に繁華を極め

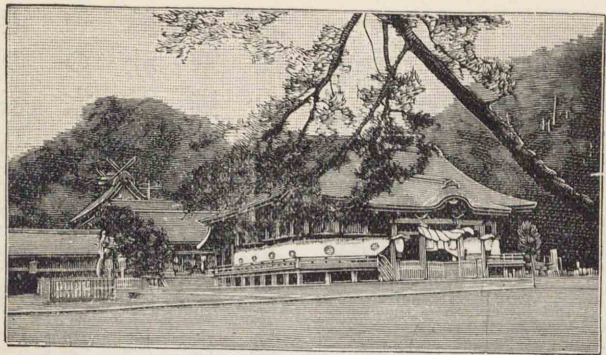
秋吉臺の洞窟

たが今は閑寂な都市である。
秋吉臺は、我が國には珍しいカルストと呼ばれる地形をなし、地表には摺鉢形の凹穴が無數に散在し、地下には大小の鐘乳洞が多い。東北の長門峽は、溪谷の美で名高い。



島根縣 千人 松江市 四

出雲大社



島根縣の主部は出雲平野であるが、西南には狭い海岸低地が續き、海上に離れて隱岐島がある。⁽¹⁾ 西部では和紙、赤瓦などを産し、濱田はこの地方の中心である。⁽²⁾ 出雲平野は古代に文化の開けた處で、出雲大社があり、賽客が常に多く、大社は其の門前町である。松江市は宍道湖に臨み、山陰第一の都會で、風光明媚なので名高く、瑠璃、細工、陶器等を出す。⁽³⁾ 隱岐は島前と島後とに分れ、史蹟に富む處で、西



岡山市の一部
旭川に沿ふ東北の一部で中程の森は後樂園、その右手前は城址である

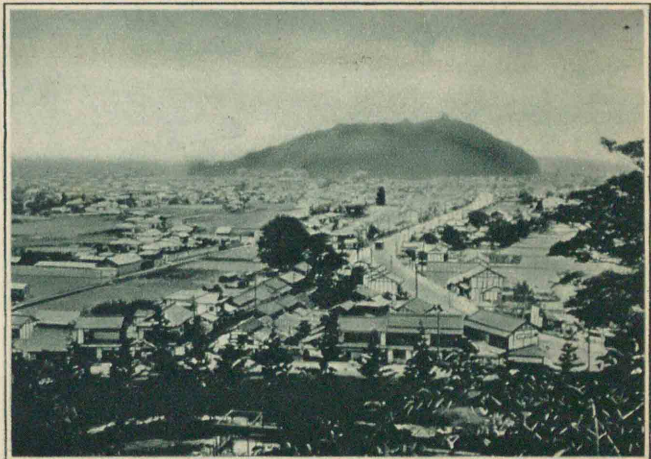
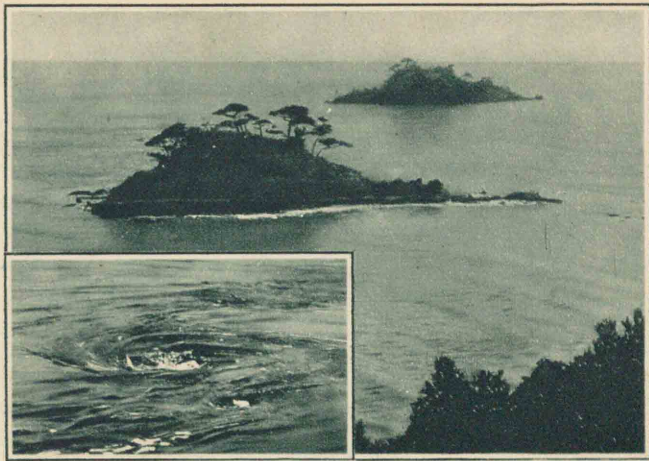


廣島市の下瞰
市の中部以北の部分で大田川が數派に分れ此處を貫流してゐる



宇部市の海岸
新進の工業市で右方の半島部に工場や第一、第二の沖山炭坑がある

鳴門海峡
観湖の好地である鳴門公園から
見た裸島飛鳥で附圖は渦流の一部



松山市の大観
道後公園から眺めた光景で市中に勝山の
翠丘が横はり天主閣が此處に峙つ



高知市の入口

場工トンメセはるえ見に透方右で景光の橋棧江潮るた關女の市

鳥取縣 千人
鳥取市 三
米子市 三

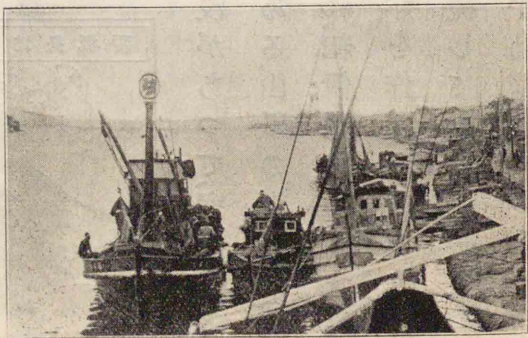
圖解 境港 (左方に
僅に現れるは美保
關)

圖解 舊城から見た
松江市



郷の良錨地がある。

鳥取縣の海岸地方には、砂丘や潟が多く、大體三の小平野に分れる。西部には夜見濱の大砂嘴があり、その頸部の米子市は、尖端の境と共に主要な港である。中部の倉吉は、木綿を産し、附近に三朝温泉がある。鳥取市は東部の中心都市である。



第六章 四國地方

通説

内海面(北四)と、太平洋面(南四)とに分れ、この兩面に於ける

(府縣名) (廳所在地) (管轄國名)
 德島縣(德島市) 阿波
 香川縣(高松市) 讃岐
 愛媛縣(松山市) 伊豫
 高知縣(高知市) 土佐

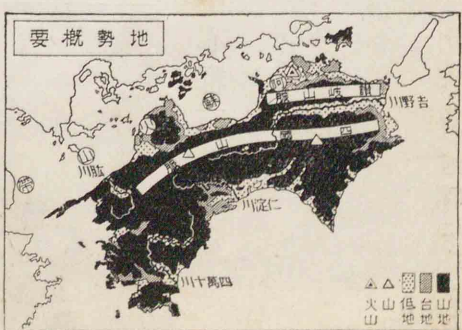
面積 約一七〇方軒
 人口 約三萬

山脈・火山帯
 四國山脈 米
 劍山 一五五
 石槌山 一五二
 讃岐山脈
 阿蘇火山帯
 飯野山 四三
 室戸崎



自然及び人文上には、著しい差異がある。北四國は、總ての狀態が山陽地方と類し、南四國は、紀伊半島や九州東南部に似てゐる點が多い。政治上四縣に分れる。

地形 四國山脈は紀伊山脈の續きで、地貌が概して峻しく、その中に劍山・石槌山等が聳えてゐる。山脈の北側は、吉野川の谷から海岸を西に走る一條の低地をなし、南側には土佐灣の陥没があつて、室戸崎と足摺(蹠)岬とが之を抱へてゐる。山脈の東西は、沈水して本州及び九州と離れ、紀伊・豊後の兩水道は、出入の多いリヤス式海岸を作り、西方の佐田岬は、突出して豊豫海峡を扼してゐる。

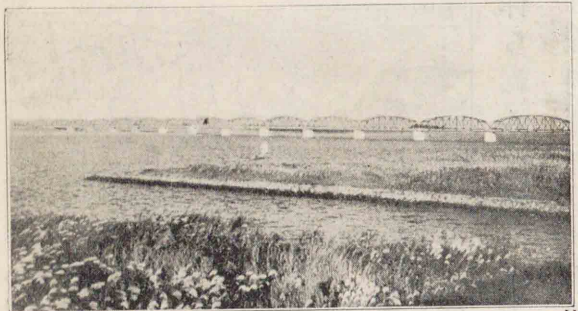


北四國の讃岐山脈・高繩半島は、近畿の陥没帶

河川(流長) 軒
 吉野川 二五
 四萬十川 一七
 肱川 一三
 仁淀川 一〇
 川 八

圖解 吉野川と東洋第一の長橋吉野川橋

圖解 大歩危の峽谷



及び中國の山地と關係のある部分で、何れも低く、且此處彼處に古い火山岩の丘陵がある。讃岐富士の名ある飯野山、屋島の熔岩臺地、奇景に名高い五劍山等は、即ちそれである。

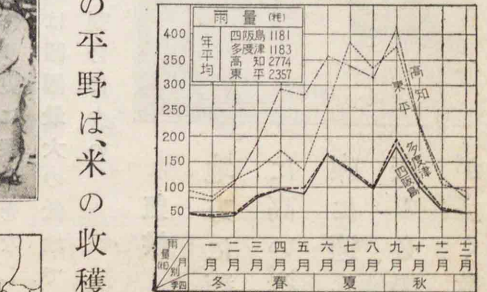
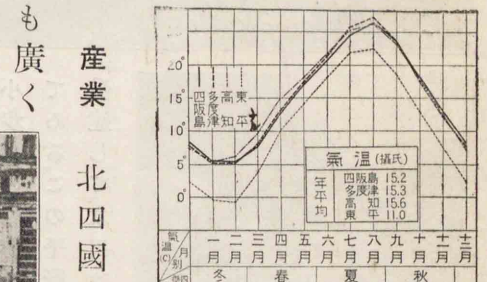
吉野川・仁淀川・四萬十川・肱川等は、この山中から流出するが、吉野川を除けば、流域の平野は何れも狭い。

吉野川は最初縦谷を流れるが、後に横谷となつて、大歩危小歩危の奇勝を作り、更に縦谷をなして徳島平野を開いてゐる。この平野は四國最大の低地であるが、礫層が廣く發達して、水田は割合に少い。

氣候 北四國は山陽地方に類して、氣温は更に高い。従つて沿岸は製鹽に適し、耕地は人工灌漑の必要があつて、溜池が多く散在する。南四國

東平(高知)
別子銅山
ノ一奇落

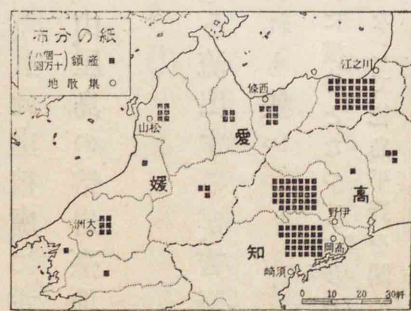
製紙工場の荷造



は紀伊半島の南部に酷似して、亞熱帯の植物が茂り、二回の稲作を行ふ處がある。

産業 北四國の平野は、米の收穫率が大で、又麥も廣く

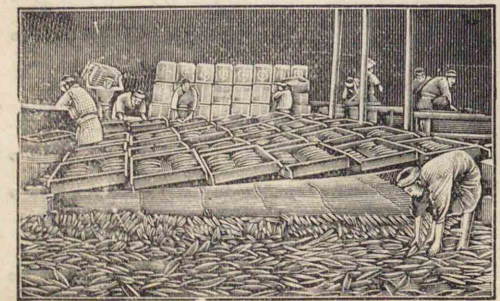
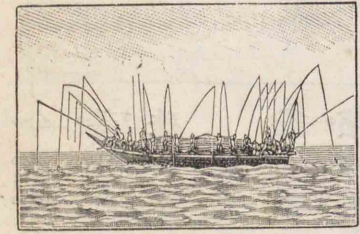
作られる。四國には、古來甘蔗(香)、藍、煙草(德)、木蠟(媛)紙(媛)等の名産があり、其等は藩侯の保護獎勵によつて發展したもので、今も尙盛なものもあり、或は佛のみを残すものもある。



藍作の盛時には、藩の主要財源となつてゐたが、今は多く桑園と化し、木蠟は一時衰へたが、再び回復して生蠟を多く出す。和紙の原料とする楮(カミ)、三極(カミ)の栽培は、農家の副業で、抄紙も亦多くは副業として行はれるが、高知、伊野(高知)、川之江(媛)等には、機械抄の大工場もある。

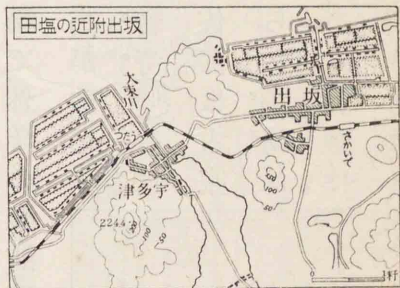
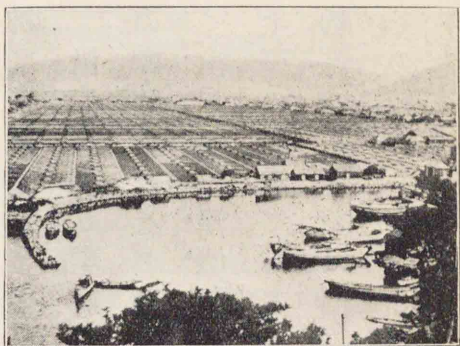
果樹栽培も處々に行はれるが、最も盛なのは媛縣で、梨、柑橘類を産し、養蠶も近年次第に盛となり、高知縣には廣い森林もあるが、木材は寧ろ移入が多い。

沿岸は到る處好漁場で、外洋の鰺、鮪、鰹と、内海の鯛、鱒とは、その漁獲高が殊に多く、室戸(高)、三津濱(媛)、觀音寺(香)等は、主要の漁港である。土佐節は古來品質の優良を以て知られ、須崎はその製造の中心である。製鹽は内海岸一帯に互つて廣く行はれ、



製紙工場と鰹節製造場

鹽田の出坂

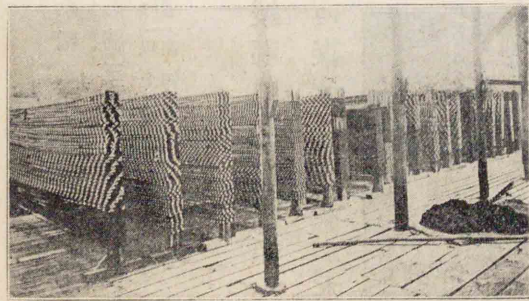


今治・波止・濱・(愛媛)坂・(香川)撫
養(徳島)等の附近には、鹽田が
殊に多い。
鑛産の著しいのは別子
(愛媛)の銅で、その鑛石を新居
濱から
四坂島

直島製鍊所は生野
鑛山の附屬

伊豫絣の干場

では近年鑛物肥料の製造も行はれ、直島(香川)にも
銅・金の製鍊所がある。
未だ大工業地帯はないが、今治を中心とする
綿ネル・タオル等の製織は最著れ、松山・徳島の綿
織も昔から名高く、その他、香川縣にはマッテ(高松)花
笠(丸)製帽(坂)等の産がある。



- 1 高松・南郡中間
- 2 高松・引田間
- 3 多度津・池田間
- 4 徳島・池田間
- 5 須崎・角茂谷間

この地は大阪の商圏に屬してゐるが、水運の便
を利用して、中國・九州方面との取引も少くない。今
治は唯一の開港場であるが、貿易上は神戸の背後
地に屬するから、國際取引は振はない。

交通 鐵道は豫讃線¹・高德線²が北海岸を走り、土
讃線が之から分れて、徳島線を連ね、南部には高知⁵
線が一部に開通してゐるが、陸上の交通は尙不便なので、乗合自動
車がよく發達し、又多くの沿岸航路があつて、その缺點を補つてゐ
る。高松は交通の大關門で、中國と鐵道連絡船を通ずる。

人口と都會 北四國は人口が稠密で、香川縣の如きは、府縣中有數の密度を持つ
てゐる。南四國は人口が著しく疎であるが、山地が多いので、縣外移住や外國移民
の數が少くない。都會は城下町と港町とが主である。

處誌

徳島縣は徳島平野を要部とし、西南の大部は山地である。⁽¹⁾ 徳



●徳島縣 千人
徳島市 六

鳴門の潮流は一時
間二十軒に及ぶ
●徳島港(新町
川の下流)

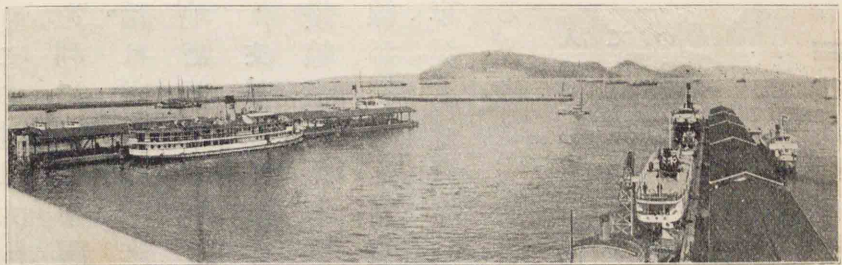
祖谷地方は交通が
不便で處々に蔓橋
があつたのを近年
悉く針金橋に換へ
たが最近再び一橋
を復して記念とす
ることになつた

●高松港(右は
商船棧橋左は連絡
船棧橋)

●香川縣 千人

高松市 六
丸龜市 三
坂出町 三

高松の西方に白峯
御陵(崇徳天皇)
東方に屋島(源平
古戰場)がある



島市は四國第一の都會であ
るが、港が浅いので、小松島を
外港とする。小松島は築港の
擴張と、土讃線の完成とによ
り、將來高松と競争の位置に
立たんとしてゐる。鳴門海峡
に臨む撫養は、附近に鹽田が
多く、脇町(藍)池田(草煙)は農産の
中心である。西南部には山
岳が重疊し、中に祖谷の別天地がある。



●香川縣の要部は讃岐平野で、近海には島が多
い。高松市は四國の大門戸に當り、商工業が榮え
てゐる。市内の栗林公園は、幽邃を以て知られる。坂
出は製鹽の中心、丸龜市は舊城下町、善通寺は軍事

善通寺に第十一師
團司令部がある

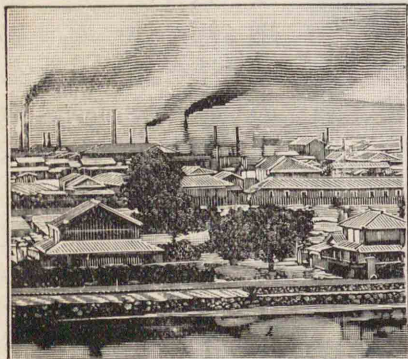
●金刀比羅宮と
その門前町

●愛媛縣 千人

松山市 三
宇和島市 四
今治市 四

●道後温泉の共
同浴館

●今治市の展望



町である。琴平には金刀比羅宮があつて、參詣
者が常に多く、船員の崇敬が殊に厚い。多度津
は昔時、この參詣者の上陸地として榮えた港
であるが、今も瀬戸内航路の要地である。海
上の小豆島は、醤油、素麵、石材等を出し、又、寒霞
溪の奇勝がある。

●愛媛縣は備後灘斜面

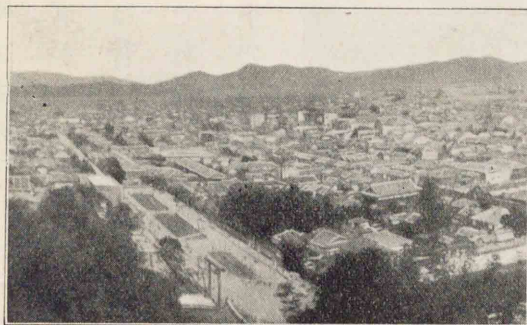


流域(豫北)及び豊後水道斜面
(豫南)に分れる。東豫には、川
之江(紙)新居濱(肥料)今治市(織綿)
等の工業的港市と、その山
中に鑛業地の別子がある。

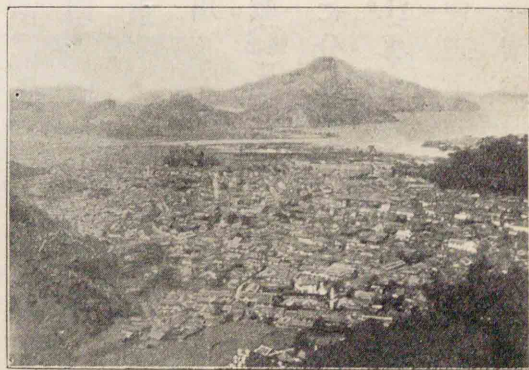
圖 峽灣式に入込んだ宇和島港

高知縣 千人
高知市 七

圖 天主臺から見た高知の市街



(2) 松山市は松山平野の中心に位して、工業も行はれ、近傍に有名な道後温泉がある。高濱は市の外港で、三津濱は水産物の集散が多い。南豫には八幡濱、宇和島市等の港市があり、宇和島には罐詰の製造が行はれる。



大洲盆地の大洲は、紙の集散地で、長濱はその外港である。

四 高知縣は大部が山地で、海岸平野以外には都市は少い。高知市は名高い城下町で、景色のよい吸江灣の奥に位し、港が浅いので、浦戸を副港としてゐる。伊野は製紙町で、須崎は屈指の良港であるが、灣内の狭い缺點がある。

第七章 九州地方

通説

(府縣名) (廳所在地) (管轄國名)	
福岡縣 (福岡市)	筑前、筑後、豊前、西半部
佐賀縣 (佐賀市)	肥前、東半部
長崎縣 (長崎市)	肥前、西半部、壹岐、對馬
熊本縣 (熊本市)	肥後
大分縣 (大分市)	豊前、東半部
宮崎縣 (宮崎市)	日向
鹿児島縣 (鹿児島市)	大隅、薩摩
沖縄縣 (那覇市)	琉球

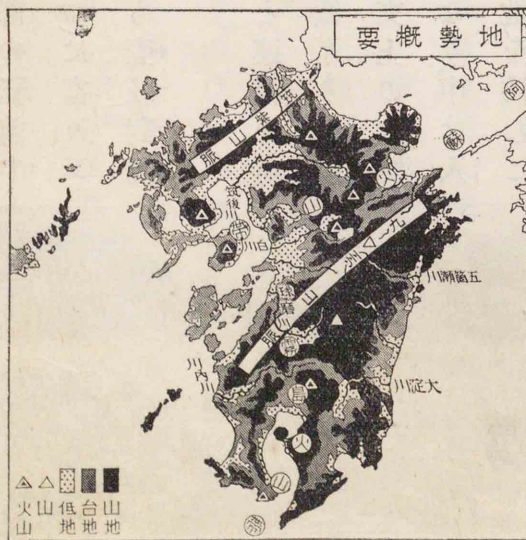
面積 約四〇〇〇万平方
人口 約九百五十萬

山脈・火山帯
九州山脈 米
祖母山 一七五
市房山 一七三
筑紫山脈
阿蘇火山帯
九重山 一七四
阿蘇山 一五三
由布岳 一五四

地形

九州島は北部・中部・南部に分ける。(1) 北九州の筑紫山脈は、中國山地の續きでそれよりも低く、且多數の地塊に分れてゐる。遠賀川はその間を北流し、中九州から來る筑後川は、西流して下流に廣い筑紫平野がある。海岸は錯雜

古の西海道の地で、その東南部は、大和民族の發祥地であるが、神武帝の御東征以來、永く文化に取殘された傾がある。西北部は、久しく外國と交通の衝に當り、その一部は、鎖國時代に於ける文化輸入の唯一門戸になつてゐたので、歴史的にも興趣が多く、産業も活況を呈してゐる。政治上八縣に分ける。

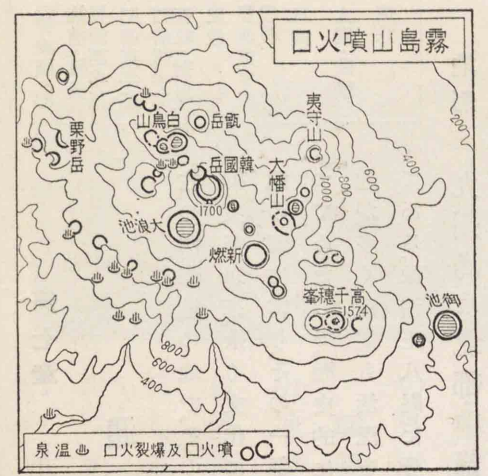


雲仙岳	三三〇
英彦山	二〇〇
多良岳	六三
霧島火山帯	二七〇
霧島山	二二〇
櫻島岳	二二六
開聞岳	二〇〇
河川(流長)	料
筑川	三四
内川	二六
後川	二〇
磨川	二〇
大川	二〇
五野川	二〇
緑野川	二〇
菊池川	二〇
白賀川	二〇
遠球磨川	二〇

佐世保灣・長崎灣・平戸島附近・壹岐・下關海峡の附近・對馬の大部及び大島は要塞地帯である

して、リヤス式の處が多い。殊に西部の肥前半島は、副半島(東浦北松浦西松浦等)や海灣(唐津伊萬里大村等)に富み、又海岸に島嶼(平戸・五島等)が多く、沖合にも壹岐對馬等がある。

(2) 南九州の九州山脈は、四國山脈と連絡を有し、一大連嶺をなして斜に本島を横ぎり、自然上、人文上の大境界となり、中に人吉盆地を挟む。この盆地を流れる球磨川は、急流と峡谷の美とで名高く、西南の川内川は、下流に水運の便がある。東斜面には多くの川が殆ど並行して流れ、下流に日向平野を開く。この山脈の東北端に當る處は、



五箇嶺
大淀川

別府市街と鶴見岳(右)・由布岳(左)

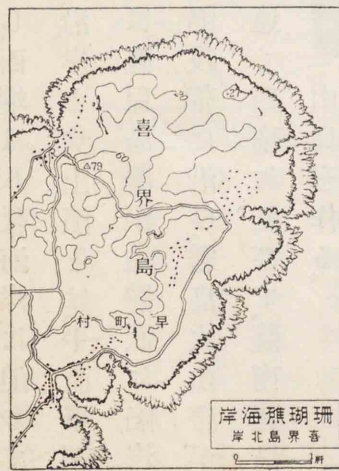


リヤス式海岸をなし、西端は八代海岸に迫つて、斷崖の續く三太郎越を作る。日向灘の沿岸と吹上濱とは、平直單調で、後者には砂丘の發達が著しい。南部は鹿兒島灣が地溝狀に陥没して、大隅薩摩の兩半島を分ける。この陥没帯に沿ひ、霧島火山帯が通じて、霧島山・櫻島岳・開聞岳等を引き、遠く西南に延びて、薩南諸島の内側に、多くの火山島を作る。

(3) 南北兩高地の間は、瀬戸内の續きであつたが、阿蘇火山帯に屬する多くの火山が噴出して、此處を埋めた。阿蘇火山帯は、阿蘇山を盟主として、東に九重・由布・鶴見・兩子等の諸山があり、西は有明海を越えて、多良岳・雲仙(温泉)岳等が聳えてゐる。この地方には、温泉の湧出が多く、別府は温泉市として發達してゐる。大河はないが、阿蘇山から發する白

英彦山

圖解青島(蒲葵が繁茂し珍奇な植物が甚だ多い)



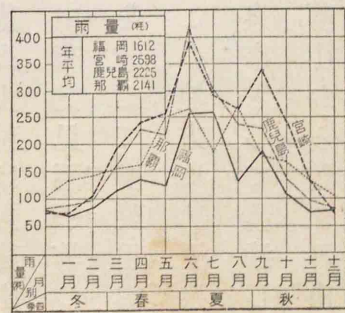
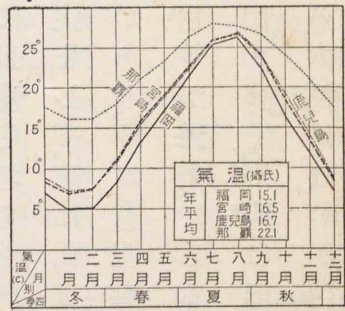
多。北部は山陰地方に似てゐるが、雪は少く、中部の沿海は温暖である。九州山脈は氣候上の著しい境界となり、そ

氣候

緯度の關係で氣温が高く、雨も割合に

川は、熊本平野を流れて、その河谷は東流する大野川等と共に、東西交通の要路となつてゐる。海岸は比較的單調であるが、宇土半島の突出により、島原灣と八代海とを分け、

その沖に天草諸島がある。



の以南は、南四國に似て、氣温は更に高く、日向灘の沿岸(島青)には、熱帯植物の繁茂してゐる處がある。薩南諸島及び琉球列島は、夏は割合に暑くないが、冬が暖であるから、榕樹・蒲葵・林投樹等の熱帯性植物が繁茂し、沿岸には珊瑚礁の發育してゐる處がある。初秋の頃、襲來する大風は、この地方で最も勢を逞うし、之が爲に作物の害されることも少くない。

産業 筑紫熊本の兩平野は、米

麥・粟種等の産に富み、甘藷は一般に産するが、鹿兒島・沖繩の二縣は殊に多く、砂糖(糖)もこの兩縣が内地の大産地で、殊に沖繩縣ではその主産物である。その他粟、蕎麥等の雜穀を各地から出す。

筑紫平野は灌漑排水等の工事がよく整

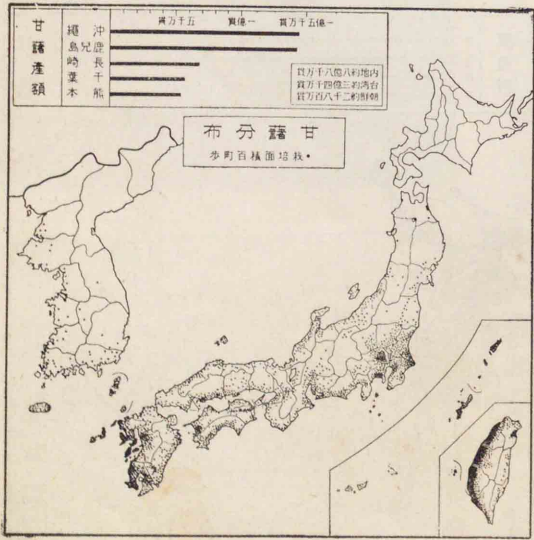
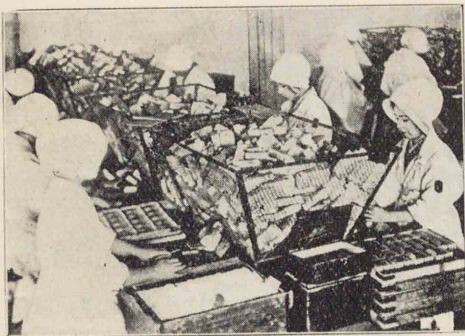


圖 煙草工場（專賣局の國分工場）



ひ、我が國有數の米産地である。大川・岡・佐賀等はその集散の中心地で、門司は位置の關係から、全國的に米の大集散地となつてゐる。

鹿兒島縣は有名な煙草の産地で、國分・出水等はその中心である。國東半島では、七島蘭を植ゑて盛んに七島表を製造し、杵築・大分はその集散地である。その他柑橘（大分・長崎）等の果實を産し、養蠶も近年次第に盛となり、熊本縣・宮崎縣等には、繭の産が少くない。

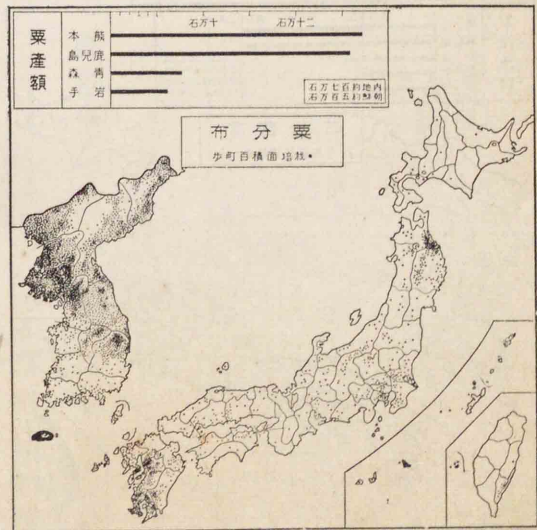


圖 枇杷の市場（長崎縣茂木）



兒島・熊本の二縣はその主産地で、沖繩縣では豚・山羊を多く飼つてゐる。

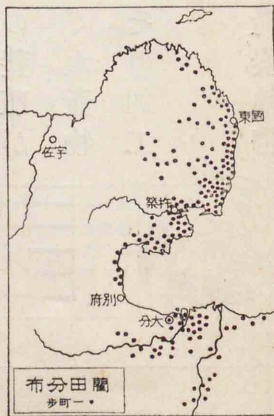
九州山脈以南には、広い林地があつて、木材の産が多く、又薪炭・椎茸・樟腦

圖 養牧場（阿蘇火口原の千里ヶ原）

沖繩縣は豚の頭數は内地第一である

圖 椎茸の栽植

牛地帯となり、又古來馬の産に名高く、鹿



阿蘇・霧島・雲仙等の火山裾野は、廣く牧場に利用されて、中國に續く牧

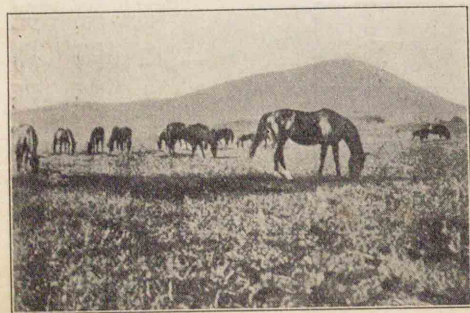
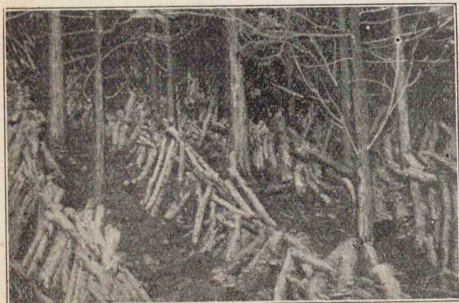


圖 檜實の採集

鯉節は薩摩半島から薩南諸島へかけて製出せられ近年沖繩縣にも製節が盛である

圖 若松港の石炭積出(炭車と運送船の輻輳)



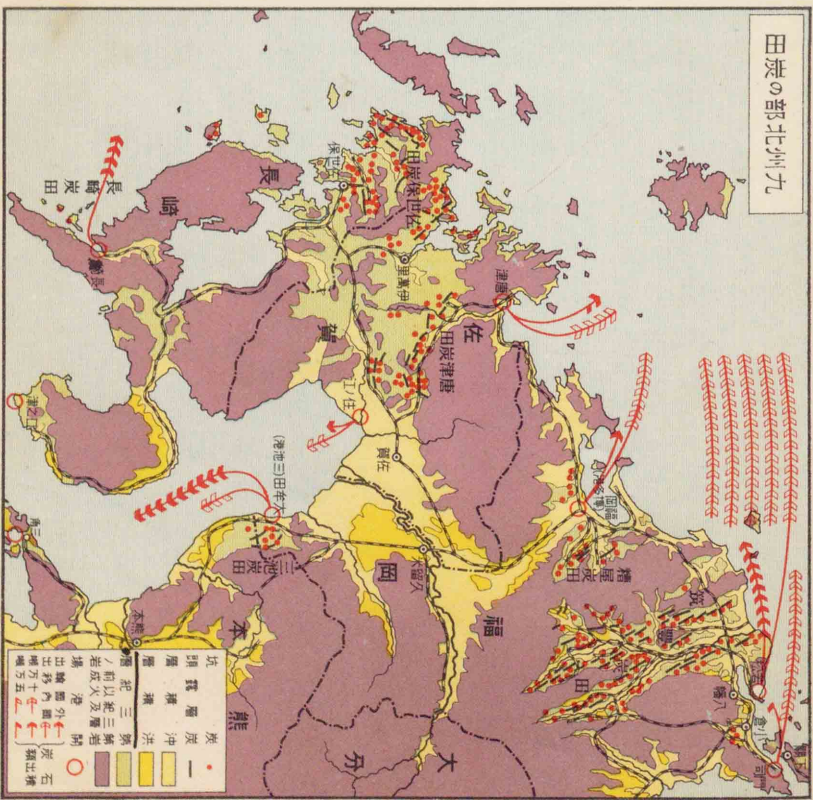
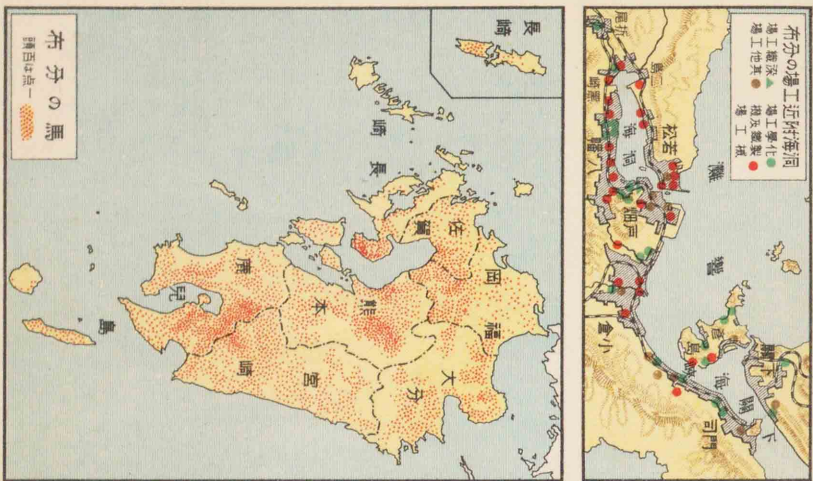
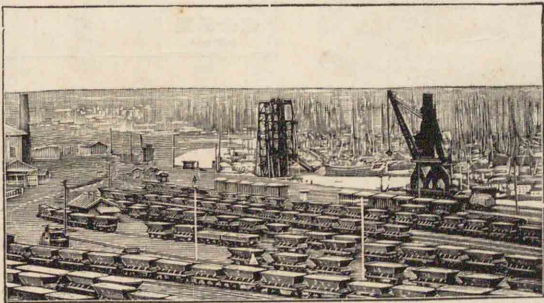
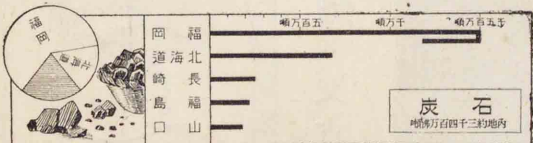
(鹿兒島)等の副産物を出す。鹿兒島縣には巨竹があつて、竹細工の原料を供し、福岡縣では、木蠟を採る爲に、櫨樹を植ゑ、晩秋の頃には、その紅葉が極めて美しい。

漁業は沿海の各地に盛

であるが、長崎縣の鯉、柔魚、鰯、南部の鰯、鰹、鮪等が特に名高く、鰯と鰹節とは屈指の産物

である。又有明海には貝類の養殖が行はれる。長崎は下關に次ぐ水産物の大集散地で、支那方面へその加工品の輸出が少くない。

西北部は我が國最大の産炭地帯



で、筑豊・糟屋・三池・唐津・佐世保・長崎等の炭田があり、此等の産炭量は、
 全国の約七割を占める。若松はその積出が極めて盛で、内地の工業
 地は勿論遠く東亞の諸港へも輸出する。

北九州の炭田は區域が廣く、積出にも便利な爲、採掘が甚だ盛である。従つてこの
 方面には、鑛山町や石炭積出港が多く、且近代式の大工
 業も發達して、十六市(全島に十一市)、九開港場(全島に十開港場)は、實
 に西北の三分の一區に集り、其等は直接間接に石炭の
 影響を受けてゐる。

鹿兒島縣の金(串木野等)・錫(山谷)は古くから知ら
 れ、大分縣には金・銀(鯛生)、宮崎縣には銅(檜)の産
 がある。佐賀關には壯大な製鍊所があつて、金・
 銀・銅の製鍊額が頗る多い。

工業は筑豊炭田を背景として、北九州の大
 工業地帯が發展し、門司・小倉・戸畑・若松・八幡の
 諸市は、殆ど一続きの市街地となつてゐる。その

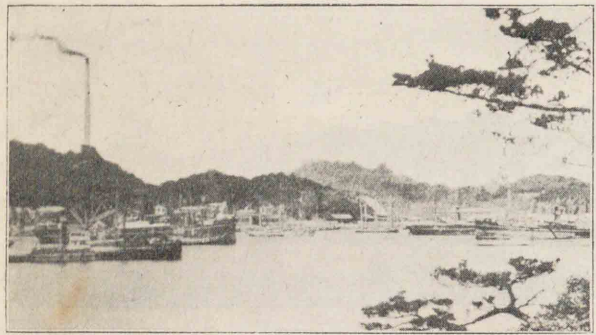
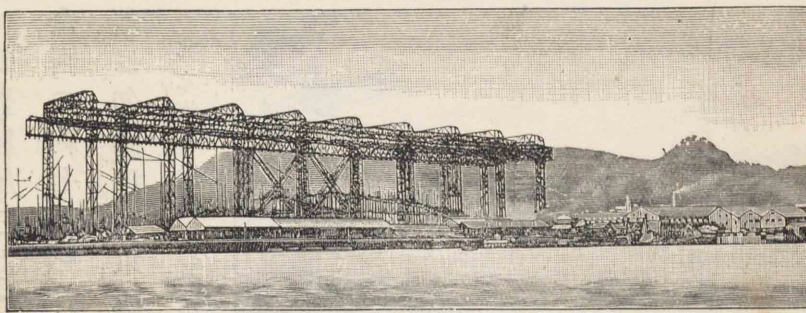
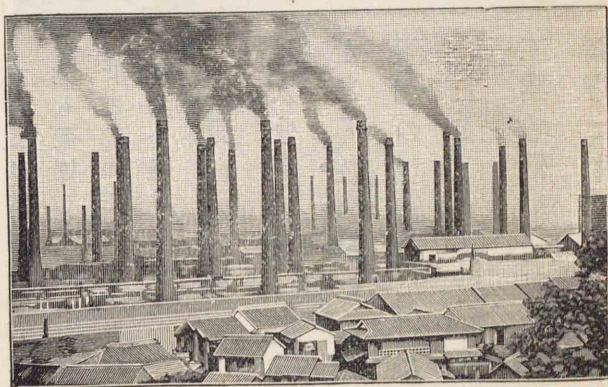


圖 佐賀關製鍊所
 (東洋第一といは
 れる高さ一六六・
 七米の大煙突)

圖解八幡の製鐵所 (下)



圖解三菱造船所 (上)

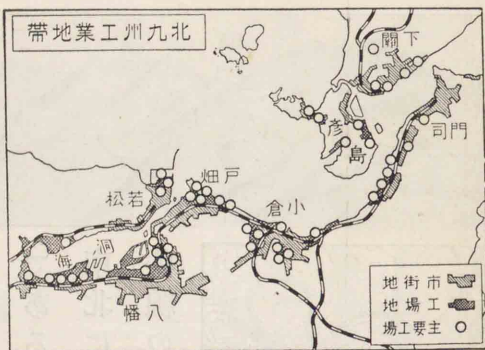


他長崎・佐世保等には造船業が起り、三池炭田を有する大牟田及び電力の利用に便利な南部(熊本)では、化學工業が勃興した。

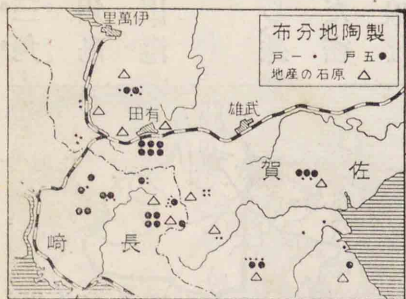
北九州工業地帯の著しい特色は、製鐵・製鋼及び鐵器の製造である。八幡には官設の巨大な製鐵所があつて、朝鮮支那・マレー半島等から鑛石を輸入して、製鐵製鋼を行ひ、副産物として鑛滓煉瓦等を出し、硫安製造をも行つてゐる。この他には精糖・セメント・硝子等の化學工業が盛で、醸造・製粉・紡織等の工場もある。

古來名を知られた工産物には、織物・陶器等が

圖解久留米の足袋工場



熊本・鹿兒島等が之に次ぐ。外國貿易は支那・南洋方面を主とし、門司・長崎はその二大門戸で、門司の貿易額は全國の第五位を占める。その他開港場には若松・博多・三池(福岡)・唐



ある織物では久留米緋(久留米)・薩摩緋(鹿兒島)・博多織(福岡)・大島紬(大島)・琉球上布(沖縄)等が最も著れ、近年久留米・小倉の諸市には、足袋の製造が盛である。陶器は有田焼(佐賀)の産額が殊に多く、薩摩焼も亦名高い。筑後川の下流地方では酒造が盛で、大川はその中心である。

内地商業の最も盛なのは福岡で、

地圖ニ
シテ
本ヨリハ

- 1 門司・鹿兒島間
 - 2 若松・上山田間
 - 3 鳥栖・長崎間
 - 4 八代・鹿兒島間
 - 5 小倉・吉松間
 - 6 熊本・大分間
- 肥薩線のループ線
圖 矢岳に於ける

津・住・江(以上)・口・之・津・巖・原(以上)・三・角
(本)鹿・兒・島・那・霸(沖)等があり、九州島
にあるものは、多く石炭の輸出港
である。

交通 鐵道は割合に發達し、殊
に西北部は甚だ密
である。鹿兒島線は
南北に貫通して、筑豊・長崎・肥薩等の諸線と連絡し、肥
薩線の九州山脈を横ぎる處は、ループ線になつてゐ
る。日豊線は東部の海岸に沿つて、本島
一周線の一部をなし、豊肥線は中部を
横斷してゐる。外國との交通は古くか
ら開け、博・多・平・戸・長・崎等がその門戸で
あつたが、今は形勢が變つて、門・司・長・崎

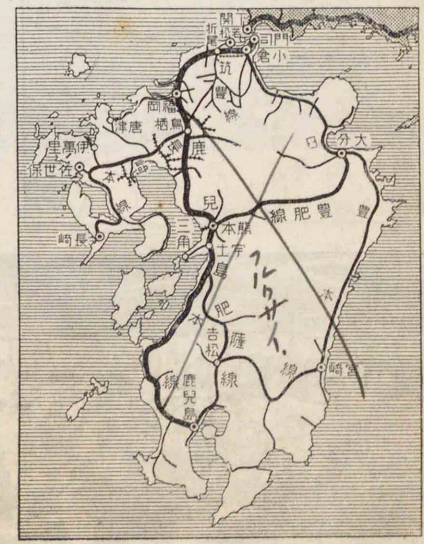


圖 下關から航送
された貨車が門司
で鐵道に連絡する
光景

- 福岡縣 千人
- 八幡市 二二
 - 門司市 三三
 - 大牟田市 四四
 - 小倉市 五五
 - 若松市 六六
 - 戸畑市 七七
 - 直方市 八八
 - 飯塚市 九九
 - 宮田町 〇〇
 - 後藤町 一一
 - 伊田町 二二

鹿・兒・島等が、海上交通の要地となつた。近時大
阪・朝鮮等への航空輸送も開け、又長崎に起る
海底電線は、上海及びウラヂポストクと通じ、
無線電信局も處々にある。

人口と都會 人口は西北の三分の一區に密集し、その
他は割合に疎である。各地に大城下町が散在し、又西北
部に新興都市の多いことは、京濱・阪神と共に他に類の
少いことである。

處 誌

福岡縣の要部は洞海四近・筑豊炭田地方・福岡平野・筑紫平野(東
部)に分ける。⁽¹⁾洞海四近には新興の市街が多い。門・司・市は優秀の位
置を占めて、九州の北門に當り、小・倉・市は舊城下町であるが、八・幡・市
戸・畑・市・若・松・市等と共に、近代的工業の發達が著しく、所謂北九州工
業地帯をなし、各種の大工場が並び、極めて活況を呈してゐる。⁽²⁾筑

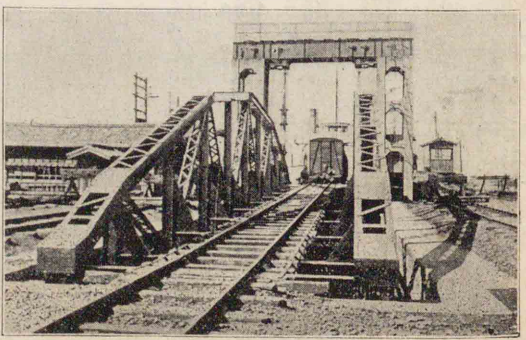


圖 若松港に於ける石炭積込の棧橋

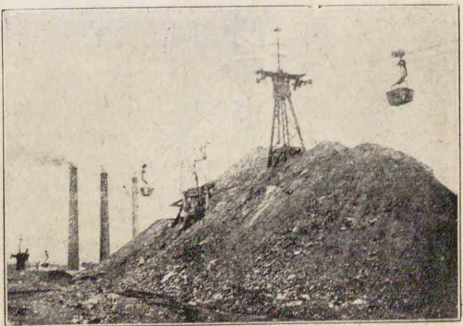
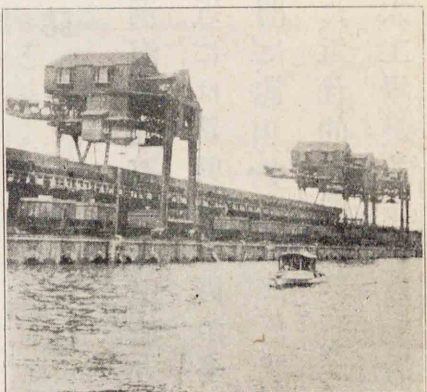
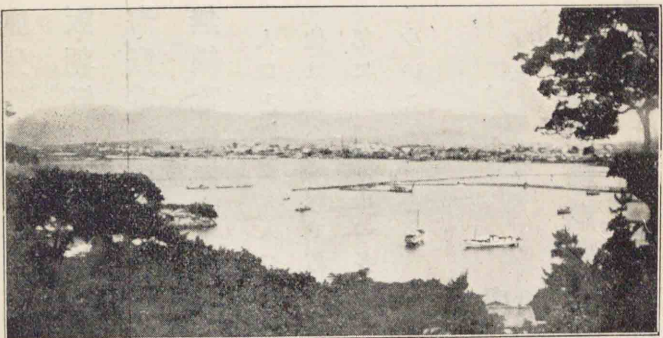
圖 炭坑の光景 (二瀬炭坑)

圖 西公園から博多灣を隔てて見た福岡市

福岡に九州帝國大學がある

香椎宮は仲哀天皇・神功皇后を祀り、太宰神社は菅原道真を祀る

豊炭田地方は、遠賀川を挟んで大小無数の炭坑が群集し、樹枝状

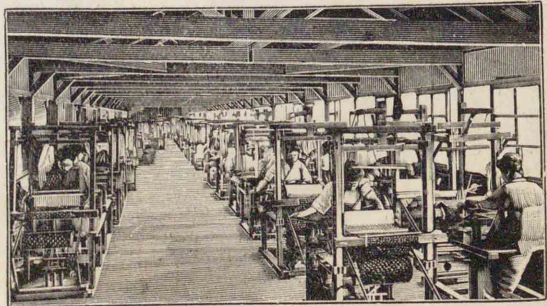
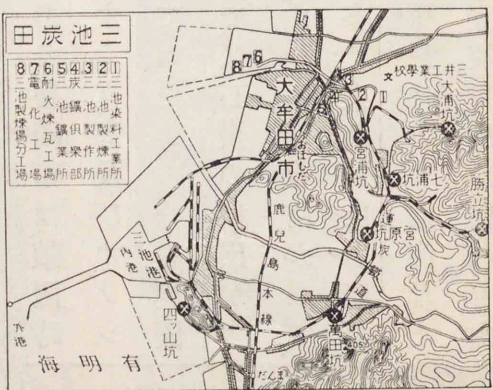


の鐵道は、此等の石炭を集めて、若松門司等に運び、又沿岸地方に工業の發達を促した。直方市飯塚市後藤寺等はこの地方の中心である。福岡市は海中道に抱かれた博多灣に臨み、福岡博多の二部から成る。福岡には官署や學校が多く、博多は商工業區である。市の附近には宮崎宮香椎宮等がある。

久留米に第十二師團司令部がある

圖 久留米緋の製織

り、稍離れて太宰府の址がある。久留米市は筑紫平野にあつて、交通上軍事上の要地となり、太刀洗には重要な飛行場がある。三池港は三池炭の積出地で、大牟田市はその石炭の利用によつて、工業が著しく發達した。



有明海は海水が浅く、且潮汐干満の差が著しく、大船の出入に不便な爲、三池港には開門式の船渠を設け、その缺點を補つてゐる。

佐賀縣の要部は、筑紫平野(西半)と唐津炭田地方とである。佐賀市は、筑紫平野の西部に於ける中心地で、武雄は著名な温泉場である。唐津市は唐津炭田の門戸で、附近に虹松原の勝地がある。西

佐賀縣 千人 唐津市 元

圖 有田焼の工場
 (香蘭社の一部)
 長崎縣 千人
 長崎市 二三四
 佐世保市 一三三
 島原町 三三

佐世保に第三海軍
 區鎮守府がある
 長崎に醫科大學が
 ある
 長崎に鐵甲細工の
 名産がある

圖 長崎港の石炭
 積込



境に近い有田は、製陶地方の中心地で、伊萬里はその外港である。

長崎縣は半島部と島嶼部とに分れる。半

島部は數多の副半島を出して、良港灣が多い。佐

世保市は、大陸に對して優秀な位置を占める軍

港で、海軍工廠があり、大村の灣岸には海軍航空

隊がある。長崎市は、鎖國時

代に永く支那及びオラン

達(和蘭)との通商地となつてゐたから、今も異國

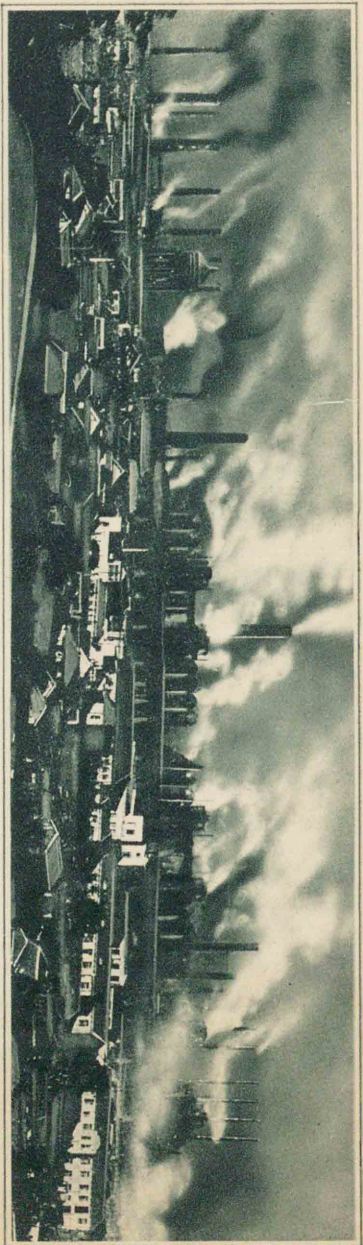
情緒に富み、商工業が盛で、又石炭の積出が多

い。島原半島の雲仙岳は、山上に温泉町があり、

夏季には外人の來遊も多く、東麓には島原の

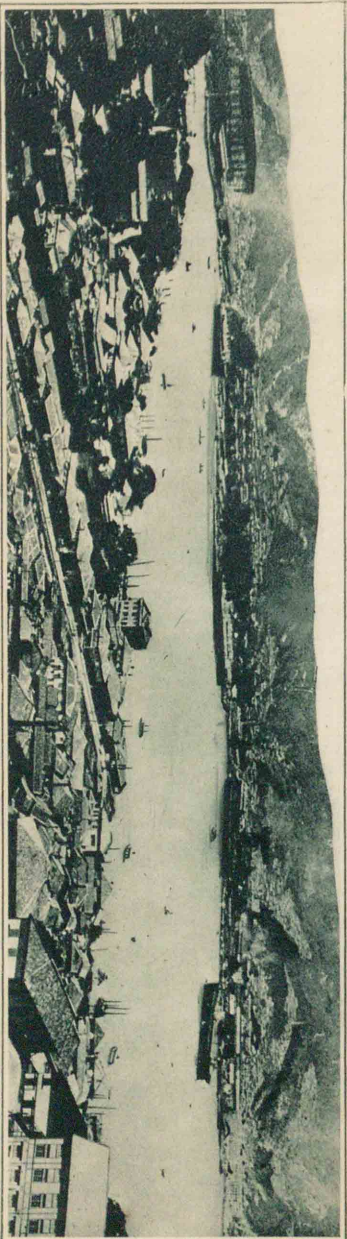
名邑がある。平戸島の平戸は、古い通商地と

して史上に名高い。五島壹岐對馬は、何れも山



市 幡 八 の 煙 煤

るゐてしと々済にと弊の煤燒きべる見もと煤脈と煤採きべる見もと煤呼の場工のく多め船を所鐵製は市幡八の業工



望 展 の 港 崎 長

る見えが場工利立に端左、場工浦、他に方右び列が所船造はに岸對るゐてつが旗に方右のこは部一中で部一の方南



耶馬溪の奇勝
群立せる奇峯を貫く幾多の洞門、之に
沿ふ一條の碧潭、圖は青洞門の景觀



櫻島大根の堆積
大きなものには周圍一米餘、
重量十五疋に餘るものがある



琉球の石垣塀
屋敷町の家は多く高い石垣を繞らし
てゐたが今は次第に市街化した

宇土半島から
見た雲仙岳

熊本縣 千人
熊本市 一充
水俣町 三
荒尾町 三

熊本に第六師團司令部・醫科大學がある

熊本の北方には田原坂・植木等の古戦場がある

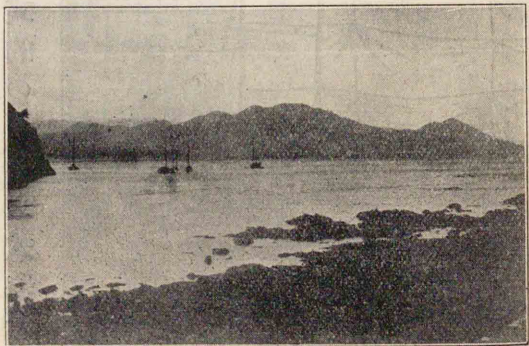
阿蘇中岳の噴煙(社は山上神社)

勝ちで、住民は漁業を主とする。福江・勝本・嚴原が夫々その主邑である。

熊本縣は熊本平野を主部とし、東部には山地が多い。(1) 熊本市は雄藩の城下町で、米の集散が多い。舊城は西南役で名高く、附近にその古戦場がある。八代は球磨川流域を背後地として、木材を集散し、又セメント・製紙等の工場があり、西南の水俣では化學工業が行はれる。人吉は人吉盆地の中心地で、上流には五家莊の別天地がある。(2) 阿蘇山の火口原は、東西交通の要路に當り、聚落も少くない。



阿蘇山は高さは著しくないが、舊火口の廣いことは世



大分市の遠望
(中央の森は公園)

大分縣 千人
別府市 千人
中津市 千人
杵臼町 千人



界第一である。多くの火口丘がその中に聳えて、火口原を阿蘇谷と南郷谷とに分け、黒川、白川が此處を流れてゐる。中岳は今も盛に噴煙し、又温泉も處々にある。火口原内は土地がよく開けて、農業、牧畜等に利用せられ、村落も多く、數萬の人が此處に住んでゐる。

大分縣の平野は、國東半島によつて二つに分れ、豊後水道に臨む處は、標式的のリヤス式海岸をなしてゐる。⁽¹⁾ 北部平野の中津市は、紡績工業が行はれ、此處を流れる山國川

別府の砂湯

宇佐神宮は應神天皇・神功皇后等を祀る

は、熔岩臺地を穿つて、名高い耶馬溪の勝を作り、宇佐には宇佐神宮がある。⁽²⁾ 大分市は九州横斷鐵道の一端に當り、近年



著しく發展の緒を見せてゐる。別府市は保養地として名高い。

別府は鶴見岳を負うて海に直面し、氣候がよく風景に富み、湧泉區域は市の内外に互つて甚だ廣く、泉質も多種で水量も多い上に、近年水陸の交通が便利となつたので、我が國最大の温泉都市となり、北九州及び阪神地方に對する保養地で、京濱地方からの客も少くない。

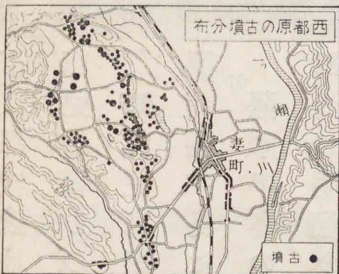
⁽³⁾ 豊後水道に面しては、佐賀、關白、杵臼、佐伯等の錨地がある。

宮崎縣は日向平野を要部とし、西部には山地が多い。⁽¹⁾ 北部の延岡には、近年化學工業が興り、附近に細島の舟泊地がある。宮崎市は

政治上の中心として發達した處で、宮崎神宮がある。この地方は、古く神代に開けた處で、高鍋に近い西都原には、無数の古墳がある。南部の油津は舟泊の要地である。⁽²⁾ 都城

宮崎縣と大淀川

宮崎縣 千人
宮崎市 千人
延岡市 千人
小浜町 千人
林町 千人
三ツ井町 千人



鹿兒島縣 千人
鹿兒島市 三三三
川内町 三三三
枕崎町 三三三
阿久根町 三三三

鹿兒島縣の山地から見た鹿兒島港

四七圖

坊津・山川等は早く大陸と交通の行はれた處であるが今は漁港に過ぎない



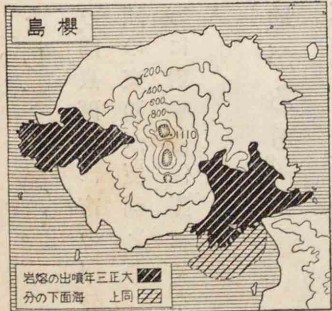
市は都城盆地の中心で、附近から茶を産し、鹿兒島縣との關係が深い。

鹿兒島縣は鹿兒島灣によつて、薩摩大隅の兩半島に分れ、海上に薩南諸島がある。薩摩半島の鹿兒島市は、近く櫻島と對し、風光の明媚な港市である。近代の工業は未だ盛でないが、薩摩燒等の特産を出す。

櫻島は大正三年激しい噴火をなし、その噴出物の爲に、今は大隅と連つて半島となつた。大根を名産とし、果樹園牧場等もある。その頸部に近い垂氷は、北方の國分と共に、煙草産地の中心である。

川内は川内川の水運に伴つて發達し、附近に

串木野、野野等の鑛山がある。薩南諸島は、甘蔗を栽培して粗糖を産し、又近



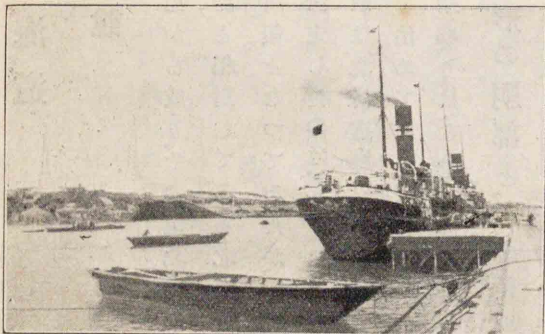
沖繩縣 千人
那覇市 三三三
首里市 三三三
平良町 三三三

先島諸島は臺灣と共に西部標準時を用ひる

琉球の市場

阿且葉から製する阿且帽は最近に勃興した産業であるが本縣の工業中優位を占めてゐる

那覇港の第一棧橋

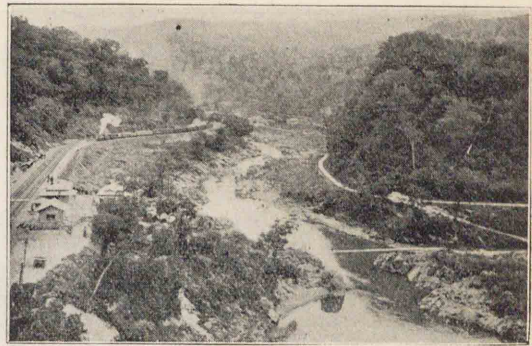


海に漁利が多い。種子島は鐵砲の傳來で名高く、屋久島からは杉の良材を出す。大島は奄美諸島の主島で、鯉節粗糖大島紬等を出す。名瀬は全島の主邑で、古仁屋は軍事上の要地である。

沖繩縣は沖繩宮古八重山の諸島から成り、沖繩島がその主島である。面積が狭く、且山勝ちであるから、水田は少いが、甘蔗を植ゑて粗糖を造り、甘藷を作つて之を常食とする者もあり、又殆ど各戸に豚を飼つてゐる。那覇市は縣内の特産品たる琉球絣、芭蕉布、漆器、帽子、泡盛酒等の集散が行はれ、首里市はもと王城のあつた處である。

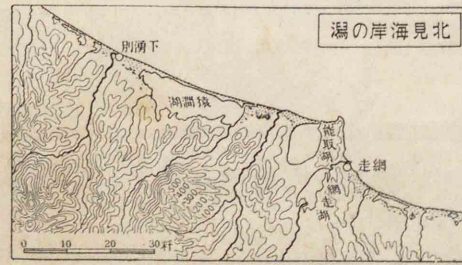
河 湖 流 長
 石狩川 1,162
 天塩川 1,210
 釧路川 808
 十勝川 1,075
 釧路湖 116.2
 十勝湖 121.0
 釧路湖 80.8
 十勝湖 107.5

内浦灣は周圍に數
 多の火山が群集す
 るので噴火灣の名
 がある



川は概ね中央の
 高地から發して、
 略四斜面に流れ
 る。石狩川は本邦

釧路川等がある。此等の流域には、天塩川、十勝川、釧路川の廣い沃野を開き、下流は流勢が緩で、木材の流下を助けることが多い。海岸は出入に乏しい。主軸山脈の南北兩端は、著しく突出して襟裳岬、宗谷岬を作り、又西部には、内



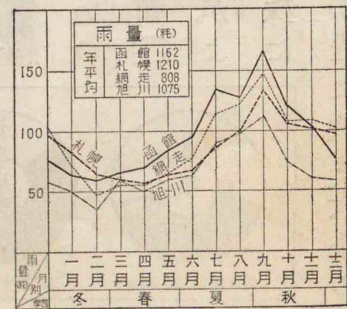
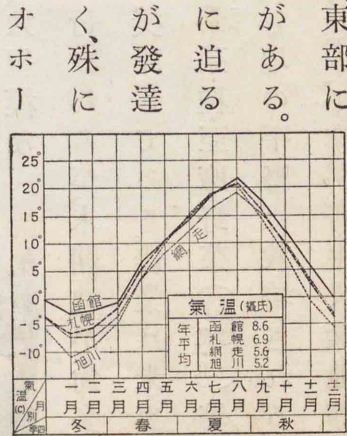
函館灣の附近は要
 塞地帯である

圖 根室灣の流水

上川地方は嘗て氷
 點下四十一度に達
 したことがあり内
 地に於ける温度の
 最低記録である



浦灣を抱く渡島半島、東部には知床花咲の兩半島がある。半島部には山地の海に迫る處も少くないが、段丘が發達し、砂濱の連る處が多く、殊に

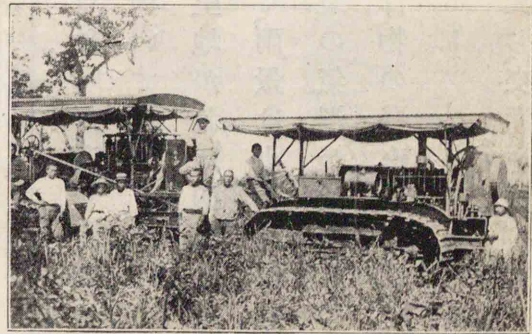


ツク海岸は、砂嘴が著しく發達して、猿瀧網走等の瀉を抱いてゐる。

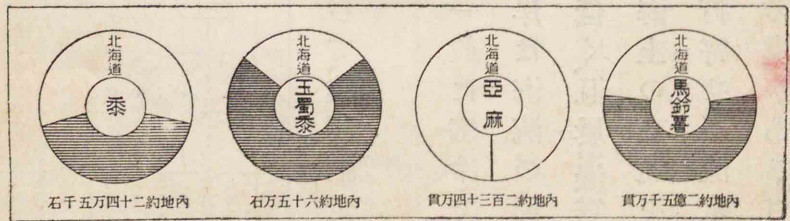
氣候 土地が北に偏する爲、一般に寒冷で且冬が長く、雨量は少い。太平洋岸は海流の影響により、夏の氣温が他よりも低く、且屢濃霧が起つて作物の發育を害し、又海上の交通を妨げる。オホーツク海岸は、冬季打寄せる流水が海面を鎖し、交通を妨げられる處がある。日

トトラクターによる農業の光景

本海岸は冬季に雪が多いので、鐵道沿線には各種の防雪設備が出来てゐる。内部の冬は最も寒いが、夏は日射が長く、割合に高温であるから植物がよく繁茂し、鬱蒼とした針葉樹の森林が處々にある。

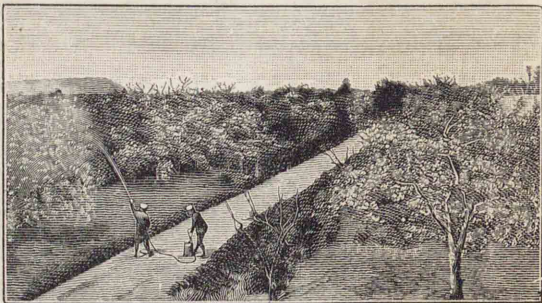
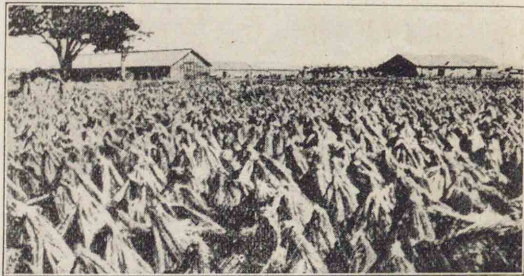


産業 平野が広く、人口が少く、開拓が新しいから、大規模なアメリカ式の開墾が行はれるが、未開地が尙多いので、府縣からの移民を奨励してゐる。農業は米・麥類（主小麥・豆類・馬鈴薯・玉蜀黍・菜種・亞麻・野菜（甘藍・玉葱等））等がよく本島の氣候に適し、各地の平野に栽培される。殊に石狩平野は、拓殖が最も進み、十勝平野・中央盆地等が之に次ぎ、大小の



亞麻の乾燥

余市附近の果園



蟲菊の特産がある。

米の栽培は最初半島部に限られたが、夏季の高温を利用し、短期間に收穫し得られる品種を作成して、その耕作面積が著しく増し、今は上川盆地に最盛で、次第に米の移出をも見んとする傾向である。麥も夏季の高温を利用するので、本州と違ひ春蒔の種類が作られ、茶種



農産都市が發達してゐる。此等の農産物は、その儘府縣に送るものもあるが、その加工業たる製粉（米・澱粉各）及び酒精の製造（米・澱粉）搾油（小麥）等も勃興した。この他、余市附近には苹果・札幌には櫻桃を産し、帯廣邊では甜菜を植ゑて砂糖を造り、北見には薄荷腦、石狩・上川方面には除

馬の牧場(標茶軍馬補充部上川支部)

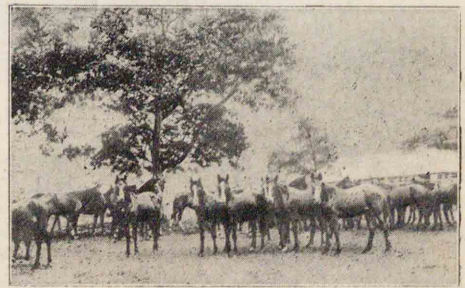
江別川の木材集積

大沼にも養狐が行はれる



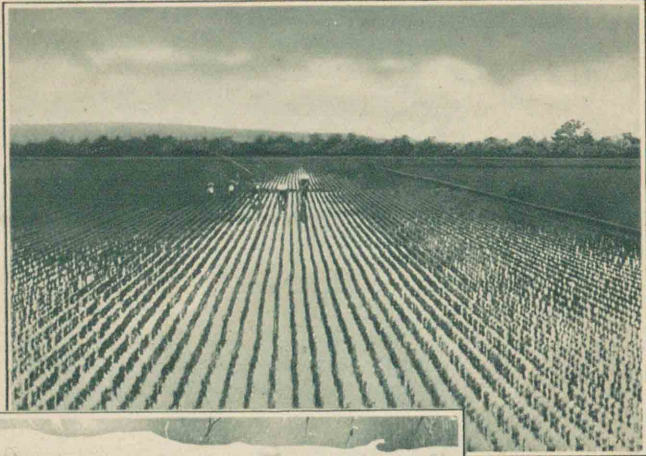
も亦春時である。

原野が廣い爲に牧畜は盛であるが、東西で稍趣が異なり、東部は馬を主とし、南斜面の原野はその主産地で、**新冠**・**白糠**等には、有名な牧場がある。西部殊に石狩平野には、牛が多く飼はれて、**煉乳**・**バター**等の乳製品を出し、**綿羊**の飼育も試みられ、千島には近年養狐が行はれる。



本道の原生林は、開拓の進むと共に減少したが、尙建築用材(主とし松類)・鐵道枕木(他松)・**パルプ**原料(蝦夷松等)・器具用材(他松等)として、切出されるものが頗る多い。木材伐採は、多く冬季に行はれ、雪上を

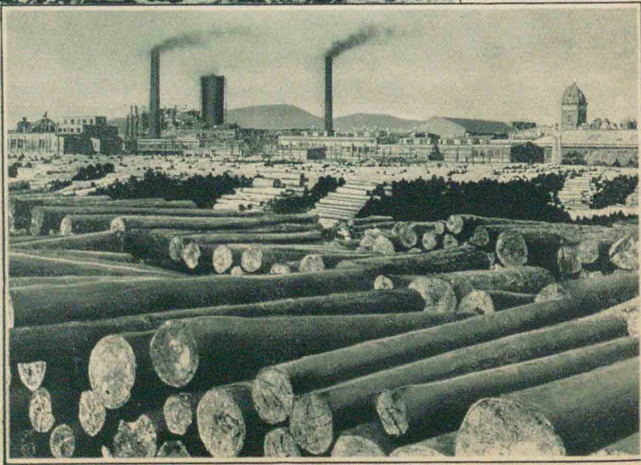
北海道の水田
正條植にした水田の中に農夫が除草器で雑草を取つてゐる



河を溯る鮭群
産卵期に西別川を溯る光景で大抵の障害物は跳越えて進む



苦小牧の**パルプ**工場
王子製紙株式會社の工場を南方の貯木場方面から見た光景





網走の海岸
網走川が市内を流れ河口に防波堤が出来てゐる



留萌港
冬の眠から覚めると港内は忽ち多くの漁船に埋められる

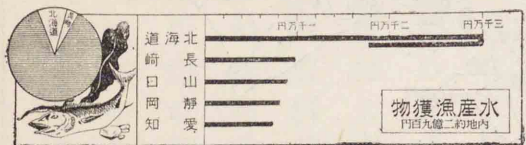
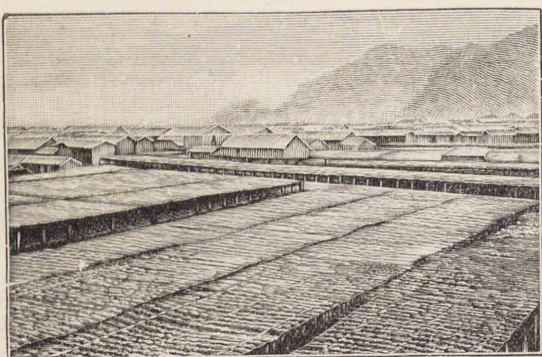


平取のアイヌ部落
文化が次第に入込んで和風の建築も處々に混じてゐる

河岸に運び、融雪を待つて流下せしめるから、河岸河口には、その集散地製材地等が多く發達し、小樽・釧路は木材の二大集散地で、製紙及びパルプ等の工場も處々(苫小牧・江別・釧路・池田等)にある。

水産物は、移民を招き、この地を開いた誘因で、沿海到る處に各種の水産物が多い。殊に日本海方面の鱈・昆布、オホーツク海面の鱈・蟹・帆

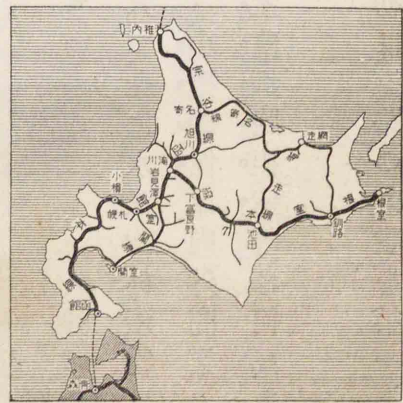
圖解 身缺 鱈の 乾場
江差・壽都等も著名な漁港であつたが今は舊のやうに盛ではない



立貝、半島部の鱈(鱈の一種)、鱈、柔魚、太平洋方面の昆布等は最も名高く、又西別川、石狩川を始め、各地の河川には、鮭、鱒等の漁利が多い。余市、増毛、留萌、釧路、厚岸、根室、網走等は、何れも主要な漁港で、この他沿海地方には、小漁港が甚だ多い。水産物はその儘冷凍して移出する外、加工して鹽漬、罐詰、乾魚、燻製等とし、外國に輸出する額も頗る

- 1 函館・旭川間
 - 2 旭川・稚内間
 - 3 釧路・根室間
 - 4 岩見澤・長萬部間
 - 5 池田・網走間
 - 6 名寄・中湧別間
- 北見及び根室以東の海岸は冬季流水の爲數月間全く航通が絶える
- 成年に達した女子は口邊に黥する習慣であつたが今は廳令によつて之を禁じた
- アイヌ人とその住居(男子の着てゐるのはアツシで女子の口邊に黥した様も見える)

したから、平野には廣闊な大道が通じてゐる。馬を交通機關とした驛遞の制度は、交通の不便な地方に尙残つてゐる。鐵道も專、拓殖を目的としたので、函館・宗谷根室・室蘭等の幹線は略十字形に通じ、網走名寄等の諸線が之から分れる。



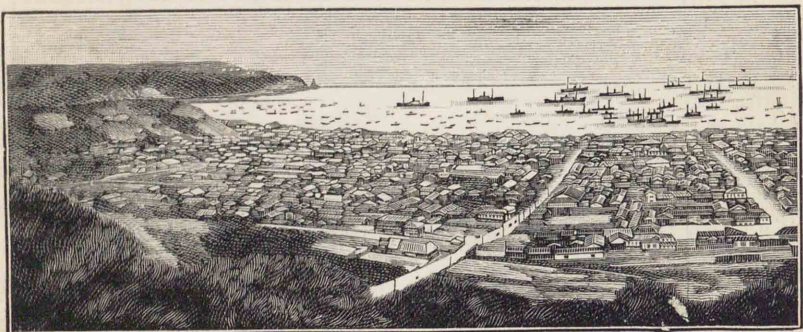
海運は函館・小樽・室蘭等を中心とする沿岸航路の外、本州樺太及びシベリヤ等と連絡する。函館・青森間及び稚内・大泊間には、鐵道連絡船を通じ、落石(受信||和室)その他に無線電信局もある。

住民と都會 この地は元來アイヌ人の住地であつたが、今はその數が次第に減じて、僅に一萬五六千に過ぎない。日高山脈以西に多く住み、平

主要都邑

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 函館市 | 小樽市 | 旭川市 | 釧路市 | 美幌町 | 帯広町 | 野付町 | 網走町 | 砂川町 | 苦小牧町 |
| 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 五〇 | 五〇 | 五〇 | 五〇 | 三〇 | 三〇 |
| 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 |
- 圖 背後から展望した小樽港

俱知安附近に鐵山がある



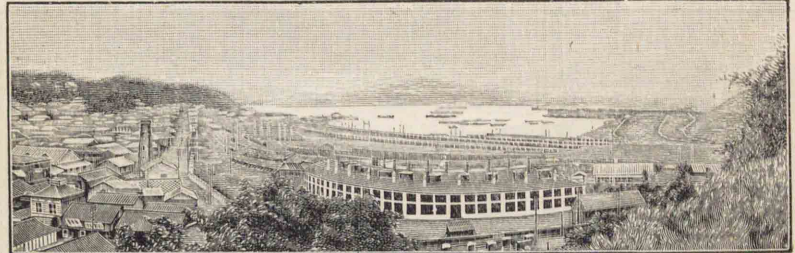
取にはその大部落がある。現住民の大部分は、府縣から移住したもので、人口密度は尙小である。都邑も多くは新しく勃興したもので、何れも街區は井然としてゐるが、古い港町には不規則なものもある。城下町としては福山(前松)のみである。

處誌

半島部は最も早く開けた處で、函館市はその關門に當り、内外商業の要地である。市内の五稜廓は、維新の戦史に名高く、外濠は採氷に利用される。森は室蘭へ渡る要地に位し、俱知安は農産物の集散地である。小樽

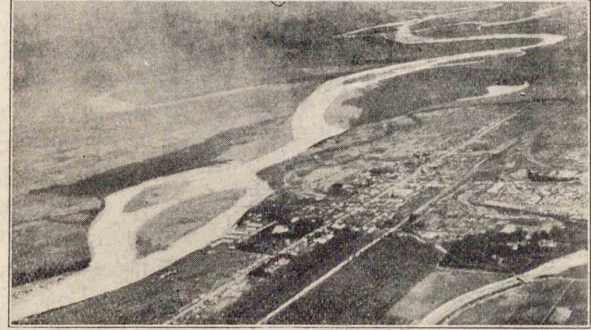


室蘭港の展望



石狩平野(石狩川が蛇行してゐる)

及び盆地と、周囲の斜面とに分れる。石狩平野の札幌市の豊平川に



井然たる札幌の市街

札幌に北海道帝國大學がある

石狩・十勝の國境に狩勝の勝地がある

旭川の大觀(近き林園は中島公園)

旭川に第七師團司令部がある

釧路港



業も盛である。太平洋斜面では、十勝平野が最もよく開け、釧路根室の兩平野と、日高の海岸とは、寧ろ牧畜に適する。帯廣池田は、農業の中心地として發展し、釧路市は林産水産の市場で、又馬市(大樂)も開かれる。厚岸の灣内には、牡蠣の養殖が行はれ、根室は



沿ひ、政治拓殖の中心と定められた處で、街が頗る清麗である。小樽を門戸として農産加工の工場が多く、今は本道文化の中心となつた。岩見澤は鐵道の要地で、苫小牧には製紙の大工場がある。盆地帯には農業が盛に行はれ、殊に上川盆地には水田が廣く、その中心の旭川市は、交通の要地を占め、商工

千島は將來航空交通上重要な位置となるらしい

面積 約三〇〇万平方
人口 約一五萬五千

支廳 豊原・大泊・元泊・敷香・泊居・眞岡・本斗
山脈 樺太山脈・東太山脈・鈴谷山脈

東部漁業の大中心で、罐詰の産が多い。⁽⁴⁾ 東北斜面は開拓が尙進んでゐない。オホーツク海岸の網走は、内部の野付牛と共に、この方面の要地である。⁽⁵⁾ 西北斜面の稚内は、樺太と連絡の要地である。
 千島は三十餘の島々から成り、土地は農耕に適しないが、その近海は水産に富み、擇捉島の紗那は、列島の主邑である。占守島は本邦の最東端に當り、阿頼度島は最北端にある。

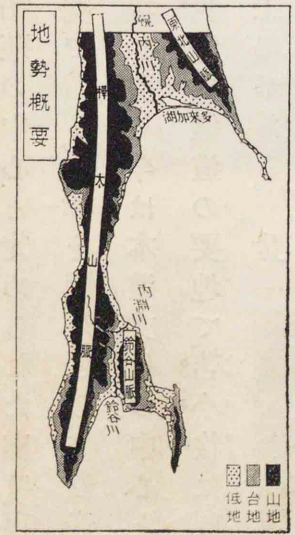
第九章 樺太(南部)

附北樺太

通説

樺太は宗谷海峡を挟んで、北海道の北に位し、間宮海峡を隔てて大陸と相對してゐる。その北緯五十度以南は、日露戦役の結果、我が國の領土となり、北部でも、最近に種々の利權を得た。行政は樺太廳を置き、その下に七支廳がある。

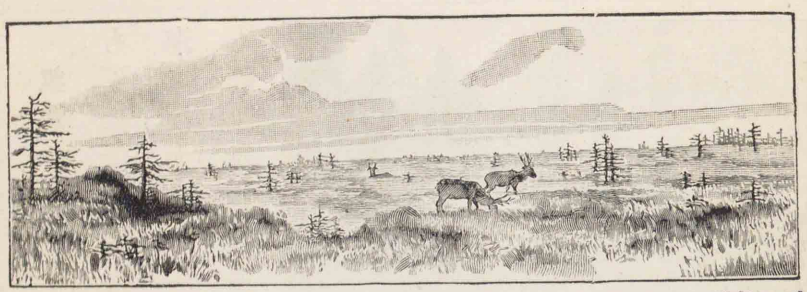
地形 中央凹地帯と、西部及び



河 湖 内幌(流長) 内淵(周圍) 鈴谷川 富内湖 多加湖

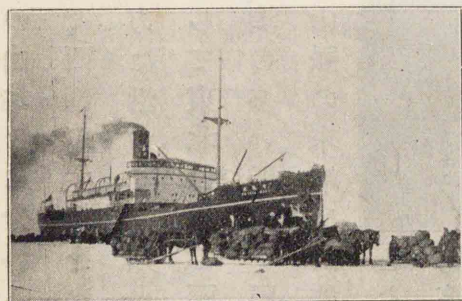
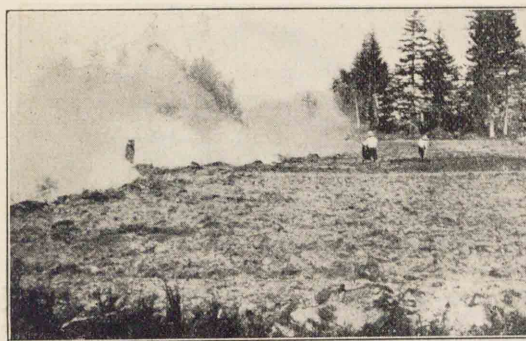
圖 樺太地方の光景

圖 幌内川(中流)地方の光景

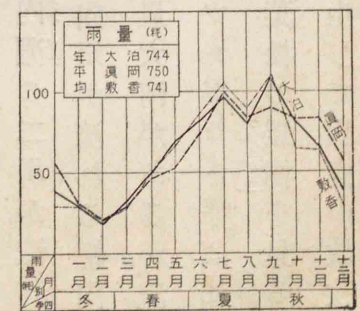
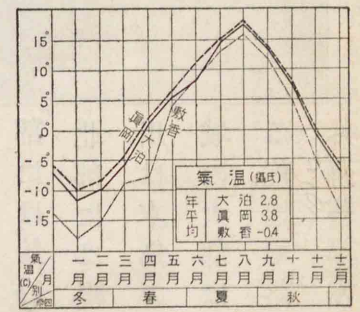


東部の山地とに分れる。⁽¹⁾ 樺太山脈は長く南北に連つて、西部の主軸をなしてゐるが、高峯はなく、この西方に沿つて那須火山帯が走る。⁽²⁾ 東部山地は陥没して東北鈴谷の兩山脈に分れ、鈴谷山脈の東には、瀉の多い低地を隔てて、中知床半島がある。此等の山脈の末端は、西能登呂・中知床・北知床等の岬となり、その間に亞庭灣・多加灣等を抱く。⁽³⁾ 中央凹地帯の南部には、鈴谷・内淵の二川が流れ、北部には幌内川が流れる。幌内川は本島の最大河があるが、流域の大部はツンドラと呼ばれる荒地で、落葉松の矮樹を見る外、蘚苔が密生して、馴鹿の放牧

開墾地(樹木を伐採した後は雑物や害虫を焼拂ふ爲に火入をする光景)
 氷上の荷役(海面氷結の爲馬樁を船に接して荷物の揚卸しをする)

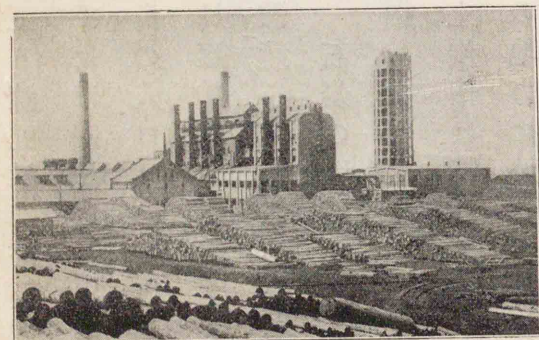
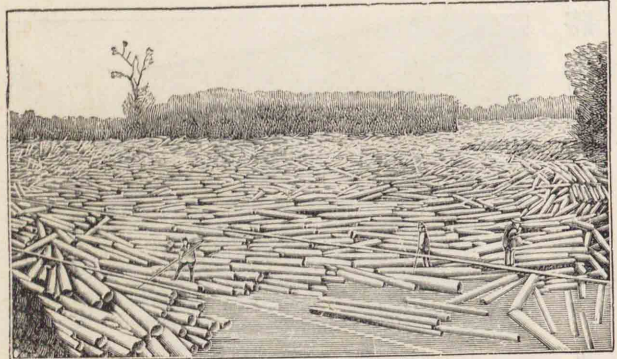


地たるに過ぎない。
 気候 気温は北海道よりも更に低く、雨量も少い。冬は海岸の大部分が凍り、大泊でも砕氷船を必要とするが、暖流の流



れる西岸は割合に暖で、本斗は不凍港として知られてゐる。(中略) 産物も北海道に似た点が多い。水産は本島開發の主因で、今も重要な位置を占め、林業とその加工業とは第一の産業で、農

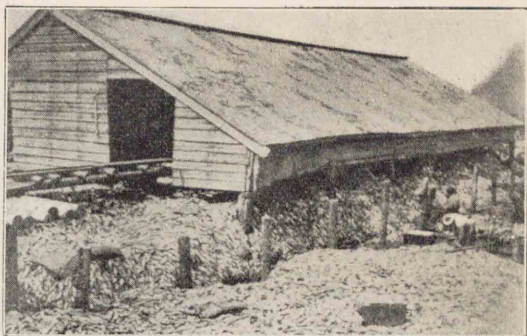
パルプ原料の輸送(凍結した河中へ伐材を搬出した光景)
 豊原にある王子製紙會社のパルプ工場



牧は未だ振はず、鑛業も尙初期にある。樺太には短い夏と長い冬とあつて、その中間期が少いから、一年を暖候と寒候とに分ける。暖候の晝間は長いが、濃霧が多くて農耕を妨げ、燕麥・馬鈴薯・野菜等の外、著しい農産物はない。山野は蝦夷松・榎松・樺・白楊等の密林に被はれ、木材及びパルプは、本島最大の産物である。パルプは製紙と共に近年の發達に屬するが、その大工場が處々(大泊・豊原・落合・真岡・泊居・知取・惠須取等)に起り、又北部の林中には、狐・貂等の毛皮獸が棲み、麝香は毛皮の集散地である。水産地帯は全沿岸に

水産地帯は全沿岸に

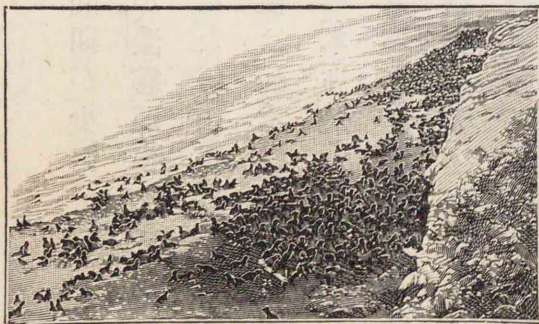
圖解 納屋に山積された鯨



互り、鯨・鮭・鱒・鱈及び昆布等の採獲が盛で、夏季には内地から出漁する者が多い。従つて本島の人口は、季節によつて移動がある。海豹島は臘肭獸の群棲する處で、國際條約によつて濫獲を禁じ、保護繁殖を計つてゐる。

圖解 海豹島に於ける臘肭獸の群

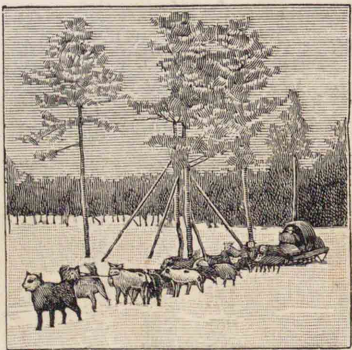
將來に、光明を與へてゐるが、現在の工業としては、前記の林産加工・水産加工等の外には、見るべきものがない。従つて商業も未だ盛にならず、大泊・眞岡は共に開港場であるが、貿易は振はない。



大泊・榮濱間及び本斗・泊居間等に臘肭の鐵道を通じ落合・新聞間に樺太鐵道を通じた

圖解 大樺の光景

交通 交通は未だ發達しない。鐵道も一部に開通したのみで、冬は一般に橇を利用する。海運は北海道と鐵道連絡船を通ずる外、暖候には近海の航行が便利であるが、冬は海面の大部が凍結し、晩春になつても尙流水の障害が多く、不凍港は、僅に西岸の一部に見られるのみである。



住民と都會 樺太の原住民は僅

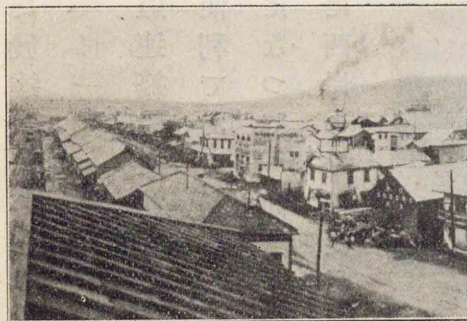
に二千内外で、アイヌを主とし、その他少數のオロチョン・ギリヤク等が住んでゐる。人口は全體として極めて疎であるが、南部及び西南部の海岸、鈴谷・内淵の河谷には稍密である。人口の季節的移動の著しいことは一特色で、而もその時期は、漁場と山林とで相反して

圖解 オロチョン人 (テントに近い小屋に住んでゐる)



主要都邑 千人
 大 泊 三三
 豊 原 三三

眞岡(上)と豊原(下)の市街



處 誌

ある。大都會はなく、早く開けた聚落は多く漁港で、最近目
 覺しく發達したのはパルプ・製紙等の工業地である。聚落
 は街路が正しく、新開地の特色を現してゐる。

鈴谷平野と東西の兩海岸地方とを要部とす
 (1) 鈴谷平野の豊原は本島の中心地で、亞庭灣
 に臨む大泊は、水産・林産の
 集散が多い。鐵道は此等の
 都會を連ねて榮濱に達し、
 又東岸を北進する線路が
 ある。西岸は冬季の氣温
 (2) が割合に高く、眞岡は漁業
 の大中心で、發達が著しく、
 本斗は將來有望な處であ

第三學期

(州廳名) (治所)
 臺北州 臺北
 新竹州 新竹
 臺南州 臺南
 高雄州 高雄
 臺東廳 臺東
 花蓮廳 花蓮
 澎湖廳 澎湖
 澎湖廳 馬公
 面積 約三萬七千方
 人口 約五十二萬人
 約四萬五千人
 山脈・火山帶
 臺灣山脈
 新高山 三三三
 次高山 三三三
 臺東山脈
 大屯火山帶
 大屯山 一〇五

第十章 臺灣

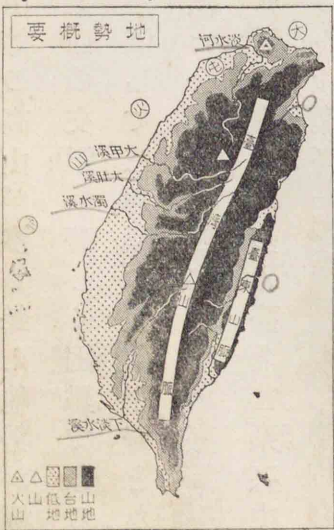
通 說

る。鐵道は此等を連ねて更に北上する。

北樺太 ロシヤの領土で、我が南樺太よりも一層寒氣が強く、人口の密度も小さい。近年我が國で一時占領したことがあり、アレキサンドロフスク等には、我が邦人も行つてゐる。近海は水産が豊で、陸には木材・毛皮獸の外、鑛物の埋藏が多く、ドウエの石炭、オハの石油等は、我が國で採掘してゐる。

日清戰爭の後、我が領土となつた處で、本邦の最南に位し、南はバシー海峽を隔て、フィリピン諸島に向ひ、西は臺灣海峽を挟んで、支那と相對し、軍事上にも重要な位置にある。政治は總督府の下に、五州三廳がある。

地形 本島は中央山地により、大體東西の兩斜面に分れる。中(1)央山地は即ち臺灣山脈の連る處で、

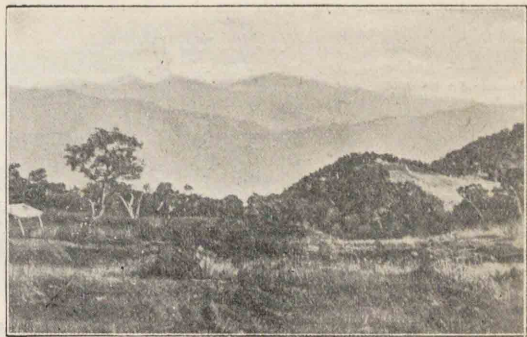


河 湖 (流長) 濁水溪 淡水河 大甲溪 大肚溪 秀姑巒溪 卑南大潭 日月潭

圖 次高山 (今上天皇陛下の御命名で舊名はシルビヤ)

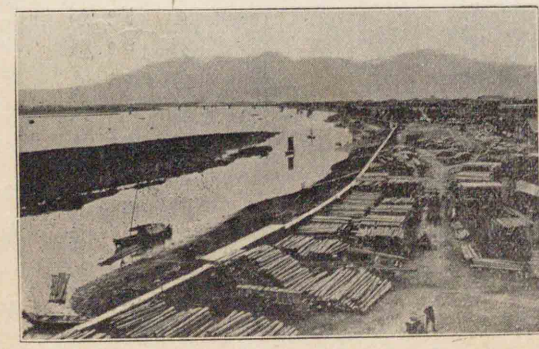
五 四 九 三 六 三 三 五 益 軒

圖 淡水河 (遠景は大屯火山群)



端に大屯火山群を起し、澎湖諸島の熔岩臺地に連る。この方面には大河も多く、中でも長大なのは、中央山地に縦谷をなす下淡水溪、濁水溪で、その他淡水河、大甲溪、大肚溪等がある。多くは山地から急に平地に移る爲、屢々洪水を起

新高山、次高山等の高山が多く聳え、地勢が極めて峻峻で、東西の交通は著しく困難である。その北端は、陥没して三角形の宜蘭平野となり、山地は二派に分れる。西部は廣い臺灣平野であるが、砂礫の臺地が多く、臺北、苗栗、臺中等の盆地は、この砂礫臺地に圍まれてゐる。琉球諸島の内側を経て來る大屯火山帯は、本島の北



新高山 中部に峙つ尖峯が新高主山で、數多の群峯を下瞰してゐる



臺灣の東岸 數里に續く斷崖の中腹に一條の通路が白く絲のやうに見える



蕃人の村 臺中州にあるタイヤル族の蕃社で高く設けたのは望樓である



臺北市の一部
街路樹の整然と並ぶは北門通でその左は舊城内、右の大建物は臺北驛である



臺中の街路
近代的城市計畫によつて建設された新市街で條理が整然としてゐる



臺南の市街
市は島内の古都で新開の街路の外は家屋その他に尙舊態が残つてゐる

日月潭には大發電所の工事が進められてゐる

基隆灣附近及び澎湖諸島は要塞地帯である

北回歸線標(嘉義驛と水上驛との中間にある)

し、且下流に廣い砂礫地を作つて數多に分流し、淡水河下淡水溪の外、舟楫の便は殆どないが、上流は發電に利用される。山中の日月潭は、風景がよいので名高い。海岸は遠淺で、沿岸洲や瀉が發達して、良港灣はないが、北端の基隆と南部の高雄とは、人工を加へて良港となつた。⁽⁸⁾ 東斜面は山地が直に海に迫るか、又は狹長の臺東平野を挾んで、海岸山脈が連る。従つて大河はなく、海岸は多く斷崖をなし、停船に適する良灣はない。

澎湖諸島は多くの島から成り、澎湖島の馬公は、海軍要港として、我が南門の守に任ずる。

氣候 北回歸線が略中央を通じ、南の一半は熱帯に屬してゐる。夏の氣温は内地と著しく變らないが、冬の寒い季節は殆どなく、平地では霜雪を見ることはないから、低地には、杪羅、檳榔樹、榕樹、林投樹、椰子樹

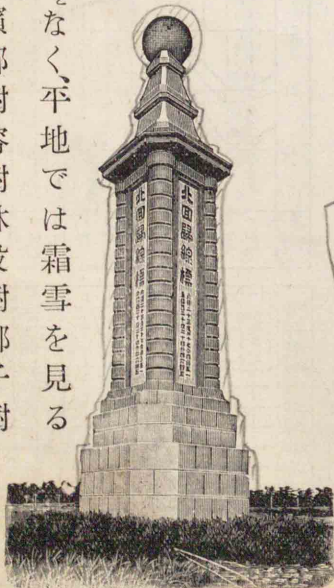
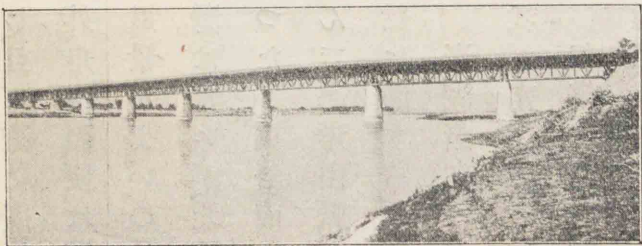
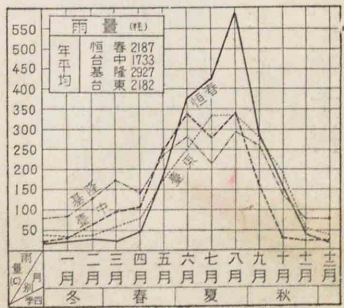
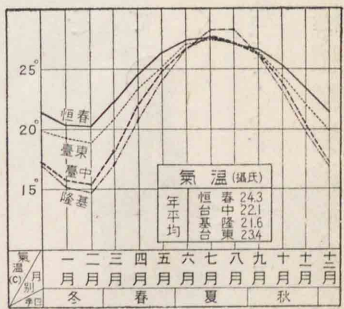


圖 嘉南大圳の給水路を連絡する曾文溪水橋



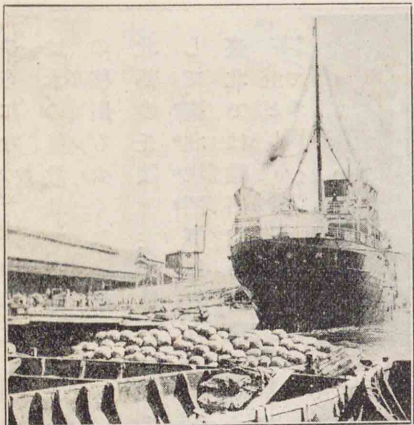
等が茂り、植物景觀は内地と著しく異なつてゐる。雨量は概して多く、基隆附近は、我が國最多雨の地といはれる。颱風や雷雨の爲に、雨は一般に夏に多いが、季節風の關係で、北部では冬が雨期である。氣



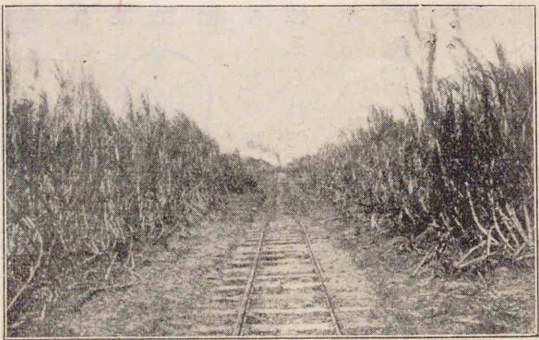
温が常に高く、且濕潤なことは、住民の健康には適しないが、從來流行したマラリヤ・赤

圖 甘蔗畑

圖 米の積出 (基隆港)



痢等の傳染病は、衛生施設の進歩と共に著しく減じ、都會地では殆ど根絶した。産業 農を主業とし、耕地面積の割合は内地よりも大である。臺灣平野は灌漑・水利を缺く處が多かつたが、埤圳(湖池及)工事によつて、桃園・嘉義・臺南・高雄等の附近には、美田・良圃が連るに至り、農法も概して原始的であつたが、次第に改善せられた。農産物は米・茶・甘蔗・甘藷・花生等が主要なもので、麻類・煙草等も作られる。中でも米・茶・砂糖は、重要な移輸出品である。

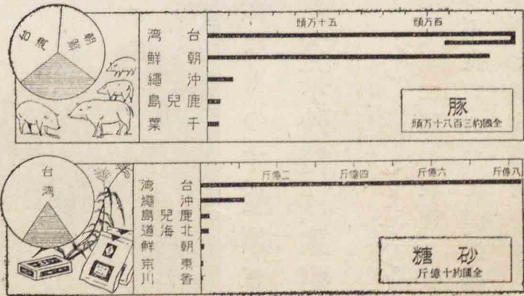
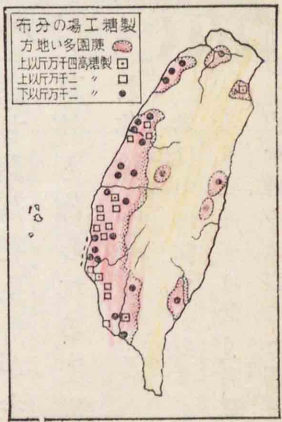


米は中部・北部から多く産し、年二回の收穫を見るも、收穫率は低く、品質も不良であつたが、近年内地種を改良した蓬萊米といふ良種を産する

圖 蕉バナナの市場
落花生
有 煙草



やうになつた。臺中彰化は米の集散地で、内地への移出も少くない。茶は北部の丘陵を主産地として、臺北桃園等を集り、臺北では輸出向の烏龍茶(主とし)包種茶(主とし)米(主とし)南洋



面)等の精製が盛である。甘蔗は中部以南に多く栽培せられ、嘉義鹽水港、屏東等は製糖業の中心である。もとは多く粗糖の儘で移出したが、今は精糖の製造が盛で、粗糖の輸入が多くなり、副産物として酒精を造る。甘藷は殆ど到る處に植ゑられて、島民の食用となる。

本島は各種の果實に富み、バナナ・鳳梨・龍眼・木瓜・柑橘類(ホンカン・レモ)等の産出が甚だ多く、殊にバナナ・鳳梨等は、内地への移出も頗る盛である。

圖 蕉木瓜の畑

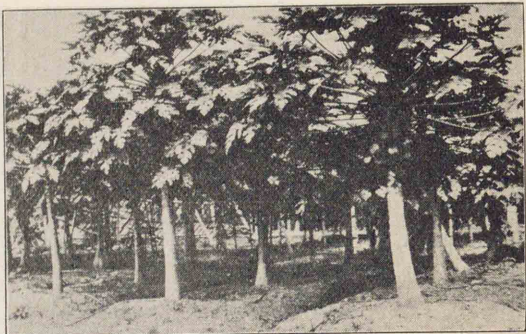
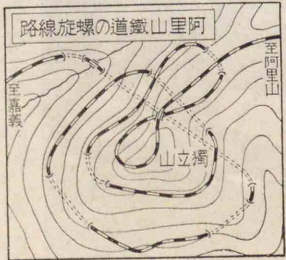


圖 蕉水牛の群



ある。牧畜は農家の副業として、豚・水牛・黄牛・家禽を飼つてゐる。殊に豚は、殆ど各戸に飼育され、飼料として食料となり、水牛



黄牛は農耕・運搬に使役される。森林は濫伐の爲に、平地に近い處には少いが、山腹蕃地には尙原生の美林が残り、總督府は阿里山・八仙山・太平山等に伐材を經營してゐる。中でも阿里山は檜紅

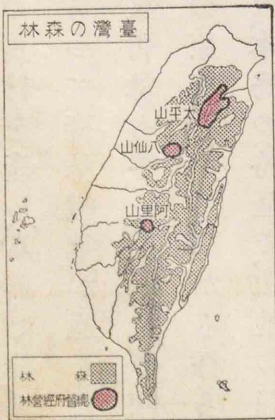


圖 阿里山の巨木
(樹齡は二千年に
達し周囲が二十米
もある)

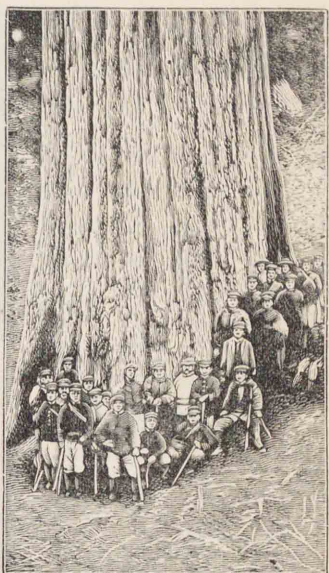
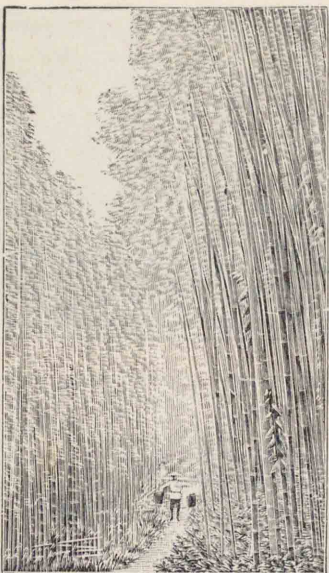
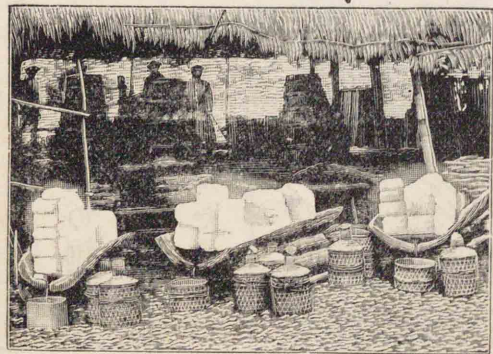


圖 竹林(阿里山
中腹の交力坪附
近)



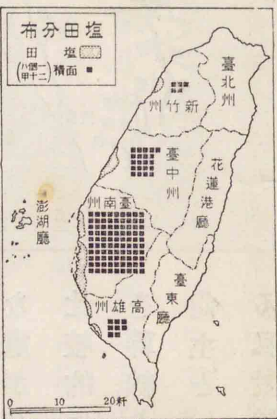
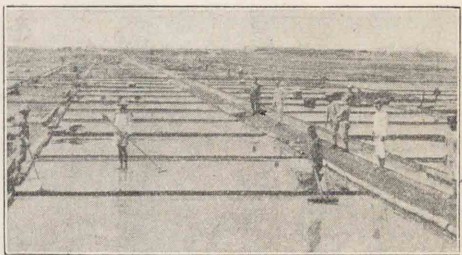
を本島から供給する。

水産業は近年大いに發達し、内地からの出
漁者も少くない。北部の近海は鰹旗魚等の豊



檜等の良材を産し、嘉義に製材
所があつて、森林鐵道が通じて
ゐる。又竹林も多く、製紙及び細
工物の原料とする。樟から採る
樟腦は、本島の特産で、山地の腦
寮で小規模に採集されたもの
が、臺北に
集つて精
製せられ、
世界需要
額の大半

圖 鹽田



あつて、天日鹽の産が多い。

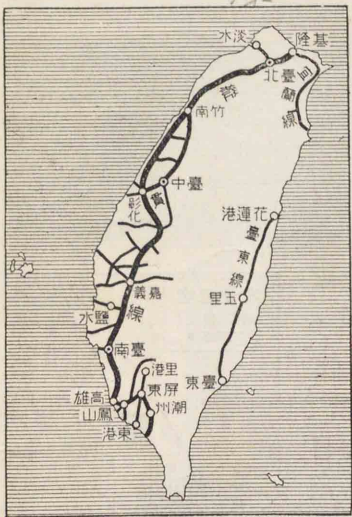
鑛産の主なものは基隆を中心とする一帯の石炭
で、輸出も行はれ、金、瓜石及び瑞芳は金、銀、銅等を出
し、大屯山からは硫黄を産する。中部以南には石油の埋藏も多望と
いはれるが、現に採掘されてゐるのは、苗栗附近のみである。

工業は製茶、製糖、製腦の如き、農林産の加工を主とし、その他專賣
局の事業として、酒の醸造、煙草の製造が行はれる外は、製帽、製筵、製
紙等の家内工業のみであつたが、近年機械工業、化學工業も、漸く發
達に向つてゐる。

樟腦、阿片、煙草、酒
鹽は總督府の專賣
に屬してゐる

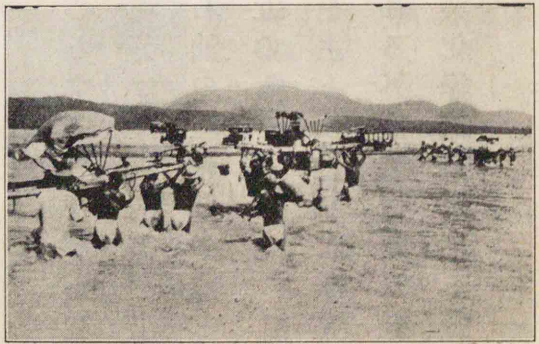
圖 河の徒渉(臺灣の河には橋のない處があり自動車は水中を走り人は徒渉する)
 舊港・後龍・梧棲・鹿港・東石・馬公は特別貿易港である

縦貫線
 宜蘭線
 基隆線
 淡水線
 台中線
 台南線
 高雄線
 屏東線
 台東線
 花蓮線
 台東線



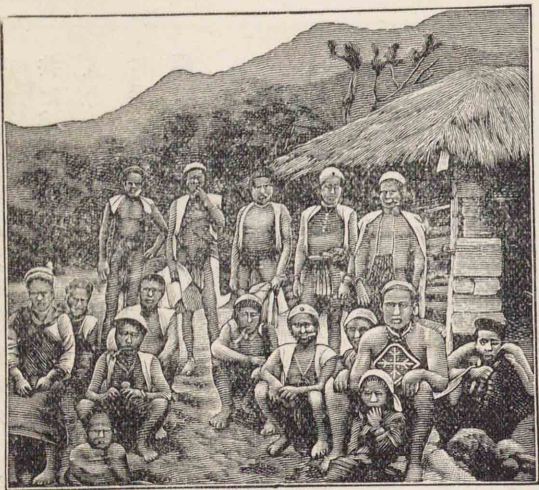
商業は内地との取引が最盛で、砂糖・米・バナナ・樟腦等を移出して、織物・肥料・乾魚・鐵等を移入し、對外貿易では、石炭・精糖・茶・樟腦等を出して、油・糟・粗糖等を輸入する。開港場には基隆・淡水・安平・高雄があり、基隆と高雄とが内外に對する二大關門で、この他支那形船に限り、貿易を許す特別開港場が六ヶ所ある。

交通 道路は循環線の完成を見たが、一般には不完全な處が多い。西部平野は鐵道網が比較的密で、基隆に起る縦貫線を幹線として、各地に支線を出し、尙主として製糖會社の經營による私設線が多い。臺東平野には臺



ウガシ
 田野

圖 臺灣の土人(タイヤル族)
 土人は種族が極めて多いが大別して左の七種となる
 タイヤル族
 サイセツト族
 ブヌン族
 ツオウ族
 バイワン族
 ヤミ族



東線が通じてゐる。又平地山地を問はず、臺車と呼ぶ簡易軌道があつて、地方的に大切な交通機關となつてゐる。海運は基隆・高雄を中心として、内地及び支那との間に船舶の往來が繁く、近年南洋とも航路を通じ、沿岸には汽船・戎克の外、竹筏も多く用ひられる。通信機關には、臺北(受信機橋)その他に無線電信局が設けられてゐる。

住民と都會 この地の原住民は、マレー族の蕃人(高砂)であるが、支那から移住した漢族が土着し、今はその子孫(本島人)が全島の九割を占めてゐる。本島人は、主に西部の平野に住んで、専ら農商を営み、富豪も少くない。蕃人中には農耕その他の事業に従ひ、本島人と殆ど區別の出来ない生活をしてゐる者(蕃)もあるが、山間に在つて、原始的生活を営む者(蕃)もある。後者は性質が兇暴で、身體に黥を施し、首狩を行ふ蠻風もあつたが、近年教化が進んで、著しく温順になつた。人口は割合に稠密で、西部平野に



溪 水 濁 の 灣 臺

たつなに巖にうやの圖が事工水防は今がだん苦に混泥々屢來古

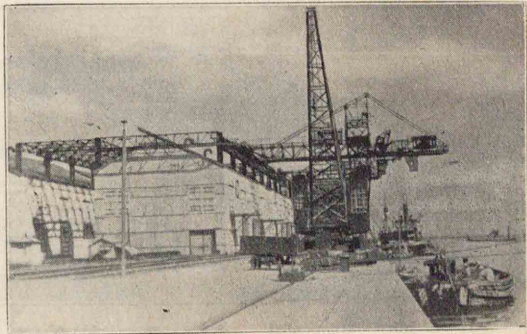


山 剛 金 の 鮮 朝

部一の相物萬るあ名の勝絶に特中山剛金たれら知で岩怪峰奇

圖 修 改 された 高 雄 の 埠 頭

圖 解 臺 東 の 要 部



港市で、街衢がよく整ひ、鳳山・屏東は共に農産の中心地で、前者は果實の罐詰を多く出し、後者には製糖の大工場がある。恒春は我が國最南の都會で、南岬に近い七星岩は、我が版圖の南端である。

であるが、市況は振はない。
 南部は甘蔗園の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的景觀が著しい。嘉義市は製材が盛に行はれ、臺南市は早く開け、永く本島の主邑であつたが、今は南臺灣の中心都會で、附近は製糖業が盛である。安平は市の一部で、港は浅いが、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の



道名	治所	京畿道	(京城)
慶尙南道	(釜山)	黃海道	(海州)
慶尙北道	(大邱)	江原道	(春川)
全羅南道	(光州)	咸鏡南道	(咸興)
全羅北道	(全州)	咸鏡北道	(羅南)
忠清南道	(大田)	平安南道	(平壤)
忠清北道	(清州)	平安北道	(新義州)

臺東平野は、開拓の最新しい處で、本島人は少く、内地人と蕃人とが農耕に従事してゐる。花蓮港臺東は、この地方の門戸である。澎湖諸島は、低い熔岩臺地が、數多の島に分れたもので、澎湖白沙漁翁の三大島が、相對して澎湖灣を作つてゐる。灣内の馬公は、海水の深い良錨地で、國防上の要地である。西南の花嶼は、我が版圖の西端に當つてゐる。

第十一章 朝鮮

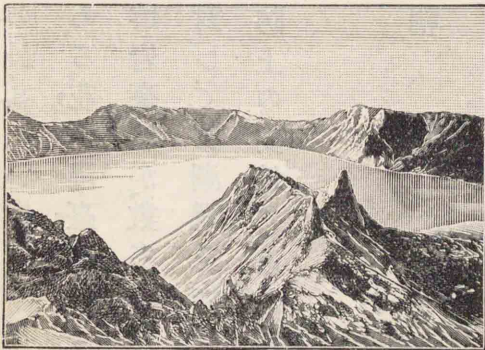
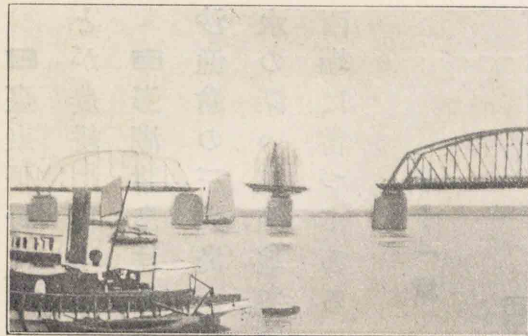
通説

朝鮮は日本海と黄海との間に突出する大半島で、北は滿洲國及びシベリヤと境を接し、國際的に重要な處である。我が國とは、遠く神代の頃から往來があり、その後も關係は密であつたが、明治四十三年終に我が國に併合するに至つた。行政は總督府の統轄に屬し、その下に十三道があつて、各道に知事を置いて治めてゐる。

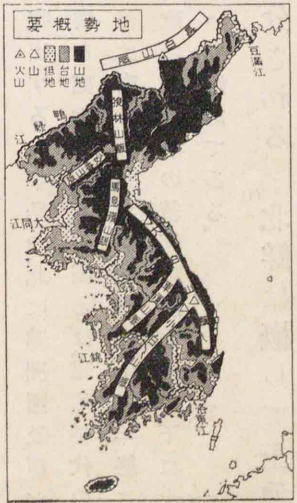
地形 地形上、南北に二分される。(1) 北鮮は概して土地

面積	約三〇七、四一〇方
人口	約三、〇〇〇萬
山脈	長白山脈、白頭山脈、妙香山脈、大白山脈、金剛山脈、小白山脈
河川(流長)	鴨綠江(七五五)、豆満江(五三三)、漢江(五三三)、大同江(四九二)、錦江(四九二)、清江(二六六)、榮山江(二六六)
圖解	鴨綠江(橋は鐵道架橋で中央の一部は廻轉式となつてゐる)
圖解	白頭山上の火口湖(龍王潭又は天池湖と呼ばれ火口の周囲十一軒餘

が高く、國境の長白山脈には、白頭山が噴起して、頂上に火口湖(龍王潭)を湛へ、その南に擴がる蓋馬高臺には、狼林、妙香の二山脈が連つてゐる。鴨綠江は半島第一の大河で、



豆満江と共に北境を流れるが、沿岸平野は極めて狭い。西南斜面には沃野が廣く、大同江、清江等の大河が流れて、主要の生産地となり、海岸の出入も多い。日本海岸には良港灣は少いが、北部の海灣は、滿洲の門戸として注目される。



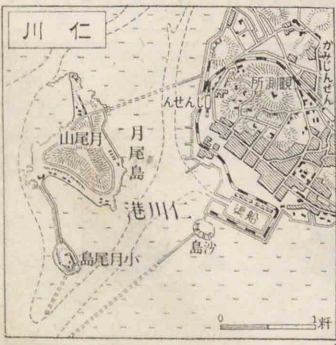
めて狭い。西南斜面には沃野が廣く、大同江、清江等の大河が流れて、主要の生産地となり、海岸の出入も多い。日本海岸には良港灣は少いが、北部の海灣は、滿洲の門戸として注目される。

鎮海灣・永興灣附近は要塞地帯である

(2) 南鮮は、主分水嶺の大白山脈が、著しく東に偏して、直に海に迫るが、西南に數多の小支脈を出して、到る處に低山性の起伏が多く、漢江、錦江、洛東江等の大河が、此等の間を流れて、流域に平野を開いてゐる。大白山脈の北部には、絶勝で名高い金剛山がある。

東部は海岸線が單調であるが、西部南部は山脈の餘勢を受けて、濟州島、巨濟島を始め、島嶼や海灣が錯雜し、その一部は朝鮮多島海と呼ばれる。従つて良港も多く、鎮海灣は海軍要港として、佐世保軍港と對してゐる。東岸は潮汐干満の差が少いが、西岸は極めて著しく、仁川では十米に達し、船舶の出入に不便な爲、閘門式船渠の設備がある。

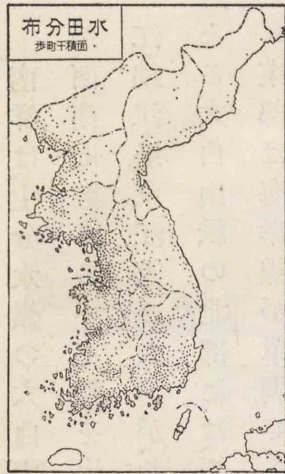
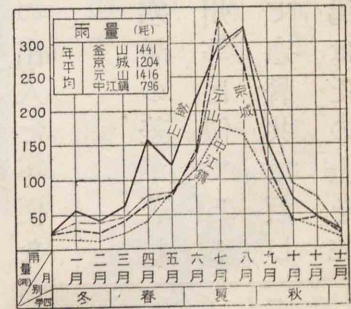
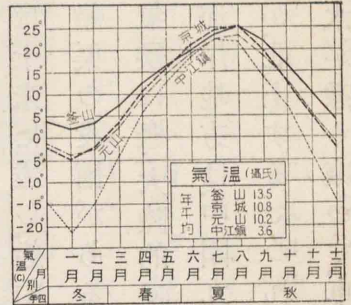
氣候 氣候は概々大陸的で、寒暑の差が著しい。南部の海岸地方は、中國九州等に似てゐる處もあるが、北上するにつれて寒暑共に烈しく、冬は河水が悉く凍つて、車馬はその上を往



元山の高極は三十九度六分で宇和島に次ぎ中江鎮の低極は零下四十一度六分で落合に次ぐ

圖解凍つた河面に穴を穿ち魚を釣つてゐる

來する。然し三寒四暖と呼ばれる天氣の變化があるの、割合に凌ぎ易い。雨量は一般に少く、北部及び西斜面は、我が國の最寡雨地帯であるが、豪雨が屢あつて、洪水を起すことがある。



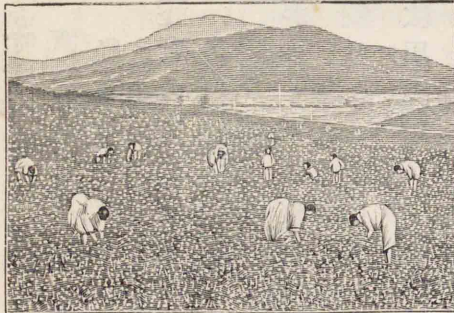
産業 我が國に併合以來、政府の保護奨励によつて、各種の産業が大いに面目を改めたが、改善の餘地は尙多い。農業はこの地の主業で、米を第一とし、麥類・粟・大豆・綿・煙草の産額が多く、甜菜

圖解群山に於ける米の積出

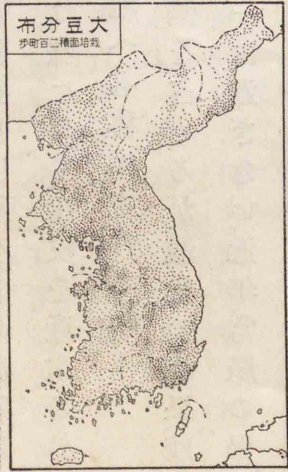
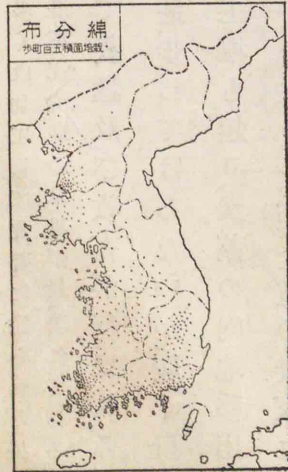
圖解綿畑



れ、東岸地方を除いて殆ど各地から産し、就中西南部に盛で、光州はその主要集散地、木浦は積出港である。煙草は大邱附近に多く、人蔘は

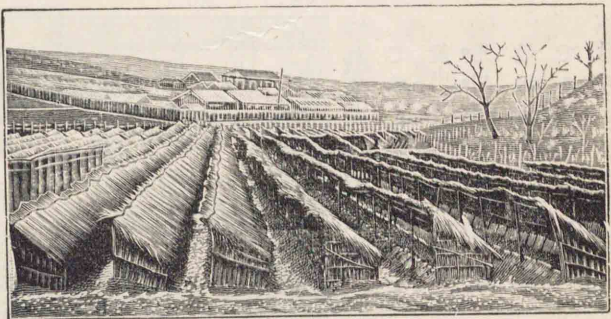


特産である。米作は西部南部の平野に最盛で、大邱・大田・全州等を集散地とし、群山・木浦・釜山等から内地への移出も多い。麥・粟・大豆は殆ど産する處の平野から産して、大麥・粟は食糧となり、小麥・大豆は内地への輸送も少くない。綿作は近年著しく改善せら



朝鮮人蔘の栽培

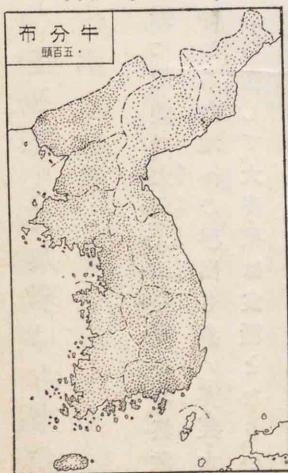
北部では毎戸一頭乃至四十頭の牛を飼つてゐる



開城附近が最も名高く、多くは加工して支那に送られる。果實は各地に産するも、洛東江流域の苹果が最も著れてゐる。農家の副業として、養蠶及び牧畜が行はれる。養蠶の方法は未だ進歩してはゐないが、廣く行はれて、最近製絲の工場も起り、又繭の内地移出が少くない。牧畜は牛を主とし、殆ど全道の農家に飼はれるが、山地には殊に多く、牛皮を産する外、馱用肉用として内地へも移出される。

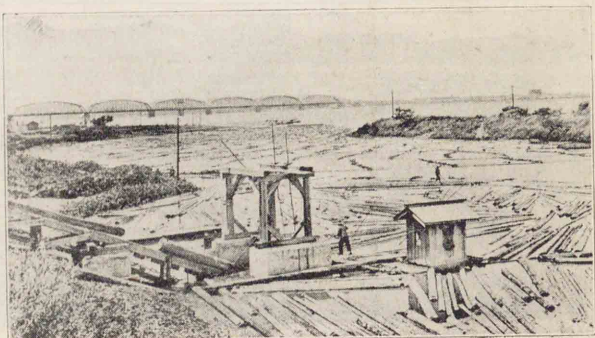
林野は半島の七割を占めるが、濫伐の結果、成林地は僅に三分の一に過ぎない。近年當局の保護奨励によつて、植

林に心を用ひたので、漸く挽回に向ひ、林相を一變するに至つた。交通の不便な鴨綠江・豆滿江の上流地方には、針葉樹の密林があつて、その伐採が盛に行



明太魚は冠婚・葬祭などの儀式に必ず用ひる風習がある

新義州に於ける王子製紙會社工場の貯木場



はれる。鴨綠江の口に近い新義州はその集散地で、營林署パルプの工場等がある。

沿岸には魚族が豊富である。東岸の明太魚、鯨と、西岸の石首魚とは殊に名高く、南岸には鯛・鱈・鯖等が多い。元山・蔚山・灣釜山・濟州島等は、漁業の根據地で、又中國九州方面からの出漁も盛である。西海岸の一部には天日製鹽が行はれ、廣梁・灣朱安等はその中心である。

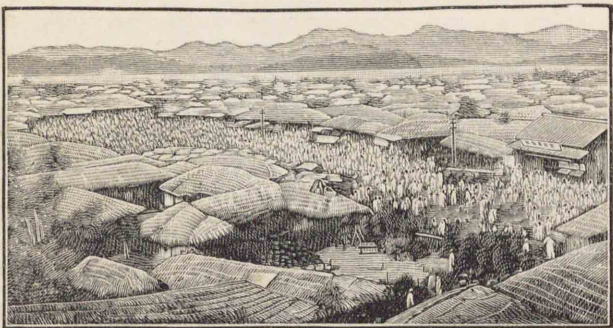
礦物の埋藏は頗る豊富で、金・鐵・石炭等は殊に多い。雲山・大楡洞

雲山の採金は遂安と共に米人の經營に屬してゐる。金は我が金貨の地金となる

は名高い金産地で、三成も近年産額を増した。鐵礦は利原・下聖・載寧等を主産地とし、載寧の鐵礦は、多く八幡の製鐵所に送られるが、製鐵所は兼二浦にも



圖 大邱の市場
(白く見えるは鮮人の群集)



ある。平壤の附近からは無煙炭を産して、徳山の海軍燃料廠に原料を供し、黒鉛も各地から産する。工業は未だ盛でない。鮮人の事業としては、僅に古から行はれた織物・陶器・紙等の手工を見るに過ぎないが、近年内地人の經營せる新式工場が處々に勃興し、紡績製紙製材製糖化學工業等には、頗る大規模のものがある。貿易は内地から多くの加工品を移入して、原料品を移出する外、支那との取引が頗る多い。雄基・清津・城津・元山・釜山・木浦・群山・仁川・鎮南浦・新義州・龍巖浦等は、何れも開港場であるが、殊に釜山と仁川とは、半島の二大門戸である。域内の商業は、處々に定期市を開いて行ふを特色とし、大邱の市場は最も名高い。

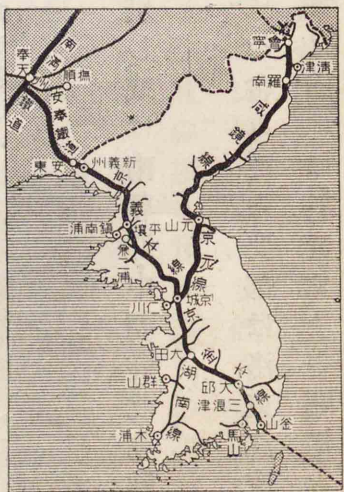
交通 往時は道路が著しく荒廢し、専ら馬又

- 1 京城・釜山間
- 2 京城・安東間
- 3 三浪津・馬山間
- 4 大田・木浦間
- 5 永登浦・仁川間
- 6 平壤・鎮南浦間
- 7 京城・元山間
- 8 元山・清津間

圖 鮮人の風俗
(庶民の住屋と細流に洗濯をしてゐる婦人)



は轎を用ひてゐたが、近年その修築が行はれて、自動車の往來も盛になつた。鐵道は京釜・京義の二線が、相連つて半島を縦貫し、更に鴨綠江の開閉橋で滿洲國の鐵道に連接してゐる。その他馬山



湖南・南京・仁平・南京・元成・鏡等の諸線がある。

海運は鐵道連絡船の外、沿岸の要地及び内地支那・シベリヤ等との間に航路を通じ、殊に西部と南部とは、良港が多く、水陸共に交通が便利である。無線電信局は、京城・釜山・その他に設けられ、内地・大連及び滿洲國との間には、航空輸送も行はれる。

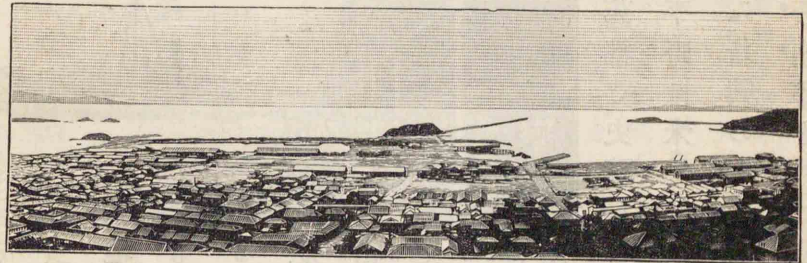
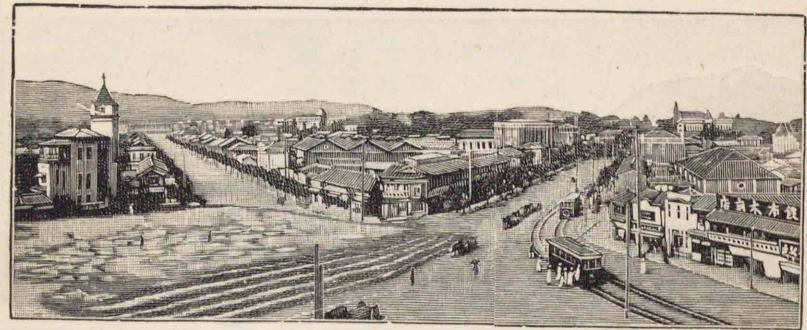
住民と都會 この地は併合後、既に二十年になるが、内

京城は東京から約二晝夜で達し又京城から新義州へ約十二時間釜山へは約十間時を要する

セウ州

【圖】京城の市街（南大門通）

京城に京城帝國大學がある
龍山に第二十師團司令部がある
【圖】仁川港（右方に大小の月尾島を連結した導堤が見え中央に沙島から出た導堤が見える）

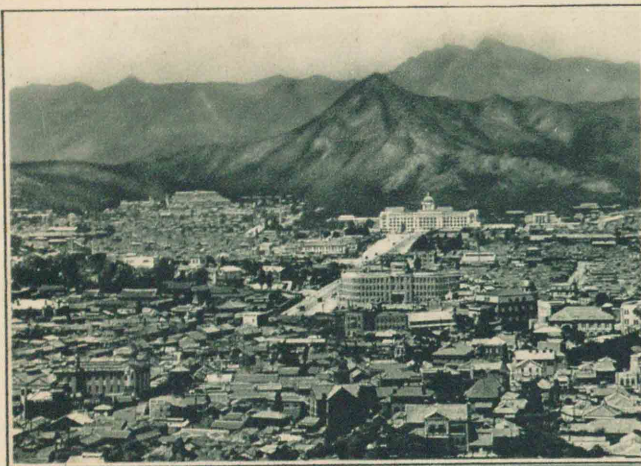


散が行はれ、海岸の群山、木浦等はその積出が盛である。

■ 中朝鮮は中部の三道（京畿、江原、忠清）を含み、主として漢江の流域に屬し、その下流に沿ふ京城は政治上、經濟上、總て半島の大中心である。もとは城廓を繞らした支那風の都市であつたが、近年市區を改修して、全く舊觀を一變した。廓外の龍山は、軍事交通の要地である。仁川は京城の門戸に當る主要な商港で、水原は勸業模範場の所在地、開城は高麗の舊都である。

京城の展望

三角形に聳つ北岳山の下に總督廳舎が駭然と見えてゐる



京城の市街
南大門通の光景で銀行會社等の建物が多い



平壤の市街

大和町通の光景でアカシヤの街路樹が茂り家屋は内地人のが多い





綿の集積

木浦の海岸を示したものでその出盛時期には埠頭は綿で埋められる



人蔘の乾燥
多数の蔘根を籠に並べ日光に曝して乾燥せしめる



大豆の集積

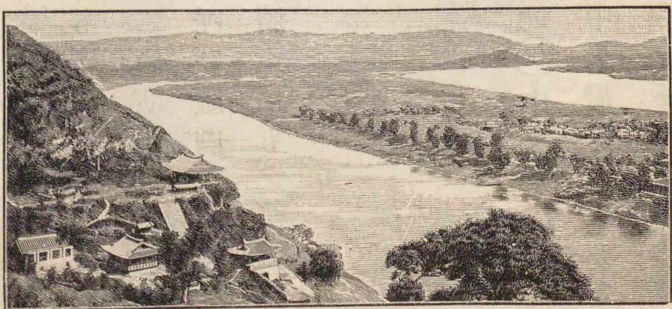
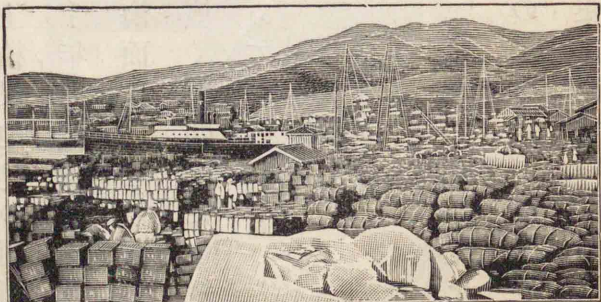
上三峰驛に集る大豆でその多くは此處から清津に運ばれる

【圖解】下は平壤牡丹臺（圖中に近く見えるのが浮碧樓）

【圖解】上は清津の埠頭（北鮮地方の重要な門戸で貨物の集散が多い）

羅南に第十九師團司令部がある

北朝鮮は北部の四道（平鏡南北咸）で、更に西部東部に分れる。⁽¹⁾ 西部の平壤は、大同江に臨み、北朝鮮の首邑で、古代文化の遺跡が多く、鎮南浦はその門戸である。新義州は鴨綠江を隔てて、滿洲國の安東と相對してゐる。⁽²⁾ 東部の元山は、裏朝鮮の要港で、咸興は農産物の市場である。清津は會寧を経て、滿洲國の間島地方へ通ずる門戸に當り、雄基と共に將來滿洲國に對する主要の一海口たらし、羅南は軍事上の要地である。



第一章 版圖

我が國は、本土が狭く、その上植民地(地外)の面積も廣くないのは、國勢上遺憾ではあるが、最近數十年間の發展を見ると、實に驚くべきものがある。國の周邊にある海面は之を領海と呼び、版圖の一部分である。我が國の領海は甚だ廣く、國防上にも、經濟上にも、之が爲に利する所が極めて多い。

第二章 地勢

山系火山帶 日本列島は東北彎(千島)・中央彎(樺太九州)・西南彎(琉球)の三弓狀から成る。中央彎は最も主要な部分で、構造上更に南北の兩彎に分れる。南彎は中央



領海範圍の解釋には種々の例外もあるが通常海岸から三哩といふ六哩

北彎山系の連る地域を北日本、南彎山系の連る地域を南日本と呼び、又彎形の外側を表日本、内側を表日本と呼ぶことがある

線によつて、内外二帯に區分せられ、内帯は斷層が縱横して、地壘や盆地が多く、外帯は地貌が概ね高峻で、豊後水道・紀伊水道・伊勢海等の陥没を除いては、地盤の變動が割合に少い。北彎は南北に縱走せる數列の山脈から成り、その間に長大な縦谷の發達せる點は、南彎と著しい對象をなしてゐる。

南北兩彎の會合する弱線を通じて、富士火山帶が走り、幾多の高峯を起して、遂に南洋の島々に連る。この他北日本には那須・鳥海・千島等の火山帶があり、南日本には乗鞍・白山・阿蘇・霧島等の火山帶があつて、世界の火山國に數へられる。火山地方には温泉が多く、その



太平洋斜面	(主要河川)	北上川	利根川	天龍川
オホーツク海斜面		木曾川	熊野川	
日本海斜面		石狩川	最上川	信濃川
朝鮮海峡斜面		江川	豆湍江	
黄海斜面		洛東江		
東支那海斜面		鴨綠江	大同江	漢江
臺灣海峡斜面		筑後川	球磨川	川内川
瀬戸内海斜面		淡水河	濁水溪	下淡水溪
		淀川	旭川	大田川

圖 湖面の海拔を示す

平野があり、山脈の間には、狭長な平野及び盆地帯がある。臺灣及び朝鮮の平野は、山地の西側に偏つてゐる。川は多くの斜面に分れ、平野の地方には比較的長い川もあるが、概流が短く且急で、舟運の便に乏しい。然し米作國たる我が國としては、灌漑の價値が大きく、且水力の利用も盛で、世界有数の電力國に數へられ、工業の將來に好望を捧げてゐる。

都會に近いものは、保養地として利用される。朝鮮半島の山地は、列島とは全く系統を異にし、花崗岩類を主とする高原状の地塊で、火山は少く、活火山は全くないが、温泉は處々にある。

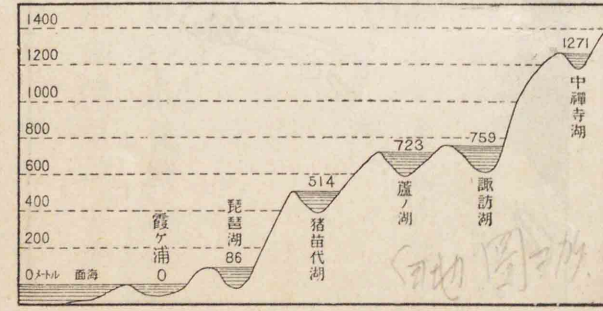
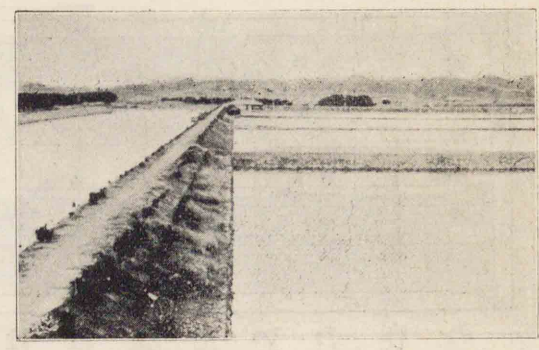


圖 湖水を利用した養魚場(濱名湖の鰻養殖場)



湖水の大きなものは少いが、多く天然の貯水池となつて、灌漑養魚發電に利用せられ、稍廣いものは交通の助ともなり、或は風景の爲に、遊覽地を生むものもある。

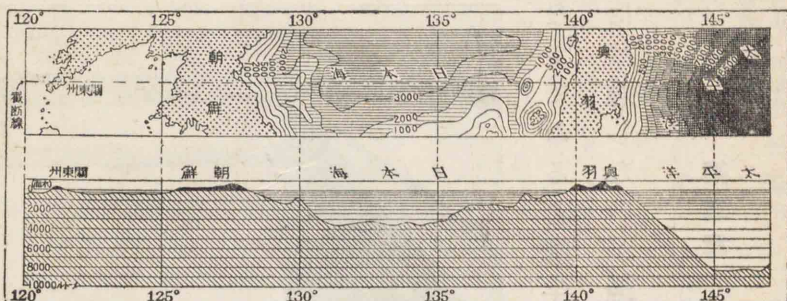
海岸 島國である上に、處々に陥没が行はれて、海岸の屈曲が著しく、海岸線の發達は、世界無比である。瀬戸内海は、早くから交通の要路であつたが、今はその東端の大阪灣岸が、伊勢海東京灣の沿岸と共に、最重要な産業地となつてゐる。志摩半島三陸海岸の如きリヤス式海岸は、商港の發達には適しないが、漁港が多く、日本海岸には單調な砂濱が多い。

第三章 海洋

近海 日本列島は、アジャ大陸の縁邊にある山脈が、その頂點を

日本海溝の最深部は伊豆諸島の東方にあつて九千四百三十五米に達し、又東北の一部にはタスカローラ海淵（八千五百十四米）と呼ぶ深所がある

【圖】日本の近海とその断面

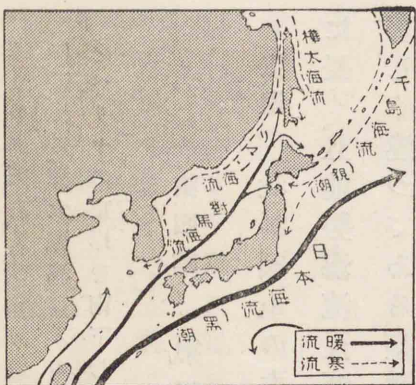


海上に現したものであるから、内側の海は一般に浅いが、外側は急に深く、日本海溝、琉球海溝等は、世界的深海の一である。經濟上に大切なのは、深海よりも寧ろ浅海で、漁場は多く二百米以内の所謂陸棚にある。我が近海に於ける陸棚の面積は甚だ廣く、我が國が世界の大水産國たる一因は此處にある。

潮汐 海面には、一日に二回づつ潮汐が起る。その干満の差は、地形、海底の状態等によつて大いに違ひ、朝鮮の西岸、有明海等に最大で、日本海の沿岸は、汐干狩には適しない。潮汐の干満が適度にあることは、貝類、海苔等の養殖に利し、港灣の浚渫作用ともなるが、過大の時は、船舶の出入を妨げる。又狭い海峡では、潮汐の干満につれて、

【圖】潮流中の渦（鳴門海峡）

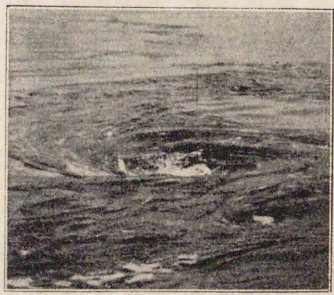
海流の水溫（夏季）
日本海流二七度
千島海流一八度



潮流を起すことがある。瀬戸内海の入口は、その現象が殊に著しく、交通を妨げることが多い。

海流 我が近海には、寒暖二種の海流がある。

日本海流對馬海流は暖流で、千島海流リマン海流樺太海流等は寒流である。海流は氣候に影響を及ぼし、又水産と密接な關係がある。暖流には



鯉、鰻の如き魚族が集り、寒流には鯨、鱈等の魚族及び各種の海獸が好んで棲息する。寒暖兩流の合する地方は、屢濃霧を起して交通を妨げ、又農作物の生育を害する。

日本海流は水色が濃藍色を呈するので、黒潮とも呼ばれる。臺灣の南方から來り、日本列島の外側に沿つて北上し、奥羽の東方に至つて、大部分は太平洋の沖合に向ふ。對馬海流は日本海流の支派で、九州の南方から日本海に入り、列島の内側に沿つて北上する。千島海流はカムチャツカ半島の方面から

来り、千島列島及び北海道本島の東側を洗ひ、奥羽の東南に至つて日本海流の下に隠れる。樺太海流はオホーツク海に起つて樺太の東岸を南下し、リマン海流はシベリヤの東岸を南下して、朝鮮海峡に達する。

第四章 氣候 生物

氣温 我が國土の大部は温帯にあるから、概ね温和であるが、南北に長く、且地勢海流及び季節風等の影響により、氣温は處によつて著しく違つてゐる。臺灣小笠原諸島等は、年平均氣温が二十度以上に達し、夏と冬との差は割合に少いが、北海道樺太では、年平均氣温が九度以下で、中には零度以下の處もあり、長い冬と短い夏との二季に分れて、氣温の差が烈しい。朝鮮の氣候は著しく大陸性を帯び、南部を除けば、氣温の差が極めて大である。

圖 各地に於ける最高・最低の平均氣温(斜線を加へたのは最高氣温で黒は最低氣温)

年平均氣温 度
 恒春 二四・三
 敷香 (一)〇・四
 氣温の高極
 宇和島 四・二
 元山 三・六
 氣温の低極
 落合 (一)四・六
 中江鎮 (一)四・六
 旭川 (一)四・〇

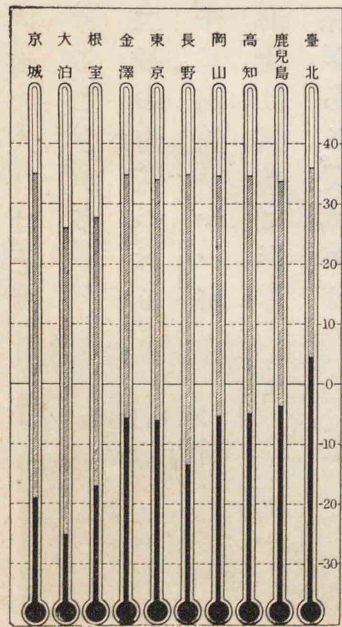
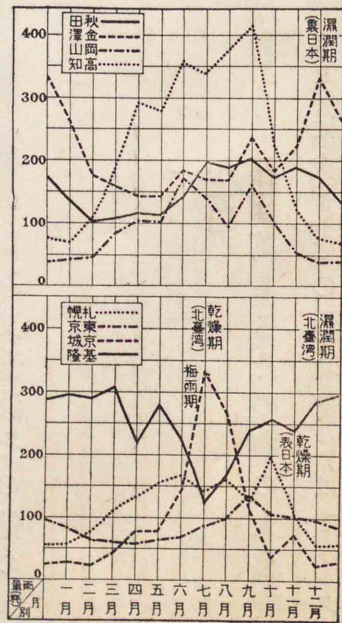


圖 季節による各地の雨量

夏秋の交我が國に襲來する颱風は多くマリヤナ諸島附近から來る低氣壓で始め西北の方向に進み臺灣の東に至つて漸く東北に方向を變じて進行し來るもので所謂二百十日の頃は荒れ時として一般の警戒する所である



ある。

風雨 我が國の夏は、東南風が多く、冬は西北風が多いから、雨量も之につれて變じ、夏は九州・四國・本州の太平洋方面に多量の雨を降らし、冬は本州の日本海岸地方に雨雪が多い。樺太は雨量が少く、朝鮮も東南部の外、概して寡雨であるが、臺灣は降雨が多く、特に北部は本邦最多雨の地である。風向の變る夏秋の交には、往々颱風が襲來して暴雨が之に伴ひ、又初夏の頃には、全國の大部に互り、梅雨と呼ぶ雨期があつて、陰鬱な天氣の續くのが例である。

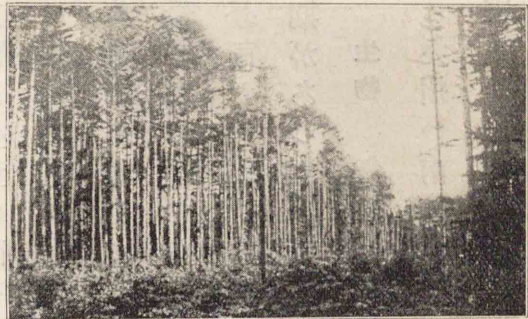
生物 氣候の關係で、植物の種類も處によつて著しく違つてゐる。九州の南部から臺灣にかけては、種々の熱帯植物が茂り、北海道樺太では、寒帯性の針葉樹が密生してゐるが、常緑闊葉樹を見ない。

植物は高さによつても異なり臺灣の高山では麓から頂上に行くにつれ熱帯から寒帯までの植物が見られる

林)

【圖】熱地の植物 (臺灣恒春附近の檳榔樹)

津輕海峡は生物分布上著しい境界をなし、ブラッキストン線と名づけられる。ブラッキストンは永く函館にあつて鳥類の分布につき研究した英人である。



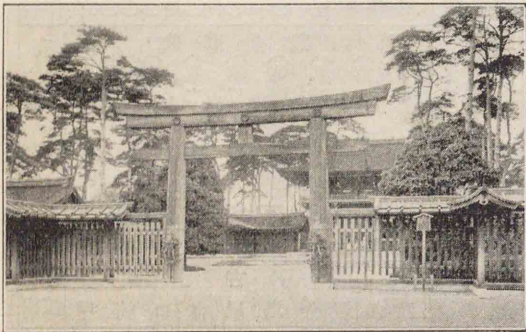
係で、魚族も處により種類が異なつてゐる。

第五章 住民

民族人口 我が國の住民は約九千九百九十九萬ある。その中の大多數は日本民族で、朝鮮族、臺灣人(漢族)が之に次ぎ、その他北部にはアイヌ

一方軒の人口密度は約百三十四人で内地のみでは約百六十九人である

【圖】明治神宮(南神門即ち正面から拜した光景)



オロチョン、ギリヤク等の土人が住み、臺灣には蕃人(マレー族)が住んでゐるが、何れも少數である。この他外國に居住する内地人は、七十萬人を超え、支那、ハワイ(布哇)、アメリカ合衆國等には殊に多く、又南洋諸島及び南米等に住む者も少なくない。然し米國では近年排斥を受け、濠洲、アフリカ等では、早くから移民を禁ぜられてゐる。

神社宗教

日本民族は奉公の精神に富み、従つて祖先を崇め、忠勇の士を神として祀る美風があるから、神社の数は甚だ多い。宗教は佛教が最も盛であるが、敬神の念につれて起つた神道、近年泰西から傳つたキリスト教等も、一部に行はれる。

教育

我が内地の教育は、大いに進歩して、小學校は到る處に設けられ、中學校、高等學校、高等女學校も年々その數を増し、普通教育の

師團	步兵旅團	第八弘前	第十六秋田
(名稱)司令部	(番號)司令部	第一 横須賀	第二 吳
近衛 東京	第一 東京	第三 佐世保	同 上
第一 東京	第二 東京	同 上	同 上
第二 仙臺	第三 仙臺	同 上	同 上
第三 名古屋	第四 名古屋	同 上	同 上
第四 大阪	第五 大阪	同 上	同 上
第五 廣島	第六 廣島	同 上	同 上
第六 熊本	第七 熊本	同 上	同 上
第七 旭川	第八 旭川	同 上	同 上

我が條約國は四十に餘りその中イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・ペルギー・ソビエト聯邦・トルコ・アメリカ合衆國・ブラジル・滿洲國とは大使を交換してゐる

外交 我が國は相互の和親を保ち、國利を計る爲に、世界の主要國と概條約を結んで大使又は公使を交換し、又通商上の要地には領事が駐劄して通商の事務や、居留民の保護に當つてゐる。歐洲大戰の後、國際聯盟が成立し、我が國は之に加つて、重要な地位を占めてゐる。

第七章 産業

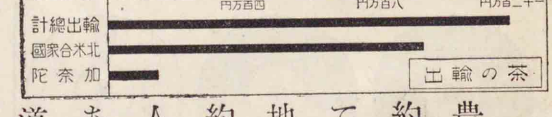
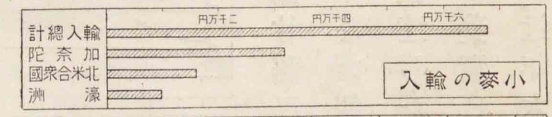
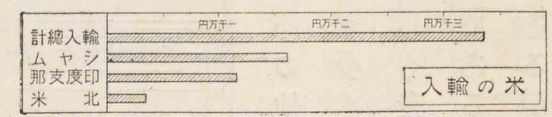
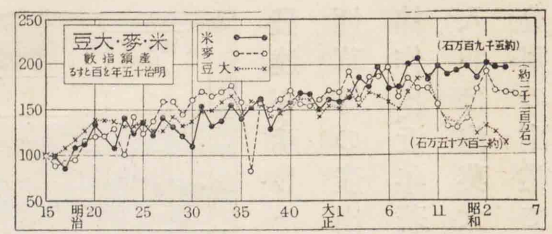
(海軍)	(鎮守府)	(要港)
第一 横須賀	同 上	大湊
第二 吳	同 上	舞鶴
第三 佐世保	同 上	鎮海・馬公

國防上の要地には要塞が設けてある。

海軍は全國の海岸海面を三海軍區に分け、各區に軍港を定めて鎮守府を置き、又要害の地には要港を設け、防禦に備へてゐる。

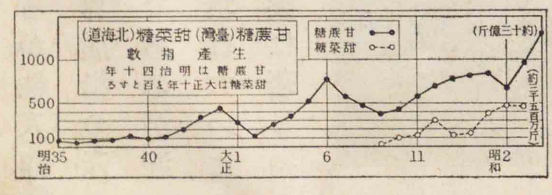
は二個の師團を設け、臺灣・滿洲には守備隊を置き、この他

清酒の原料となる米のみで六百萬石以上に及ぶ程である



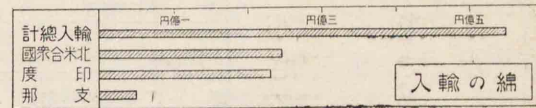
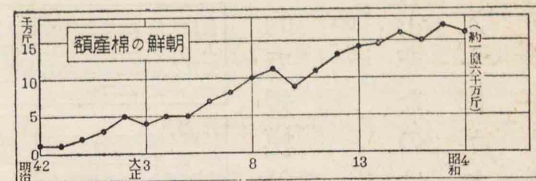
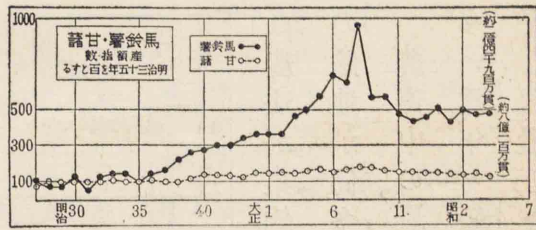
は、農法が集約的で規模が小さく、農業經營上には改良の餘地が尙多い。
農産中の最も重要なのは米で、産地も最も廣いが、消費が多い爲、年々輸入を仰がねばならぬ。麥は米に次いで主要な食糧となり、大豆も醸造原料として需要が多く、共

農業 我が國民は、古來農を主業とし、内地人口の約五割五分は之に従事してゐるが、地形の關係上、耕地が割合に狭く、全面積の約一割六分、且人口が稠密であるから、北海道・樺太等の外

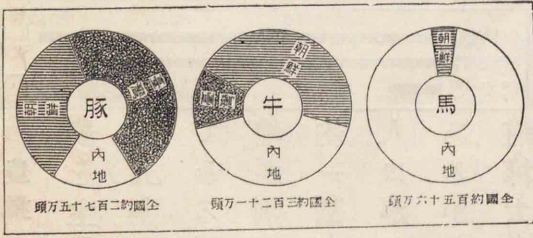


茶の栽培は近年九州方面でも次第に盛になつて行く

圖解 北海道の牧場



發達を示した。その他甘藷、馬鈴薯、煙草等の産出も少くない。朝鮮の綿作は、近年著しく發達したが、輸入額は尙莫大である。養蠶は元來農家の副業であるが、近年大いに



に廣く各地から産するが、輸入額も尙少くない。茶は世界屈指の産地で、主要輸出品の一つであるが、近年稍衰へた。甘蔗の栽培は大いに盛となり、臺灣の製糖業は著しい

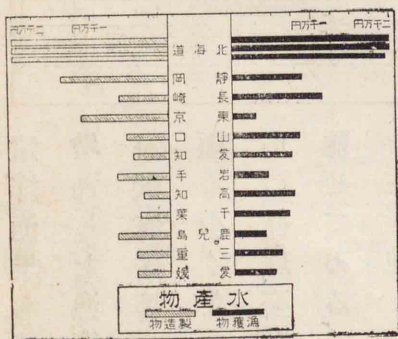
我が國は濕氣が多く面積が狭く且大草原がないから牧畜に適當とはいへぬ

政府は青森・北海道に於いて二ヶ所の種馬牧場、地方の處々に種馬育成所又は種馬所を置いて馬匹の改良を計つてゐる

家畜の數殊に人口に對する割合は歐米諸國に比して著しく少い

圖解 漁場 (房總半島沖の漁船)

近時滿洲・シベリヤ等の沿岸へも漁區を擴め産額が大いに増加した



發達し、本州中部から奥羽南部に亙る地方は最も盛である。牧畜は生活状態の變遷、軍馬改良の必要等から、公私の牧場が處處に興つて、牛・馬・羊・豚等の飼養が次第に盛になり、その方法も著しく改善された。養鶏は概々農家の副業であるが、近年は頗る大規模に之を行ふ者がある。

林業

内地にも處々に美林があり、朝鮮・臺灣・樺太等には廣い天然林もあつて、伐材は盛に行

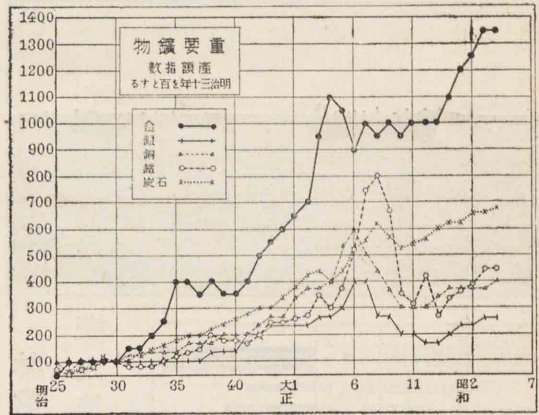
はれるが、木材は尙輸入の要位を占めてゐる。臺灣の樟腦は、世界需要の大半を供給し、重要な産物である。

水産業

我が國は、地形・海洋・國民性等、總てが水産業發達の條件を具へ、近年

北海道地方の海岸は世界三大漁場の一に數へられる

食鹽は工業原料としても重要なものであるが我が内地では食用のみでも不足してゐる

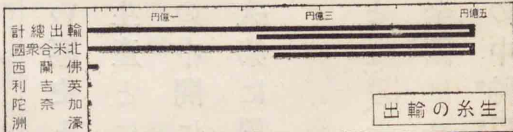
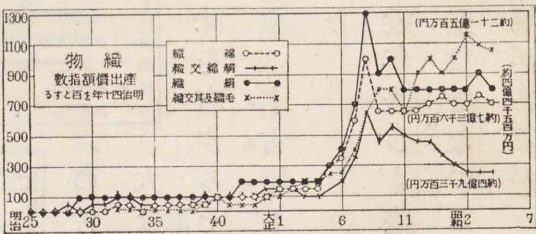
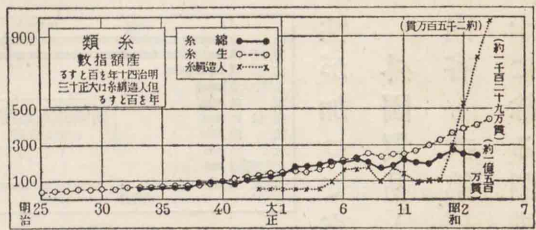


遠洋漁業も盛となつて、漁獲額が著しく増加した。漁獲物は魚類を第一とし、貝類、海獸、海藻等があり、其等の加工品は、輸出額も少くない。特殊の産物として、志摩半島の眞珠、臺灣の珊瑚等が、國際的に名を馳せてゐる。この外、食鹽は瀬戸内海地方を主産地とし、臺灣、朝鮮には天日製鹽が行はれる。

鑛業 我が國は鑛産の種類に富んで

る。その中産出の最多いのは石炭で、全鑛産價額の七割餘を占め、輸出も少くなかつたが、今は却つて輸入の方が多い。銅は世界屈指の産地ではあるが、今は殆ど自給の程度に過ぎない。その他金、銀、鐵、硫、黃、石油、亜鉛、燐礦等の産出もあるが、鐵は需用を充すに足らず、石油は大部を輸入に仰がねばならぬのは、甚だ遺憾である。

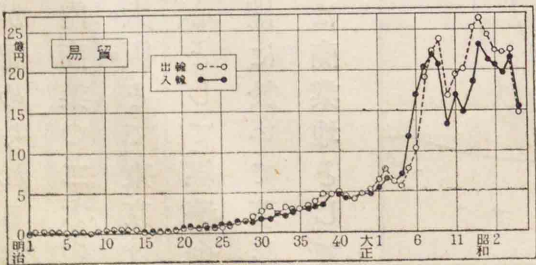
支那にも邦人の經營する紡績工場が十餘ヶ所ある



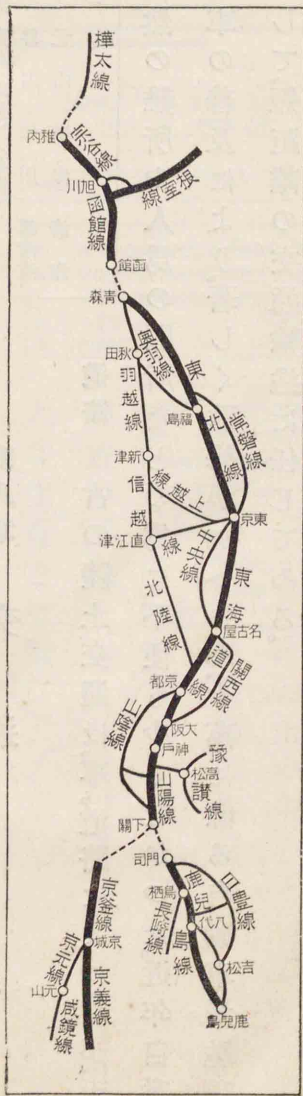
工業 我が國民は、古來手

工に長じてゐたが、近年大工業の發達と共に、在來の工業にも動力を利用し、益々産額の増加を見るに至つた。生絲は産額が世界の諸國に卓越して、輸出品中の第一

位を占め、又之を原料とする絹織物の産出も甚だ多い。綿絲紡績は、原料綿を輸入して、その生産が多額に上り、綿織物と共に工業界の巨星である。その他各種の機械工業、化學工業も著しく發展した。工業の最も盛な地方は四大工業地帯で、その産物に各



電車網の發達は京阪地方が第一である

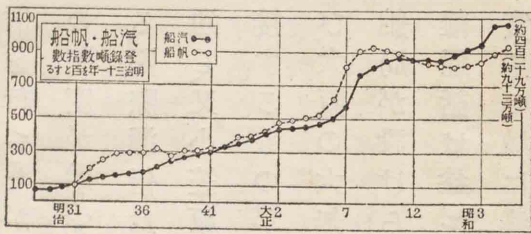


の關係から、列強と比べると鐵道網が疎な上に、大部分は狹軌制であるから、速度及び輸送力に遺憾の點はあるが、制度の整備、建設の技術は、決して他國に譲らない。

鐵道網は、東京・大阪を中心とする二地方に最も密で、この附近には、電車軌道も多く發達してゐる。近年幹線に電氣機關車の利用が、漸次實現されつゝある。

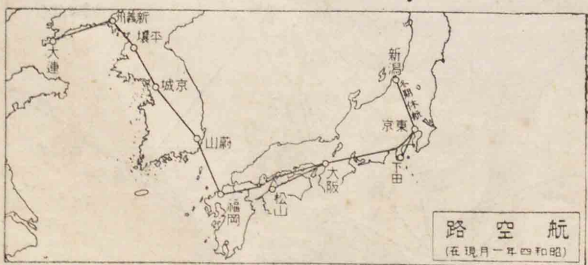
海運

四面環海の我が國は、海運に長ずべき自然の天恵を受けてゐる。世界の海運界に参加したのは、比較的近年であるが、現在の商船數は世界の第三位を占め、外國貨物輸送の運賃は、貿易入超を償ふ最大財源となつてゐる。日本郵船・大阪商船の二社は、共に世界有數の大會社で、國際的に勢力を有し、その汽船は世界の各地に就航してゐる。この他に、近海航路を主とする近海郵船、朝鮮



沿岸の運航に當る朝鮮郵船、主として揚子江航路に従ふ日清汽船、南洋航路に當る南洋郵船等の諸會社がある。

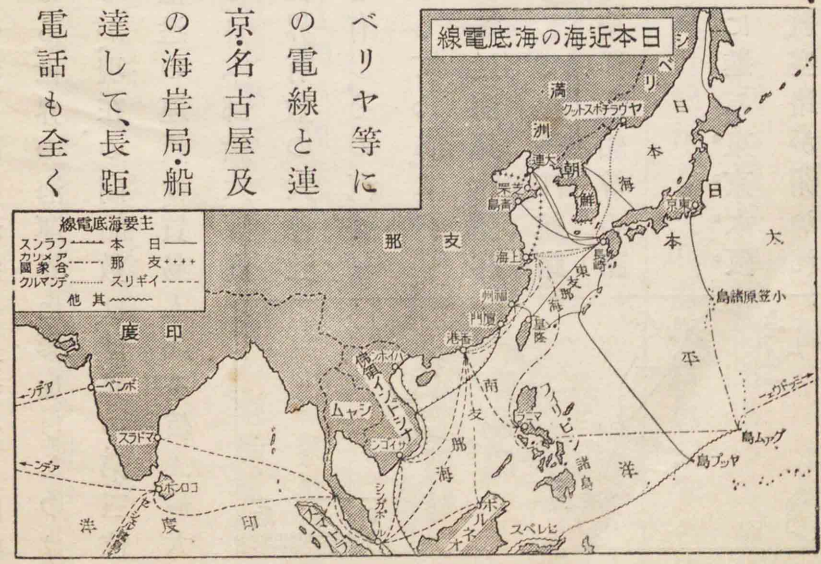
航空 飛行機も漸く實用の域に進み、東京・大阪を中心とし、朝鮮・關東州等へ定期航空路が開かれ



て、専ら旅客の輸送及び通信に當り、航空港の施設も次第に備り、支那(海間上)との間にも、最近に航空路が開かれることになった。

通信 古は専ら飛脚によつて、通信を行つたが、今は郵便及び電信の制度が殆ど完備の域に進んでゐる。國際通信は海底電線が、支那シベリヤ等に通じ、又小笠原島からは、遠く米國の電線と連接するものがある。無線電信は、東京名古屋及び大阪の大無線電信局の外、多數の海岸局、船舶局が設けられ、電話も著しく發達して、長距離通話は益、その區域を擴め、無線電話も全く實用の域に達した。

線電底海の海近本日



第九章 結論

我が帝國は建國以來三千年、世界無比の尊き歴史に輝くと共に、地理上に有する天恵も亦多大である。國の位置は世界交通の要衝を占め、氣候はよく、産物は多く、國運隆々として今は世界五大強國の一に數へられてゐる。然し我が國の世界的となつたのは、僅に六十餘年來のことで、産業の發達も、富力の程度も、尙列強に對して少なからぬ遜色がある。吾人は地理上に於ける帝國の優越な地位を利用し、益、産業の發展と國力の増進とに力を盡し、以て奉公の實を擧げなければならぬ。

新制 最近日本地理 增訂版 終

日本地理の概観
一、日本の位置
二、日本の地形
三、日本の気候
四、日本の産業
五、日本の交通
六、日本の人口
七、日本の歴史
八、日本の文化
九、日本の政治
十、日本の外交
十一、日本の国防
十二、日本の教育
十三、日本の科学
十四、日本の芸術
十五、日本の宗教
十六、日本の言語
十七、日本の民族
十八、日本の社会
十九、日本の法律
二十、日本の経済

山口縣立安下庄中
火石

広島大学図書

2000053587



版
3
87